

腸ノ充血ヨリ延テ骨盤内臓器子宮及其附屬臓器ノ充血ヲ來ス爲メ二月經過多子宮内出血妊婦ニ在リテハ流産又ハ早産ヲ惹起スルコトアリ。

此種ノ藥物ハ腸壁ヲ刺戟シテ反射的ニ腸ノ運動ヲ喚起スルノ外直接ニ腸運動ヲ主宰スル神経系ニ作用スルヤ否ヤハ未ダ全ク探明セラレズ例ヘバ蘆薈ヲ皮下ニ注射シ又ハ巴豆油ヲ皮膚ニ塗擦シテ尙且瀉下スルハ恐ラク其腸管ニ分泌セラレテ後之ヲ刺戟スルニ由ルナラン唯「ボドフィルム」脂ノ有効成分ガ内服ニ依ルヨリモ皮下注射ニ依リ容易ニ且少量ニテ瀉下セシムルハ或ハ直接神経系ニ作用スルガ故ナランカ。

腸管ニ於ケル變化

植物性下劑ノ多數ガ腸管ニ到リ變化セラレ始メテ刺戟性ヲ得ルハ既記ノ如シ。而シテ其變化ハ或ハ腸液ノ「アルカリ」性反應ニ依リ或ハ臍液或ハ細菌ノ還元作用等ニ依ルト雖モ亦膽汁ノ作用ニ待ツモノ多シ膽汁ノ爲メニ變化セラレ始メテ奏効スルモノハ加答兒性黃疸ノ如キ腸管内ノ膽汁缺乏ノ場合ニ使用シ得ラレザルガ故ニ實地上瀉下藥ト膽汁トノ關係ハ蓋シ重要ナル問題ナリ然レドモ各個ノ藥品ニ對シテ其關係甚明瞭ヲ缺クモノアリ「輓近スターデルマン」(Stadelmann)ガ膽管瘻口ヲ作レル犬ニ就テ施セル實驗ニ依レバ「ボドフィルム」脂「ヤラッパ」根「スカムモニウム」脂大黃及其有効分ハ膽汁ノ有無ニ由リ大ニ其効力ヲ異ニスルモ蘆薈、藤黃、セシムルノ作用ハ膽汁ノ存否ニ關係ナシト云フ。

植物性下劑ノ或ルモノハ既ニ小腸ノ上部ニ於テ刺戟性ヲ採リ或ルモノハ大腸ニ到リ始メテ有効トナル爲メニ奏効ノ時間ニ逕庭アルノミナラズ亦其適應症ヲ異ニス。即チ常習便秘ノ患者ニ持長センニハ大腸ニ到リ始メテ作用スルモノ之ニ適ス何トナレバ小腸ノ運動ヲ充進シ養素ノ吸收ヲ妨グルトキハ長時日ノ間ニ遂ニ榮養不良ヲ來ス可ケレバナリ之ニ反シテ痔疾等ニハ大腸下部ノ充血ヲ誘起スル藥物ヲ避ク可キガ如シ。

但シ此區別ハ嚴密ナルコト能ハズ然レドモ蓖麻子油、巴豆油等ノ脂肪油ガ小腸ノ上部ニ於テ鹼化セラレ有効トナルハ勿論ニシテ「ヤラッパ」コロシント「ボドフィルム」藤黃等モ亦通常此種ニ算セラレ「アントラキノン」誘導體ハ之ニ反シテ大腸ニ到リ奏効スルモノ、如シ。

▲蓖麻子油 Oleum Ricini

Ricinus communis ノ種子ノ皮殼ヲ除キ壓搾シテ得タル脂肪油ナリ。澄明無色或ハ類黃色濃厚ノ液ニシテ微ニ特殊ノ臭氣ヲ有ス。

蓖麻子油ハ主トシテ蓖麻子油酸グリセリンヨリ成ル。胃中ニ於テハ殆ト變化セズ。腸ニ到リ一部腸液殊ニ臍液ノ爲メニ鹼化セラレ蓖麻子油酸 Oleum ricinoleumヲ遊離ス。蓖麻子油酸ハ極メテ微弱ナル刺戟作用ヲ有シ蠕動ヲ充進シ緩下セシム。鹼化セラレザル油分ハ機械的ニ其効ヲ助ク。

内服後時トシテ嘔氣ヲ發スルコトアルハ不快ノ臭味ニ因ルト雖モ亦其一部分胃中ニテ分解シテ刺戟スルガ爲メナリ。

植物性下劑

蓖麻子油ノ作用

本藥ノ作用ハ故ニ腸ノ上部ニ始マルガ故ニ一時性便秘、中毒、消化不良等ノ際根本的ニ腸ノ内容ヲ一掃スルニ適ス。刺戟性弱ク充血ヲ發セズ、故ニ腸ノ炎症ニモ使
用セラレ得ベク、殆ト禁忌症ヲ見ズ、唯、燐、サントニーネ、綿馬ヲ内服セル際ハ却テ之
ヲ溶解シ其吸收ヲ速ニスルガ故ニ之ヲ避クベシ。

一乃至二食匙(一五〇—三〇〇)ヲ内服セシムレバ二三時間ニシテ糜粥様排便アリ、通常腹痛ヲ伴ハズ、慢性便秘ニハ少量(一茶匙)ヲ試ムベシ、然ラザレバ消化不良、食
思缺損ヲ將來ス、又排便洗腸料トシテ有効ナリ。

内服ニ際シ嫌忌スベキ味ヲ避ケンガ爲メニハ服後直チニ珈琲、薄荷、麴麩等
ヲ喫セシムベシ、之ヲ乳劑トナスハ味ヲ矯正セズシテ唯其効ヲ減ゼシムルノミ、販
賣品トシテ沸騰蓖麻子油 *Brausendes Ricinusöl* (七五%蓖麻子油二〇%甘扁桃油、五%
酒精ニ炭酸瓦斯ヲ飽和ス)、乾燥蓖麻子油、瘡乳ヲ以テ乳化シ乾燥セシム、*シツ、ア、*
リチニ— *Siccolum Ricini* (マグネシウム)劑ヲ加ヘ乾燥セシメタルモノ等、*ア、ド、*
ク行ハレズ。

蓖麻子油ヲ壓搾シタル濃滓中ニ「リチン」*Ricin*ト稱スル物質アリ其少量ヲ動物ノ血管中ニ
注射スレバ一定ノ潜伏期ノ後動物ハ徐々ニ麻痺シ數日ニシテ死ス、又之ヲ纖維素ヲ除去セ
ル血液ニ加フルトキハ血球相膠着シテ凝結ス、該物質ハ未ダ全然精製セラレザルモ畏ラク
蛋白質物質ニシテ細菌ノ毒素ニ類似スルモノナラン、「リチン」ヲ反覆シテ動物ニ注射スルト
キハ動物ハ遂ニ免疫セラレ其血精中ニ抗毒素「アンチリチン」*Antiricin*ヲ含有ス「リチン」ハ蓖

「リチン」

麻子油中ニハ存在セズ。

次ニ論ズル巴豆油中ニモ亦之ニ類似セル「クロチン」*Crocin*ヲ含有ス、但其毒性弱シ、同一ノ
作用ヲ有スル「アブリン」ハ既ニ之ヲ皮膚刺戟藥ノ終リニ述ベタリ。

▲巴豆油 *Oleum Crotonis*

*Croton Tiglium*ノ子皮ヲ除キタル種子ヲ壓搾シテ得タル脂肪油ナリ、帶褐黄色稍濃厚ノ液ニ
シテ特殊不快ノ臭氣ヲ有シ酸性ノ反應ヲ徵ス、極量一回〇〇五—日〇—五。

巴豆油ノ作用

有効分ハ巴豆油酸 *Acidum crotonoleum*ト稱スル猛烈ナル刺戟性ヲ有スル脂肪酸
ニシテ其大部分ハ「グリセリン」ト結合シテ中性油ヲナスモ、一部分ハ遊離シテ存在
スルガ故ニ、之ヲ健康皮膚ニ塗擦スレバ發赤、浮腫、水泡次デ膿泡ヲ發スルニ至ル、皮
下ニ注射スレバ蜂窩織炎ヲ發シ化膿ス、内服スレバ極メテ少量ト雖モ口腔咽頭ニ
灼感ヲ殘シ、胃ニ至リ嘔氣ヲ喚起シ、腸ニ至リ中性油ノ鹼化ニ由リ更ニ其刺戟性ヲ
倍增シ半乃至二三時間ニシテ始メハ普通便ヲ後數回ノ水便ヲ排泄セシム。
峻下藥トシテ罕ニ他藥ノ奏効セザル極メテ頑固ナル便秘症ニ使用セラル、ノ
ミ、半乃至一滴ヲ蓖麻子油又ハ「オレイン」油ニ混シ内服セシム。
致死量ハ約二十滴ナリ、急性腸炎、虎列刺様下痢ヲ發シ虚脱ニ陥リ死ス。
皮膚刺戟藥トシテハ今之ヲ用キズ。

▲「ヤラ」根 *Radix Jalapae*

*Exogonium Purga*ノ球形ニ肥大セル副根ヲ採集乾燥セルモノ、味淡泊ニシテ苛辣ナリ。
植物性下劑

「ヤラッパ」類ノ作用

約七%ノ樹脂「ヤラッパ」脂ヲ含有ス。樹脂ノ大部分ハ「コンヴォルヅリン」Convulvulinト稱スル糖原質性ノ無水酸ヨリ成ル。是レ本藥ノ有効成分ナリ。「コンヴォルヅリン」自己ハ刺激性ヲ有セズ小腸ニ到リ胆汁ニ逢フテ分解シ初メテ効力ヲ呈スルガ故ニ加答兒性黄疸等ノ如キ胆汁缺如ノ場合ニハ無効ナリ。

少量(〇・五ニテ緩下シ常習便秘者ニ用キテ長ク其効力ヲ減ゼズ。大量(一・〇―二・〇)ハ峻下ノ効アリ二三時間ニシテ瀉ス。散丸又ハ舐劑トナシ通常他藥ニ配シ内服セシム。

處方。「ヤラッパ」根末〇・五精製酒石〇・九生薑根末〇・二右爲故早朝一包内服。腸ニ炎症アルトキ又ハ月經時、妊娠時ニ使用スベカラズ。

▲「ヤラッパ」脂 Resina Jalapae

「ヤラッパ」根末ヲ酒精ヲ以テ溫浸シ其水ニ溶解セザル部分ヲ集メ得タル樹脂ナリ。褐色ノ塊ニシテ破碎シ易シ。極量一回〇・三―一日一・〇。

〇・〇五―〇・三ヲ丸又ハ散トナシ内用。處方。「ヤラッパ」脂「ヤラッパ」根末、蘆薈、越幾斯藥用石鹼各二・五、五十九ト爲シ常習便秘ニ對シ朝夕一乃至二九ツ、内服。

▲「ヤラッパ」石鹼 Sapo Jalapinus

「ヤラッパ」脂細末藥用石鹼各等分ヲ混和シ製ス。用量ハ「ヤラッパ」脂ノ倍量、主トシテ瀉下丸劑ノ調製ニ使用セラル。

△「スカムモニウム」脂 Resina Scammonii

Convulvus Scammonium ノ樹脂ニシテ「ヤラビン」Jalapinト稱スル「コンヴォルヅリン」様ノ無水酸ヲ含有ス。「ヤラッパ」脂ト同効ニシテ、用量其半ニテ足レリ。

▲「コロシント」實 Fructus Colocynthis

Citrullus Colocynthis ノ果實ヲ採集シ、其堅キ外皮ヲ剝除シ乾燥セルモノ、球形ヲナシ臭氣ナク、味極メテ苦シ。

有効分「コロシンチン」Colocynthinハ劇烈ナル苦味ヲ有スル可溶性ノ糖原質ニシテ之ヲ皮下ニ注射スルモ亦下痢及腸ノ炎症ヲ發ス。

本藥ハ峻下藥ニ屬スルモノニシテ屢、腸ノ充血、炎症ヲ喚起シ、甚シキ腹痛ヲ伴ヒ數回ノ水瀉ヲ來ス。故ニ通常少量ヲ他藥ニ配シ、常習便秘患者等ニ使用スルノミ、内服後其有効分吸收セラレ尿ニ出デ腎臟ノ充血ヲ來シ、又ハ乳汁ニ出デ、哺乳兒ニ下痢ヲ喚起スルコトアリ。内用量〇・〇一―〇・三。

▲「コロシント」越幾斯 Extractum Colocynthis

「コロシント」實ヲ稀酒精ヲ以テ浸出シ、蒸發セシメタルモノ、黃褐色ニシテ水ニ溷濁シテ溶解シ、味甚苦シ。極量一回〇・〇五―一日〇・一五。

〇・〇五―〇・〇五ヲ他藥ニ加ヘ丸劑トナシ内服。

▲「コロシント」液 Tinctura Colocynthis

十倍ノ酒精ヲ加ヘ製セル黃色ノ液ニシテ甚シキ苦味ヲ有ス。極量一回一・〇―一日三・〇。

植物性下劑

「コロシント」實

通常五乃至十滴内用、稀ニ三十乃至四十滴ヲ與ヘテ峻下セシメ以テ遠隔部ノ臓器ノ炎症ヲ減消セシメントスルコトアリ。

▲「ポドフォルム」脂 Resina Podophylli

Podophyllum peltatum ノ根ヨリ得タル樹脂ナリ、黄色或ハ帶緑褐色ノ粉末或ハ類黄色或ハ帶褐色ノ塊ヲナシ、味苦ク水ニ殆ド溶解セズ、極量一回〇・二―日〇・三。

有効成分ハ「ポドファイロトキシニン」Podophylotoxin 及「ピクロポドフィリン」Picropodophyllin ナリ、共ニ無水酸ノ性質ヲ帶ビ、水ニ溶解シ難ク「アルカリ」ニ溶解ス。前者殊ニ有効ニシテ之ヲ皮下ニ注射スルモ數時間ノ後下痢竝ニ胃腸ノ炎症ヲ發ス。

大量ノ内服ハ峻下作用アリ、腹痛竝ニ腸ノ刺戟症狀、稀ニ其出血ヲ伴フ。少量ハ緩和ニシテ十二乃至二十四時間後ニ軟便ヲ排泄セシム。

本薬ノ作用ニハ胆汁ノ存在必要ナリ、然レドモ又胆汁ノ分泌ヲ亢進セシムル効アリトナシ之ヲ加答兒性黄疸ニ應用スル人アリ。

通常其〇・〇一―〇・〇三ヲ蘆苳等ト伍シ丸劑トナシ、慢性便秘ニ内服セシム。

▲「腰黄」Gutti

Garcinia 屬ノ植物ヨリ得タル「ゴム」樹脂ナリ、帶緑黄色ノ塊ニシテ容易ニ破壊ス。極量一回〇・三―日一〇。

七二%ノ「ガムボギア」酸、二三%ノ「ゴム」、五%ノ水ヲ含有ス。有効成分ハ「ガムボギア」酸

腰黄

「ポドファイロ」
脂

ニシテ腸ニ到リ胆汁ニ由テ變化セラレ刺戟性ヲ取ル。「ゴム」モ亦多少其効ヲ助ク。峻下薬ニシテ比較的少量ニテ數回ノ稀薄便ヲ瀉セシム。多量ハ腹痛、腸炎ヲ發シ又骨盤内臓器ノ充血ヲ誘起ス。常量一回〇・〇二―〇・〇二、丸劑トナシ内服セシム。

「アントラキノン」誘導體

「アントラキノロン」Anthraquinon $C_{14}H_{10}O_2$ ハ「石炭」タール中ニ存在スル「アントラツェン」Anthracen $C_{14}H_{10}$ ノ酸化産物ナリ。「アントラキノロン」ノ誘導體ニシテ植物性瀉下薬ノ中ニ含有セラル、モノ其數蓋シ多大ナルベシ。就中其最著名ナルヲ「クリソファン」酸 Chrysophansäure $C_{14}H_8O_4(OH)_2CH_2$ ト稱セラル、二酸化「メチール」アントラキノリン及「エモヂン」Emodin $C_{14}H_8O_4(OH)_2CH_2$ ト稱セラル三酸化「メチール」アントラキノリントナス。

「アントラキノロン」誘導體ハ一部分原形ノマ、大部分ハ糖ト結合シテ所謂糖原質トナリ生薬中ニ含有セラル。是等糖原質ハ直接ニ刺戟作用ヲ有セズシテ、腸液又ハ胆汁等ノ作用ニ由リ極メテ徐々ニ分解セラレ單純ナル化合物トナリ初メテ作用スルガ故ニ其効ハ大腸ニ到リテ始メテ現ハル。故ニ内服後長時間ノ後腹痛ヲ伴ヒ軟便ヲ排泄スルヲ常トス。從テ其適應症ハ主トシテ常習便秘ニシテ多數ノ月日ニ互リ之ヲ持長スルモ榮養障害等ヲ發スルコト尠シ。

此種ノ瀉下薬ヲ内服スレバ尿中ニ分解形成セル「クリソファン」酸ヲ排出シ尿ハ爲

「アントラキノロン」誘導體ノ作用

排泄

植物性下劑

五六

メニ深黄色或ハ帶黃褐色トナリ、之ニ「アルカリ」ヲ加フレバ赤色トナル又乳汁中ニ分泌セラレ乳兒ニ下痢ヲ發スルコトアリ、授乳婦ニ使用スベカラズ。

▲大黃 Radix Rhei

Rheum 屬植物ノ根莖ヲ採集シ、皮部ノ大半ヲ剝除シ乾燥セルモノナリ、其粉末ハ深橙黄色ヲ有シ、味微ニ芳香性ニシテ苦シ。

種々ノ酸化「メチールアントラキノトン」「クリソファン」「酸」「エモチン」及「レイン」(Rhein) 及其糖原質ノ外大黃鞣酸及苦味素ヲ含有ス。

少量〇〇五—〇二ニテ内服セシムレバ鞣酸及苦味素ノ爲メニ收斂健胃ノ作用アリ、胃腸加答兒ニ適ス。大量〇五—二〇ハ緩下作用アリ、六乃至十時間ニシテ糜粥狀ノ排便アリ、其作用極メテ緩和ナルガ故ニ小兒又ハ貧血衰弱セル患者竝ニ恢復期等ニ適ス。又常習便秘ニ持長シテ年餘ニ互リ有効ナリ、但シ廢藥スレバ却テ便秘ヲ來タスハ其鞣酸ヲ含有スルガ爲メナリ、更ニ大量二〇—四〇ヲ與フレバ數回ノ排便ヲ來ス。

通常他藥ニ配シ散劑又ハ丸劑トナシ内服セシム。

▲大黃越幾斯 Extractum Rhei

褐色ノ乾燥越幾斯ニシテ水ニ瀉濁シテ溶解ス。

健胃藥トシテハ〇一—〇五、緩下藥トシテハ〇五—一〇、通常丸劑トナス。

▲大黃丁幾 Tinctura Rhei

大黃十分桂皮小豆蔻各一分酒精水各五十分ヲ取り冷浸、壓搾、濾過シ製セル澄明帶褐黄色ノ液ナリ。

他ノ苦味藥、芳香藥ト伍シ半乃至一茶匙ヲ健胃藥トシテ内服セシム。

▲水製大黃丁幾 Tinctura Rhei aquosa

大黃十分、炭酸カリウム、硼酸ナトリウム各一分ニ沸騰水ヲ注ギ其濾液ニ桂皮水ヲ加ヘ百分トナシタルモノ、赤褐色ノ液ニシテ「アルカリ」性ノ反應ヲ微シ、大黃ノ氣味ヲ有シ、水ニ瀉濁シテ混和ス。

用量、消化藥トシテハ一茶匙、緩下藥トシテハ一食匙。

▲大黃舍利別 Sirupus Rhei

前藥ト同一ノ成分ヲ二倍ノ稀釋度ニ於テ含有スル澄明褐黄色ノ舍利別ナリ。

小兒ノ緩下藥トシテ一茶匙ヲ單獨ニ或ハ合劑トナシ内服セシム。

▲複方大黃散 Pulvis Rhei compositus

大黃末二分、假製「マグネシア」六分、生薑末一分ヲ混和シ製ス。

少量二〇ハ健胃、收斂、制酸、大量二〇—三〇ハ緩下ノ効アリ。

▲小兒散苦土大黃散 Pulvis infantum (Pulvis Magnesia cum Rho)

炭酸「マグネシウム」十分、大黃末三分、茴香油糖七分ヲ混和シ製ス。

小兒ノ消化不良、夏期下痢又ハ便秘等ニ對シ年齢ニ應ジ一刀尖ヨリ一茶匙ニ至

ル、内服。

▲「フランゲラ皮」Cortex Frangulae

Rhamnus Frangula ノ幹及枝ノ皮ヲ採集セル後、少ナクモ一箇年間貯藏セルモノ、味粘液性ニシテ微ニ苦甘ナリ。

諸種ノ「アントラキノン」糖原質ヲ含有ス、其一ヲ「フランゲリン」Frangulinトナス、結晶性ニシテ之ヲ分解セシムレバ糖ト「エモデイン」トヲ生ズ。

新鮮ナル「フランゲラ皮」ハ効力屢、劇烈ニ過ギ惡心嘔吐等ヲ伴フコトアリ、是レ局方ニ一箇年以上ノ貯藏ヲ規定セル所以ナリ、斯ノ如キ副作用ハ短時間百度ニ熱スルバ亦能ク除却セラルト云フ。

緩下薬トシテ一〇%ノ煎劑ト云ナシ、橙皮合利別等ヲ加ヘ毎二時一食匙ヅ、奏効スルマデ内服。

▲「カスカラサゲラダ」Cascara sagrada (Cortex Rhamni Purshiana)

Rhamnus Purshiana ノ皮ヲ採集乾燥セルモノニシテ味苦シ。

「フランゲラ皮」ト同効煎劑等トナシ常習便秘ニ用ユ。

▲「カスカラサゲラダ」流動越幾斯 Extractum Cascarae sagradae fluidum (Extractum Rhamni Purshiana fluidum)

暗褐色澄明ノ液ナリ、常習便秘ニ對シ半乃至一茶匙ヲ一日二三回内服。

「フランゲラ皮」

△「レグリン」Regulin

鱗狀ノ粉末ニシテ無味ナリ。

二〇%ノ「カスカラサゲラダ」越幾斯ヲ加ヘ乾燥セシメタル寒天ヲ粉碎セルモノナリ、寒天ハ胃腸ニ於テ水分ヲ取り膨脹シ便ヲ柔軟ナラシメ其容積ヲ増シ「カスカラ」成分ト共ニ極メテ微弱ナル刺激ヲ腸粘膜ニ與フ。

常習便秘ニ對シ一茶匙乃至一食匙ヲ一日一二回内用、初メハ比較的少量ヲ與ヘ且坐劑洗腸等ヲ併用シテ、其効ヲ助ケ後徐々ニ減量シテ終ニ廢藥スルニ至ルベシ。

△「パラレグリン」Pararegulin

九十分ノ流動「パラフィン」ト十分ノ「カスカラ」越幾斯ヨリ成ル、三〇%ノ膠凝劑トシテ販賣セラ

ル。常習便秘ニ對シ「レグリン」ト同一ニ作用ス。

△「カリフ」Califig

「カルフォルニア」州ニ産スル無花果ヨリ製シタル舍利別ナリ、暗褐色ノ液ニシテ香味共ニ佳快ナリ。

慢性便秘ニ緩下ノ効アリ、一回ノ排便ヲ喚起スルニハ半乃至一食匙ヲ與フレバ六乃至八時間後ニ奏効シ腹痛ヲ伴ハズ、常習便秘ニハ一乃至二茶匙ヲ毎夕内服セシム、持長スルモ習慣スルコトナシ。

植物性下劑

▲「センナ」葉 Folia Sennae

二種アリ一ハ「チンネウエリー」センナ葉ト稱シ Cassia angustifolia ノ葉一ハ「アレキサンドリ」センナ葉ト稱シ Cassia acutifolia ノ葉ナリ。

大黃、フラングラー皮等ト類似ノ糖原質及少量ノ「エモヂン」及「クリソファン」酸様ノ物質ヲ含有ス。

大黃及「フラングラー」皮類ノモノニ比シ作用少シク強ク、少量(一〇―二〇)ニ於テハ約六時間ニシテ軟便ヲ排泄セシメ、大量(四〇―五〇)ニ於テハ數回ノ軟便又ハ水便ヲ瀉セシメ通常多少ノ腹痛ヲ伴フ。

主トシテ一時性便秘ニ用ユ(一〇―二〇―四〇)ヲ浸劑トナス。腸ノ炎症ニハ禁忌タリ。

「センナ」葉内服後嘔氣嘔吐等ヲ惹起スルコトアルハ其樹脂様物質ヲ含有スルガ爲メナリ。豫メ酒精ヲ以テ浸出シ其樹脂分ヲ除去スルトキハ瀉下ノ効ヲ減ズルコトナク此不快ヲ避ケ得ベシト云フ。

▲複方「センナ」浸劑 Infusum Sennae compositum

「センナ」葉ノ浸劑ニ酒石酸カリウム、ナトリウム、炭酸ナトリウム、及「マンナ」ヲ加ヘ製セルモノナリ。

一乃至二食匙ヅ、毎二時内用、奏効ニ至ル。

▲複方「センナ」醃劑 Electuarium Sennae compositum

「タマリンド」「甘草」越幾斯、白糖「センナ」葉、橙皮末、茴香末、沈降硫黃、重酒石酸カリウムヲ含ム類褐色ノ軟塊ナリ。

緩下藥トシテ小兒ニ毎回一茶匙内用。

▲「センナ」舍利別 Sirupus Sennae

「センナ」葉十分茴香一分ヲ取り百分ノ舍利別トナセルモノ、澄明褐色ノ液ナリ。

緩下藥トシテ乳兒一茶匙、小兒一小兒匙、大人一食匙。

▲「センナ」マンナ舍利別 Sirupus Sennae cum Manna

「センナ」葉、「マンナ」及茴香ヲ以テ製セル暗褐色舍利別稠ノ液ナリ。用量小兒ニ對シ一茶匙。

▲複方甘草散 Pulvis Liquiritiae compositus

甘草末十五分「センナ」葉末十五分、茴香十分、精製硫黃十分、白糖五十分ヲ混和シ製セル類褐色ノ粉末ナリ。用量一茶匙乃至一小兒匙。

▲緩下茶劑 Species laxantes

「センナ」葉百六十分、接骨木花百分、茴香五十分、「アニス」實五十分、酒石酸カリウム二十五分、酒石酸十五分ヨリ成ル。

一小兒匙ニ一杯ノ沸湯ヲ注ギ濾過シ内用。

▲「蘆薈」 Aloe

亞非利加ニ産スル Aloe 屬諸種植物ノ葉ヨリ採集セル津液ヲ煎稠シテ得タル暗褐色ノ塊植物性下劑

ニシテ破碎シ易ク、破片ハ透明ニシテ硝子様ノ光澤ヲ帯ビ鏡檢スルニ結晶性ヲ呈セズ、臭氣ハ特異ニシテ味ハ苦シ。

蘆薈ノ販賣品ニ諸種アリ、肝樣蘆薈 *Aloe hepatica* ト稱スルモノハ多量ノ結晶ヲ含ミ透映蘆薈 *Aloe Indica* ト稱スルモノハ無晶形ナリ。上記局方規定ノ性状ハ此後者ヲ指スモノナリ。

蘆薈ノ有効成分ハ「アロイン」 $\text{Aloin } \text{C}_{12}\text{H}_{22}\text{O}_{11}$ (又ハ $\text{C}_{12}\text{H}_{20}\text{O}_{10}$) ト稱スル特殊ノ物質ト「アロイン」ノ分解ニ由テ生ジタル蘆薈エモデント、多量ノ「アントラキノーン」糖原質ナリ。其他鞣酸ノ反應ヲ呈スル糖原質ヲ含有ス。

「アロイン」ハ蘆薈ノ種類ニヨリ性質ヲ異ニス。肝樣蘆薈ヨリ析出セルモノハ結晶性ニシテ、水ニ溶解シ効力弱ク透映蘆薈中ノモノハ無晶形ニシテ効力大ナリ。又「ナタール」蘆薈中ニハ「ナタロイン」 $\text{Kataloin } \text{C}_{12}\text{H}_{18}\text{O}_7$ ヲ含有ス。結晶性ニシテ水ニ溶解セズ、又其分解極メテ緩慢ナリ、故ニ「ナタール」蘆薈ハ之ニ「アルカリ」ヲ加ヘ其分解ヲ促サシムルニ其効力甚微弱ナリ。

蘆薈ハ主トシテ大腸ノ下部ニ作用スル藥物ナルガ故ニ〇・二—〇・五ヲ内服セシムレバ八乃至十五時間ニシテ半硬ノ排便アリ、腹痛ハ輕ク或ハ之ヲ缺ク、又便秘ヲ繼發セズ、故ニ常習便秘ノ治療ニ適ス。但シ頑固ナル症ニハ大量ヲ要シ、然ルトキハ容易ニ骨盤内臓器ノ充血ヲ來スガ故ニ不可ナリ。

從テ蘆薈ハ通經藥トシテ使用セラル、而シテ痔疾、生殖器ノ炎症、出血竝ニ月經時、妊娠中ニム之ヲ使用スベカラズ、

少量〇・〇—〇・一〇〇三(一日三回)ハ健胃苦味藥トシテ消化不良、慢性胃加答兒ニ適

蘆薈ノ作用

ス。又萎黃病、貧血等ニ鐵劑ニ加ヘ其秘結作用ヲ防ギ且消化ヲ催進スルノ効アリ、常習便秘ニハ〇・一—〇・四ヲ丸劑トナシ毎夕内服セシムレバ翌朝排便ス。

▲蘆薈越幾斯 *Extractum Aloes*

蘆薈ヨリ樹脂分ヲ除キタル黃褐色ノ乾燥越幾斯ニシテ効力之ニ優ル。應用用量凡ソ蘆薈ノ如シ。

▲蘆薈丁幾 *Tinctura Aloes*

五倍ノ酒精ヲ以テ製セル深褐色ノ液ニシテ甚キ苦味ヲ有ス。

五乃至二十滴ヲ健胃藥トシテ使用ス。

▲複方蘆薈丁幾 *Tinctura Aloes composita*

蘆薈六分、大黃一分、ゲンチアナ根一分、莖蓮一分、サフラン二分、稀酒精二百分ヲ以テ製セル帶黃赤褐色芳香性ノ液ニシテ味甚苦シ。半乃至一茶匙ヲ健胃藥トナス。

▲複方大黃丸 *Pilulae Rhei compositae*

蘆薈越幾斯二分、大黃越幾斯六分、ヤラッパ脂一分、藥用石鹼四分ヲ取り製ス。

常習便秘ニ毎夕二三粒ヲ内服セシムレバ翌朝排便ス。

▲蘆薈「ヤラッパ」丸 *Pilulae Aloes et Jalapae*

蘆薈「ヤラッパ」石鹼甘草末各等分ヲ取り約〇・一五ノ丸子トス、用法上ニ同ジ。

▲蘆薈丸 *Pilulae Aloes*

蘆薈藥用石鹼各等分ヨリ製ス、用法同上。

植物性下劑

▲**蘆香鐵丸** *Pilulae Aloes et Ferri*

乾燥セル硫酸鐵、蘆香各等分ヲ取り製ス。

緩下薬トシテ毎夕一乃至五丸、殊ニ萎黄病ニ用ユ。

▲**蘆香阿魏丸** *Pilulae Aloes et Asae foetidae*

蘆香、阿魏、藥川石、蟻蜂蜜各等分ヲ取り約〇・一ノ重量ヲ有スル丸子トナス。

一日數丸、ヒステリ―患者ノ便秘ニ對シ用ユ。

△**プルガチン**〔*プルガトール*〕 *Purgatin* (*Purgatol*)

二「アセチール三酸化」アントラキノーンニシテ、人工的製品ナリ。帶褐黄色結晶性ノ粉末ニシテ、水及稀薄酸ニ溶解セズ。

胃ニ於テハ溶解セズ、腸ニ到リ分解シ緩下作用ヲ呈ス。〇・五―一・〇ヲ内服スレバ十乃至十二時間ニテ糜粥様ノ便ヲ排泄セシム。服薬後ノ尿ハ黄色ニシテ衣類ニ附著スレバ之ヲ赤染ス。

△**エキソチン** *Exodin*

無臭無味黄色ノ粉末ニシテ水ニ溶解セズ。

緩下薬トシテ一・〇―一・五ヲ頓服セシム。尿ヲ暗色トナスモ衣類ヲ著色スルコトナシ。

人工「アントラキノーン」
劑

△**フェニールフタレイン**〔*フルゲン*〕 *Phenolphthalein* (*Purgen*) $C_{20}H_{14}O_3$

帶黄白色無味ノ粉末ニシテ殆ド水ニ溶解セズ、其溶液ハ「アルカリ性」ニ於テ薑紅色ヲ呈シ酸性ニテハ無色ナリ、故ニ化學的試験ノ際指示薬トシテ使用セラル。

内服スレバ腸ニ至リ「ナトリウム」鹽トナリ溶解シテ緩下作用ヲ呈ス。腸管ヨリ吸收セラレ難ク、其八〇%以上ハ便ト共ニ排泄セラル、從テ殆ト吸收作用ヲ見ルコトナシ。内服後四乃至六時間ニシテ糜粥様ノ排便アリ、單純又ハ常習性便秘ニ對シ無害ナル良薬タリ。

各〇・〇五、〇・一及〇・五ヲ含有スル丸劑及錠劑トナシ販賣セラル、第一ハ小兒ニ、第二ハ大人ニ、第三ハ平臥患者及妊婦ニ適ス、通常〇・一ノ丸子ヲ一乃至三粒内服セシムレバ快通ス。

副作用トシテ腹痛、裏急後重等ヲ訴ヘ又ハ出血性腎臟炎ヲ發スルコトアルモ例外ニ屬ス、優良ナル一緩下薬タルヲ失ハズ。

△**オイラクサンス** *Eulaxans*

一分子ノ「フェニールフタレイン」ト一分子ノ水酸化「ナトリウム」ヨリ成ル「プルゲン」ニ比シ少量ニテ奏効スト云フ。

△**アペリトール** *Aperitol*

異性「レリール」アセチール「フェニールフタレイン」ナリ、錠劑トシテ販賣セラル。
植物性下劑

「フェニール
フタレイン」
ノ瀉下作用

大人二錠、小兒半乃至一錠、平臥患者三乃至四錠、服後四乃至十二時間ニシテ軟便ヲ排泄ス。

三 硫黃劑

硫黃自己ハ作用ヲ有セザルモ内用スレバ腸ニ到リ小大腸ノ壁ニ存在スル特殊ノ蛋白質並ニ細菌ノ作用ニ由リ還元セラレ硫化水素 H_2S トナリ腸運動ヲ亢進セシメ以テ排便ヲ促ス。此還元極メテ緩慢ナルガ故ニ其作用モ亦緩和ニシテ糜粥様ノ軟便ヲ排泄スルヲ常トス但シ沈降硫黃ノ如キ極メテ微細ナル粉末ハ比較的盛ニ還元セララル、ガ故ニ水瀉ヲ惹起スルコトアリ。

硫黃ヲ還元スル蛋白ハ胃壁ニ存在セズ故ニ胃ニ於テハ作用スルコトナシ。

從來硫黃ハ腸中ノアルカリニ依リ硫化アルカリト成リ腸壁ヲ刺戟スルモノトセラレタルモ非ナリ腸管内ニハ炭酸量大ナルガ故ニ此反應ハ不可能ナリ。

硫化水素ハ常態ニ於テ大腸中ニ少量ニ發生シ生理的ノ蠕動運動ヲ喚起スルモノ硫黃劑ヲ與フレバ則チ之ヲ増量セシム。

内服シタル硫黃ノ大部分ハ原形ノマ、糞便ト共ニ排泄セララル形成セル硫化水素ハ一部ヲ吸收セラレ一部ハ皮膚及肺臟ヨリ排出セラレ他ハ酸化セラレテ硫酸トナリ尿中ニ現ハル。

硫黃ヲ脂肪ニ溶解シ皮膚ニ貼用スレバ皮膚分泌物ニ遭ヒ硫化アルカリヲ形成シ表皮ヲ軟化シ寄生體ヲ殺滅スルノ効アリ(角質溶解藥ノ部參照)。

硫黃ノ瀉下作用

亞硫酸瓦斯ノ消毒作用

硫黃ノ外用

亞硫酸瓦斯ノ消毒作用

硫黃ヲ燃燒スレバ亞硫酸瓦斯 SO_2 ヲ發生ス。亞硫酸瓦斯ハ劇烈ナル還元作用ト一般ノ酸類作用ト、生物ニ對スル特殊ノ毒性トニ由リ殺菌作用ヲ逞フス。故ニ硫黃燻蒸法ハ病室等ノ消毒ニ使用セラレタルモ器物ヲ損ジ且其効力全ク確實ナリト云フヲ得ザルガ故ニ今ハ多ク用キラレズ(其法室ノ容積一立方迷ニ對シ硫黃一五〇ヲ燃燒シ、一二日ノ後、アムモニア水ニテ之ヲ洗滌ス)。

▲精製硫黃 Sulfur depuratum S

昇華硫黃ヲアムモニア水ニテ洗滌精製シタルモノ黄色乾燥微細ノ粉末ニシテ臭味ナシ。

緩下藥トシテ二〇—三〇ヲ内服セシム。便、放屁、汗、呼氣等ニ惡臭ヲ與フルノ不快アリ、又持長スレバ腸ノ刺戟症狀ヲ發ス。

外用ハ二〇—三〇%軟膏トナス。

▲沈降硫黃(硫黃乳) Sulfur praecipitatum (Lac sulfuris) S

極メテ細微ナル帶黄白色無晶形ノ粉末ナリ。精製硫黃ノ半量ニテ緩下ス。

處方。沈降硫黃煨製マグネシア各五〇。精製酒石茴香油糖各二〇〇。一日三回一茶匙内用。

外用ニハ例ヘバ瘡癩ニ對シテ

處方。沈降硫黃炭酸カリウムニグリセリン、苦扁桃水、稀酒精各一〇〇。混和「ペースト」劑トナシ臨臥貼布翌朝洗取ス。

硫黃劑

第二十六章 制瀉藥 Antidiarrhoica, Obstipantia

制瀉藥ハ下痢ヲ抑制スル藥物ナリ。下痢ガ腸運動ノ亢進若クハ腸管内ニ於ケル水分吸收ノ減退ニ由テ來ルコトハ前章ニ於テ之ヲ盡セリ。而シテ病的ノ下痢ハ其原因ニ由リ之ヲ制遏スベキモノト然ラザルモノトアリ。

一、局所刺激性ヲ有スル物質ヲ攝取シ(例ヘバ腐敗セル食物)或ハ斯ノ如キ物質ガ消化管内ニ於ケル異常分解ニ由リ又ハ細菌ノ産物トシテ發生セルトキ(例ヘバ小兒ノ夏期下痢)ハ其化學的刺戟ニ依リ又多量ニ不消化物ヲ攝取セルトキ或ハ頑固ナル滯便等アルトキハ機械的ニ腸壁ヲ刺戟シテ運動ヲ亢進セシメ下痢ヲ發ス。此種ノ場合ニハ下痢ハ極メテ自然的ニシテ例ヘバ藥物ニ由テ直接ニ該刺激性物質ヲ中和シ得ザル限リハ之ヲ抑制ス可カラズ。寧ロ瀉下藥ヲ與ヘテ更ニ下痢ヲ盛ニシ腸内ヲ一掃スルカ或ハ化學的刺戟ノ場合ニハ粘滑性藥物ヲ與ヘテ之ヲ緩和セシムベシ。下痢自ラ治ス。

然レドモ是等ノ原因ニテ既ニ腸管ニ炎症ヲ來シタルトキハ假令其原因除却セラル、モ尙長ク下痢症ヲ殘留スルコトアリ。乃チ制瀉藥ヲ要ス。

二、腸壁ニ潰瘍創面ヲ生ジ又ハ腹膜ニ炎症等アルトキモ亦其刺戟ニ由リ腸ノ運動ヲ亢進セシム。此場合ニハ下痢ハ何等ノ意義ヲ有セズ却テ腸ノ刺戟ニ依リ是

制瀉藥ノ適應症

制瀉藥ノ種類

等疾病ノ癒期ヲ遷延セシムルノミ速ニ之ヲ抑制ベシ。

制瀉藥ヲ別チ二類トナス。即チ

一、腸運動ヲ抑制スルモノ、

二、腸收斂藥

是レナリ。一ハ所謂神經筋毒ニ屬スルモノニシテ腸運動ヲ主宰スル神經系及筋ニ作用スルモノ。主トシテ腸管ヲ静止セシムルノ効アリ。二ハ殊ニ腸ノ分泌ヲ減シ又其充血ヲ去ルノ用ヲナス。而シテ下痢ノ原因ノ如何ニ由リ或ハ其一ヲ選ビ或ハ兩者ヲ併用スルコトアリ。

腸管ノ運動ヲ静止セシメンガ爲メニ使用セラル、モノハ「モルヒネ」及「阿片劑」ヲ以テ主トナス。迷走神經ノ刺戟ニ由テ來レル下痢腸痙攣ニ對シテハ又「アトロピン」及其製劑ヲ用ユルコトアリ。而シテ是等ハ既ニ鎮痛藥及散腫藥ノ條下ニ於テ詳論シタルガ故ニ茲ニハ專ラ腸收斂藥ニ就テ述フベシ。

腸收斂藥

收斂藥ヲ腸ニ作用セシメンニハ不溶解性ニシテ少クモ大部分ハ胃ヲ通過シ腸ニ至リ徐々ニ其作用ヲ呈スルモノヲ選ブベシ。然ラザレバ胃及腸ノ上部ニ於テ蛋白質ト結合シ其固有ノ性質ヲ失フ。故ニ重金屬鹽ニ屬スルモノニテハ次硝酸蒼鉛ノ如キ、又ハ「デルマトール」ノ如キ不溶解性物質之ニ適ス。

腸收斂藥

鞣酸劑ニ於テモ其關係同一ナリ。タンニン酸ハ之ヲ内服スルトキハ往々胃ノ消化機能ヲ害スルノミナラズ、消化管ノ上部ニ於テ其作用ヲ失フガ故ニ、腸粘膜上ニ普ク其收斂作用ヲ呈セシムルコト能ハズ。之ニ反シ鞣酸ヲ含有スル生藥例ヘバ五倍子、阿仙藥、キノ及其製劑ニ於テハ、鞣酸ハ膠樣植物質ニ被包セラレ、ガ故ニ有効ノ形ニ於テ腸ノ下部ニ達シ能ク之ヲ收斂ス。(收斂藥ノ部參照)

近年續々製出セラレ、人工的鞣酸化合物ノ多數ハ水並ニ酸性胃液ニ不溶性ニシテ、腸ニ到リ徐々ニ分解シ初メテ有効トナリ茲ニ緩和ナル收斂作用ヲ發揮ス。從テ其効全腸管ニ及ビ、而モ胃消化ノ障礙ヲ來サザルノ利アリ。左ニ其主要ナルモノヲ擧ゲン。

▲「アセチールタンニン」(タンニゲン) Tanninum acetylicum (Tannigen) $C_{14}H_{10}(CH_3CO)_2O_2$

類黃白色或ハ類白色ノ粉末ニシテ殆ド臭味ナク、水酒精等ニ溶解シ難ク炭酸ナトリウム溶液ニ容易ニ溶解ス。其分子中ニ約八五%ノタンニン酸ヲ含有ス。

「タンニゲン」ノ收斂作用ハ小腸ノ上部ニ始マリ全腸管ニ及ブ。ロスト Host ニ從ハバ本藥ヲ内服セル後ノ糞便中ニハ尙ホ多少分解セザル「タンニゲン」ヲ證明スルヲ得ト云フ。是レ腸内ニ於ケル分解ノ頗ル緩慢ニシテ腸ヲ出ヅル際ニモ尙其終了セザルヲ示スモノナリ。

急性、亞急性及ビ慢性ノ下痢ニ賞用セラレ(〇五—一〇散劑トナシ一日數回、食後

内用又ハ初メ〇七一—一〇ヲ一二回與ヘ、後減量ス。小兒ハ年齢ニ應ジ〇一—〇三ニ但神經性下痢又ハ哺乳兒ノ腸消化不良急性小腸加答兒結核性下痢等ニハ往々無効ナルコトアリ。

▲「タンニン酸アルブミン」(タンナルビン) Albuminum tannicum (Tannalbumin)

卵白ト「タンニン」酸トニ山テ生ジタル沈澱ヲ加熱乾燥シタルモノナリ。類褐色ノ粉末ニシテ臭味ナク水並ニ酒精ニ極メテ僅微ニ溶解ス。

「タンナルビン」モ亦腸ニ到リ、腸液等ノアルカリ性消化液ニ由テ漸次分解セラレ、以テ弘ク腸粘膜上ニ「タンニン」酸ノ收斂作用ヲ呈ス。毫モ刺激性ナク、胃障害等不快ナル副作用ヲ來サザルガ故ニ、小兒ニ對シ殊ニ賞用セラレ。

急性慢性ノ腸加答兒結核性下痢、小兒ノ消化不良、夏日下痢等ニ効アリ。又腸壁扶斯經過中ニ於ケル腸出血ニ對シ阿片ト伍ス。然レドモ本藥モ亦神經性下痢ニハ奏効セザルコト多シ。

散劑若クハ粘葉合劑トシテ内服セシム。大人ニハ〇五—一〇ヲ一日數回、一日量八〇ニ至ル。又屢次硝酸蒼鉛ヲ伍ス。

處方。「タンナルビン」乳糖各〇三爲一包一日四回一包宛内服小兒下痢。

△「ホントニン」Honthin

亦タンニン酸ト蛋白質トノ抱合物ナリ。灰白褐色無臭殆ド無味ノ粉末ニシテ水ニ溶解セ

腸收斂藥

KOH

ザルモ酒精及アルカリニハ一部溶解スル性アリ。適應症、用量等「タンナルビン」ノ如シ。

△「タンノコル」 Tannocoll

「タンニン酸」ト膠質トノ抱合物ナリ。灰白色無臭殆ド無味ノ粉末ニシテ水ニ溶解セズ。胃中ニ溶解セズ。腸ニ到リ溶解シテ作用スルコト前記數藥ト異ルコトナク、適應症、用量等モ亦之ニ準ズ。

△「タンノピン」 Tannopin (Tannon)

「ヘキサメチレン」ト「トラミン」ト「ウロトロピン」ト「タンニン酸」トノ縮合體ニシテ、八七%ノ「タンニン酸」ト一三%ノ「ウロトロピン」ヨリ成ル。褐色ノ粉末ニシテ殆ド臭味ナク、水ニ溶解セズ。腸ニ到リ分解シテ收斂及防腐ノ効ヲ呈ス。故ニ各種ノ急性及慢性下痢ニ使用セラル。用量ハ小兒〇・三―〇・五、大人ハ其ニ倍量。

△「タンニン酸カゼイン」 Tannin Caseinum tannicum (Tannocasinum)

「タンニン酸」フォルムアルデヒド「及カゼイン」ヨリ製ス。淡灰白色不溶性ノ粉末ナリ。

適應症、用量等前藥ノ如シ。

△「ツリチン」 Turicin

「タンニン酸」(三〇%ト植物性蛋白質「グルテニン」 Glutenin (七〇%)ノ化合物ニシテ、帯褐色無臭無味不溶性ノ粉末ナリ。

收斂制瀉ノ効アリ(〇・五―一・〇、一日數回内用)。

△「ラクタニン」 Lactanin (Bismutum bilactomonotannicum)

黄色ノ粉末ニシテ無臭無味水ニ溶解セズ。

小兒ノ下痢等ニ多クハ震盪劑トナシ内用セシム。

處方。「ラクタニン」三〇―一〇〇「アラビアゴム」漿一〇〇、單合三〇〇、一日三乃至四茶匙内用。

△「オイタンニン」 Eutannin

帶黄白色結晶性粉末ニシテ微ニ甜味ヲ帶ブ、冷水ニ溶解セズ。

「ヘブリン酸」 Chebulinsäure $C_{24}H_{30}O_{16}$ (タンニン酸、没食子酸等ニ近似シ、鞣酸類ト同時ニ植物中ニ含有セラル、モノニ等分ノ乳糖ヲ加ヘタルモノナリ。收斂ノ効アリト云フ(〇・二五―〇・七五ヲ一日三乃至四回内用)。

△「ガロゲン」 Gallogen

淡黄色無臭無味ノ粉末ニシテ水ニ溶解セズ、アルカリニ溶解ス。

「エルラゲ酸」 Ellagäure $C_{14}H_8O_6$ (鞣酸類ト同時ニ植物中ニ存在シ、又「タンニン酸」没食子酸等ノ變化ニヨリ形成セラル、モノヲ含有スル植物ヨリ製ス。腸收斂藥トシテ小兒ニ〇・三―〇・五、大人ニ一・〇ヲ一日數回内用)。

第二十七章 利膽藥 Cholagoga

利膽藥トハ膽汁ノ分泌ヲ盛ニシ且之ヲ稀薄ナラシメンガ爲メニ使用セラル、
藥物ヲ云フ。

膽汁ハ他ノ消化液ト異リ、間斷ナク分泌セラル、コト尿並ニ汗ノ如シ故ニ消化ノ目的以
外排泄物ノ意義ヲ有スルナラン。但消化時ニ於テ其分泌旺盛トナルハ勿論ナリ。膽汁ノ分泌
セラル、ヤ一部ハ直チニ小腸ニ注ギ一部ハ膽嚢ニ入ル、而シテ消化時ニ於テ膽嚢中ノモノ
亦腸ニ注グ。

膽汁ノ分泌ハ他ノ消化腺ノ如ク迷走神經及交感神經ニ由テ主宰セラル、又膽嚢ノ收縮ハ
迷走神經其弛緩ハ交感神經之ヲ司ル。

利膽藥ノ應用

利膽藥ハ膽石症及膽石痛ニ使用セラル。膽石ノ形成ハ膽嚢ノ加答兒其原因ヲナ
スモ、膽汁ノ濃厚ナルコト亦タ其誘因タラズンバ非ズ。故ニ之ヲ稀薄ナラシムルト
キハ其形成ヲ防ギ、又ハ其増生ヲ抑退スルノ効アルベシ。膽石痛ハ膽嚢ノ痙攣ニ由
リ膽石膽道内ニ驅逐セラレ之ニ侵入シテ其壁ヲ刺戟シ其收縮ヲ來シ從テ劇痛ヲ
發スルニ基ク、而シテ屢鬱滯性黃疸ヲ來スモノナリ。此際、アトロピン類ヲ用キ迷走
神經ノ末端ヲ麻痺シテ其痙攣ヲ除キ兼テ利膽藥ヲ用ヒテ膽量ヲ増シ其壓力ニ由
リ之ヲ腸中ニ驅ルヲ要ス。

一般ニ自律神經ヲ興奮セシムルモノハ膽汁ノ分泌ヲ増スモ同時ニ他ノ作用ヲ

利膽藥トシテ 使用セラル、 藥物

呈スルガ故ニ實用ニ適セズ。臨牀上利膽藥トシテ使用セラル、モノハ其効一般ニ
甚疑ハシク、從テ全然之ニ依頼スベカラズ。從來膽石ニ對シ使用セラレタル甘汞、芒
硝其他ノ瀉下藥ハ實驗上毫モ利膽作用ヲ有セズ、甘汞ノ如キハ寧ロ之ヲ抑制ス。故
ニ是等瀉下藥ノ奏効スルコトアリトセバ其原因ハ之ヲ他ニ求メザルベカラズ、即
チ或ハ下痢ニ由テ、痙攣セル輸膽管ノ消炎減腫ヲ來シ爲メニ膽石ノ通過ヲ助クル
モノナランカ、彼ノ「カ、ルス」泉鹽ガ膽石症ニ實用セラル、ノ理モ不明ナレドモ、多
少膽汁ヲ稀薄ナラシムルノ外該消炎作用ニ由テ良好ノ結果ヲ來スモノナラン。

動物試驗ニ依レバ膽汁自己及膽汁酸鹽ハ利膽作用ヲ有ス、故ニ膽嚢管ヲ作り之
ヲ體外ニ導クトキハ膽汁ノ分泌著ク減弱ス。又安息香酸、サリチール酸等ノ鹽ハ多
少利膽作用ヲ有スルガ如シ。近時ノ檢索ニ由レバ鹽酸ノ影響ニ由リ小腸壁ニ於テ
形成セラル、セクレケン「Secretin」ハ、腺液並ニ膽汁ノ分泌ヲ増進スト云フ。

△「オイナトロール」(油酸ナトリウム) Eunateol (Natrium oleinicum)

白色又ハ帶黃白色ノ粉末ニシテ水ニ溶解ス。

膽石症、膽嚢炎、加答兒性黃疸ニ用キラル。利膽藥中最有効ナリト稱セラル、モ決
シテ確實ナリト云フヲ得ズ。一日二回一〇宛内用(シヨコレート)ヲ丸衣トナセル丸劑
ニシテ各〇・二五ノオイナトロールヲ含有セルモノ販賣セラル、一回四丸宛、同時ニ
通利ノ爲メ「オレーフ」油洗腸ヲ行ヒ、且膽石痛ノ發作ニハ「モルヒネ」劑ヲ與フベシ。

副作用トシテ消化不良ヲ來ス、又嘔氣惡心等ヲ發スルコトアリ。稀鹽酸、苦味藥等ヲ與ヘ之ヲ防グベシ。

△「**コレリジン**」Cholelysin (流動「コレリジン」Cholelysinum fluidum)

殆ド臭味ヲ有セザル、澄明ノ液ナリ、「アルカリ」性ノ反應ヲ徵ス。

二〇%「オイナトロール」及「ゾリドール」揮發油等ヲ含有スト云フ半乃至一茶匙內用。

△乾燥「**コレリジン**」Cholelysinum siccum

八〇%ノ「オイナトロール」ヲ含有スト云フ。〇六一ニ販賣品ニ〇六ヲ含有スル錠劑アリ、一乃至二錠內用。

△「**グリコヒオール酸ナトリウム**」Natrium glycocholicum

帶黄色ノ粉末ニシテ水ニ溶解ス。

人竝ニ植食物ノ膽汁中ニ存在スル物質ニシテ利膽ノ作用アリト云フ。〇二—〇三ヲ一日三回內用、副作用トシテ惡心又ハ下痢ヲ來スコトアリ。

△「**オウガール**」Ovogal

牛膽及卵白ヨリ製ス。帶綠黄色ノ粉末ニシテ殆ド無味ナリ、弱キ膽汁臭ヲ有ス。水竝ニ稀酸ニ溶解セズ。

胃ニ於テ溶解セザルガ故ニ消化ヲ害スルコトナシ、腸ニ到リ分解セラレ、一部ハ

吸收セラレテ膽汁ノ分泌ヲ増シ一部ハ腸ニ於テ膽汁ノ作用ヲ代償ス。

腸消化不良、小腸加答兒、脂肪便、殊ニ肝臟膽囊、膽管ノ加答兒及膽石症ニ應用セラ
ル一日量一乃至三茶匙ヲ數回ニ分服セシム。服時速ニ嚥下セザレバ「アルカリ」性唾
液ニ溶解シ厭フベキ苦味ヲ呈ス。「オブライト」ニ包ミ又ハ四分ノ一量ノ油糖ヲ加ヘ
用ユルモ可ナリ。

△「**ヒロゲン**」Chologen

甘草「ボドフィリン」樟腦、茴香等ヲ含ム錠劑ナリ。一號、二號、三號ノ三種アリ、只少シク強弱ヲ異
ニセルノミ。

膽石症等ニ對シ一乃至二錠ヲ一日二三回內用セシム。

△「**イリチン**」(「イリジン」) Iridin (Irisin)

Iris versicolor ノ根ヨリ得タル褐色ノ粉末ナリ。

利膽作用ノ外瀉下、催吐ノ効アリ、膽量ヲ増シ且其固形分ヲ増大スト云フ。
利膽藥トシテ牛膽ト伍シ內用セシム

處方。「イリチン」乾燥精製牛膽各〇五、「アラビア」ゴム、藥適量ヲ加ヘ百丸トナシ桂皮末ヲ衣
トナス。臨臥四丸內服、翌朝鹽類瀉下藥ヲ與フ。

○第八 尿及泌尿器ニ作用スル藥物

第二十八章 利尿藥 Diuretica

利尿藥ハ尿量ヲ増大セシムル藥物ナリ、之ガ作用及應用ヲ研究センニハ先ヅ尿ノ性質竝ニ其分泌機關タル腎臟ノ生理ノ一斑ヲ知ラザル可カラズ。

尿ノ生理的意義ノ主ナルモノ三アリ。

尿ノ生理的意義

一。血液ノ滲透壓ヲ常位ニ維持スルコト。

滲透壓ノ大小ハ水中ニ溶解セル物質ノ分子及イオンノ數ノ多少ニ比例スルモノニシテ水溶液ノ比重ト相關セズ(變質藥ノ初メヲ看ミ、故ニ比重大ナリト雖モ其滲透壓ハ却テ小ナルコトアリ。生體ノ新陳代謝ヲ案ズルニ蛋白質含水炭素脂肪等一トシテ體内ニ於テ分解セラレ小分子ト成ラザルハナシ。故ニ榮養物ノ吸收利用セラル、ヤ體液ノ滲透壓ハ著ク増大セザル可カラズ。然ルニ生體ノ組織ハ滲透壓ノ變化ニ對シテ極メテ鋭敏ナルガ故ニ一定ノ機關ニ由テ之ヲ調節セザル可カラズ。而シテ此機能ハ主トシテ腎臟ニ由テ營マル。

故ニ常態ニ於テ人尿ハ血液ニ比シ著ク高度ノ滲透壓ヲ有シ其氷結點ハ純水ヨリ低キコト平均一七五度ナリ(血液ノ氷結點下降ハ約〇五六度ナルコト既記ノ如シ)勿論此數ハ身體ノ狀況ニ由リ甚シク上下セラル、モノニシテ多量ノ水ヲ攝取セル後ニハ往々血液ヨリモ低ク之ニ反シテ水ヲ滲スルカ又ハ他ノ方面發汗等ニ多量ノ水分ヲ奪ハル、トキハ之ニ應ジテ増大ス。

二。新陳代謝ノ終產物ヲ排除スルコト。

尿中ノ固形分ハ有機物ニテハ尿素尿酸(クレアチンニクレアチニン)無機物ニテハ鹽酸硫酸磷酸等ノ鹽其主要ナルモノニシテ皆新陳代謝ノ終產物ナリ。而シテ人竝ニ肉食動物ニ在リテハ食物中ノアルカリ量少ク且分解產物トシテ多量ノ無機酸ヲ生ズルガ故ニ尿ハ概ネ酸性ナリ。然レドモ是レ遊離セル酸ノ存在スルガ故ニ非ズシテ酸性磷酸鹽 NaH_2PO_4 ノ排出セラル、ニ因ル之ニ反シ植食動物ハ多量ノ固形アルカリヲ食スルガ故ニ尿ハアルカリ性ナルヲ常トス。

三。體中ニ入りタル、或ハ體中ニ成セル異常物質ノ排除。

異常物質ノ體内ニ入ルヤ生體ハ先ヅ之ヲ分解センコトヲ努ム、之ヲ分解シ得ザルトキハ之ヲ無害トナシ且速ニ之ヲ體外ニ排除セントス。而シテ蛋白質ト結合スルモノハ粘液唾液等ト共ニ排泄セラレ然ラザルモノハ主トシテ腎臟ヨリ出ヅ。

故ニ健體ハ排泄スル尿ハ代謝產物竝ニ異常物質ノ稀薄液ナリ。

尿分泌ノ生理ニ關シテハ古來諸說紛々タリ、初メルドウヒ Ludwig 濾過說ヲ唱

尿分泌ノ生理

ヘ、次デハイデンハイイン Haidenhamノ分泌說出デ、ヨリ述和難駁相交ハルト雖モ概

近多數學者ノ信ズル所ハ左ノ如シ。
皮質中ノ血管毬ハ濾過ニ類スル作用ニ由リ水竝ニ血液ニ含有セラル、晶樣質ヲ毬鞘中ニ濾出ス。即チ濾液ハ血漿ヨリ蛋白等ノ如キ膠樣質ヲ除キタルモノニシテ殆ト血液ト同一ノ滲透壓ヲ有スル極メテ稀薄ナル液體ナリ。該液體ハ長キ細尿管ヲ通過スル間ニ二ノ重要ナル變化ヲ受ケ始メテ尿ノ性状ヲ取ル。

一ハ細尿管ニ於ケル吸収ニシテ主トシテ髓質中ノ直細尿管ニ於テ行ハル該吸收ハ選擇的ニシテ主トシテ水分竝ニ糖ヲ奪取ス。一ハ細尿管ニ於ケル分泌ニシテ皮質部ノ曲細尿管及上行直細尿管ニ由テ營マル。此機能ハ恰モ他ノ諸腺ニ於ケルガ如ク細尿管上皮細胞ノ自働的機能ナリ。是亦選擇性ニシテ尿酸、磷酸、鹽酸竝ニ重金屬ノ鹽類ノ如キ異常物質ヲ分泌ス。此二機能ニ依リ濾出セラレタル液體ハ著ク濃厚トナリ始メテ真正ノ尿トナル。而シテ曲細尿管ヨリ分泌セラル、モノハ身體ノ情況ニ由リ異同アリ、即チ時トシテ亦水分分泌スルコトアルベシ。然ラザレバ水ヲ過飲シタルトキ又ハ尿崩症ノ際等ニ尿ガ血液以下ノ滲透壓ヲ有スルヲ説明スルニ由ナシ。

要スルニ血管毬ニ於テハ單純ナル理學的機轉行ハレ、細尿管ニ於テハ上皮細胞ノ生活機轉ニ由リ必要ナル物質ヲ吸收シ不必要ナルモノヲ排泄スルモノナラン。

今假リニ細尿管ニ於ケル吸收ヲ否定センカ、其際尿ハ幾何量ニ達スルヤ、換言スレバ血管毬ヨリ濾出セラル、液體ハ幾何量ナルヤ、血液ハ約〇〇六%ノ尿素ヲ含有スルガ故ニ濾液ノ尿分量モ亦之ト同一ナラザル可カラズ。而シテ一日中吾人が排泄スル尿分量ハ約三十瓦ナルガ故ニ、細尿管ニ於テ尿素ガ全然吸收若クハ分泌セラレザルモノト假定シ、之ヨリ算出スルトキハ一日中ニ血管毬ヨリ濾出スル液量ハ約五十リートルニ上ル、而シテ其中四十八リートルハ再ビ吸收セラル、モノナラザル可カラズ。

論者或ハ以上ノ算定ヨリ推歩セル五十リートルヲ濾出及四十八リートルノ吸收ヲ不可

利尿藥ノ作用

能ナリトシ、以テ濾過説駁撃ノ材料トナス、然レドモ一日中腎臟ヲ通過スル血量ハ約五百乃至六百リートル下推定セラレ得ルガ故ニ其十分ノ一ガ最モ濾過ニ適當ナル特殊ノ構造ヲ有スル血管毬ヨリ濾出セラル、コト強テ之ヲ不可能ト云フヲ得ズ、即チ血管毬ニ出入スル血管ノ口徑ヲ比較センニ輸出管ノ輸入管ニ比シ著シク小ナルヲ見ルハ此間ノ消息ヲ語ルモノニ非ズヤ。又多大ナル水量ガ細尿管ニ於テ吸收セラレ得ルコトハ一タビ無數ノ細尿管ガ有スル上皮細胞面ノ莫大ナルニ想到セバ之ヲ疑フノ餘地ナカルベシ。

利尿藥ノ作用ハ血管毬ニ於ケル濾過ヲ増進スルカ、若クハ細尿管ノ吸收ヲ抑制スルカ、或ハ此兩者ヲ兼ヌルニ在リ。

血管毬ノ濾出ヲ充進スルモノハ

腎動脈系ノ血壓上騰

一、腎動脈系ノ血壓上騰ナリ。
物理化學ノ原則ニ據ルニ、蛋白ノ如キ膠樣質ニ水ヲ加フルトキハ之ト結合シテ徐々ニ膨脹スベシ、而シテ斯ノ如キ水之ヲ膨脹水ト云フ。膨脹水ヲ機械的ニ奪取セントスルニハ一定ノ壓力ヲ要ス之ヲ膨脹壓ト云フ。膨脹壓ハ膠樣質ノ濃度、膨脹度ニ應ジテ増減シ、稀薄液ニ在リテハ零トナル。

人體血漿ノ膨脹壓ハ常態ニ於テ約三十密透水銀柱ノ壓ニ匹敵ス、故ニ腎動脈ノ血壓其以下ニ降ルトキハ尿ノ濾出ハ全然停止ス。實際ニ於テハ血壓ハ膨脹壓ノ外、髓鞘中ノ水壓ヲ破ラザル可カラズ、故ニ約四十密透水銀壓ノ以下ニテハ排尿中止ス。然レドモ水ヲ過飲シタル後ノ如ク血液ノ水分増大シテ所謂水血症ヲ來シタルトキニ在リテハ其膨脹壓減ジテ零ニ接近スルガ故ニ極メテ低キ血壓ニ於テ尙且尿ノ排泄セラル、コトアリ。適莫尿濾出ノ速度ガ血壓ノ大小ト平行スルハ一ナリ。

然レドモ血圧ノ高キニ拘ラズ排尿ノ閉止スルコトアリ、腎靜脈閉鎖ノ場合ノ如キ是ナリ。是レ血管壁内ノ濾過面ニ接スル血液ノ更代杜絶スルガ故ニ濾出セラレベキ水分ハ忽ニシテ盡サレ、膠様質ノ稠度上騰シ、多少亢進セル腎動脈ノ血圧モ此増大セル膨脹壓ニ勝テ能ハザルニ因ル。

是ニ反シテ血流迅速ナルトキハ假令血圧高カラザルモ、容易ニ濾出セラレベキ水分多量ニ供給セラレ、ガ故ニ排尿亦盛ナリ。即チ血管壁ノ濾過亢進ニ必要ナルハ

二。腎臓ニ於ケル血液灌流ノ速度ナリ。

是レ寧ロ上項ヨリモ更ニ重要ナルモノナリ。而シテ腎血流ノ速度ハ(一)動脈系ト靜脈系トノ間ノ壓差ノ大小ニ從フ、彼ノ「デギタリス」劑ノ如キ主トシテ此理由ニテ利尿ス。(二)腎脈管ノ擴大ニ由リ増進ス、殊ニ腎臓ノミノ脈管ニ作用スルモノ然リ。一般ニ腎臓ヨリ排出セラレベキ異常物質殊ニ腎臓ノ實質ヲ刺戟スルガ如キモノハ此性ヲ有ス。(三)血液粘度ノ下降モ亦血流ヲ迅速ナラシム而シテ血液粘度ハ含有セラレ、膠様質ノ多少ニ關スルガ故ニ次項ノ條件ト一致ス

三。血液中水分ノ増大、即チ水血症Hydremieナリ。

水血症トハ血液中ニ於ケル膠様質ノ含有率ノ減少セル場合ヲ云フ、晶様質ノ含有量ハ常態ニシテ從テ滲透壓ハ變化スルコトナシ。水血症ハ體外ヨリ水ノ輸入若クハ組織内ヨリ水分ノ奪取ニ由テ來ル。

水ヲ體外ヨリ輸入スルニハ多量ノ水ヲ内服セシムベシ、水ノ吸收セラレ、ヤ一部分ハ直チニ組織内ニ侵入シ、一部分ハ組織内ヨリ晶様質ヲ奪ヒ尿中ニ排泄セラレ、而シテ彼ノ一時組織内ニ固定セラレタル水モ亦再ビ徐々ニ血中ニ現ハレ主トシテ腎臓ヲ經テ大部分ハ約

腎臓ニ於ケル
血流ノ速度

水血症

二。三時間中ニ體外ニ去ル故ニ血液ハ水ノ吸收ヨリ排泄迄ノ間ハ多少稀釋セラレ、モノタリ。組織内ヨリ水分ヲ奪ヒ水血症ヲ發スル適例ハ瀉血ナリ。瀉血ニ由リ失ヒタル血量ハ暫時ニシテ淋巴液及組織液ニ由テ補充セラレ、而モ是等ノ膠様質ノ含有率ハ血液ノ約三分ノ一ナルガ故ニ血液ハ著シク稀薄トナル。

血液中ニ於ケル晶様質ノ量ヲ増大スルトキモ亦水血症ヲ發ス。是レ晶様質ノ爲メニ亢進セラレントスル滲透壓ガ消化管若クハ組織中ノ水分ニ由テ稀釋低下セラレ、ニ因ル。加之晶様質ハ膠様質ニ固定セラレタル膨脹水ヲ奪フノ性ヲ有スルガ故ニ、血液ハ同一量ノ膠様質ヲ含有スルニ拘ラズ其膨脹壓ヲ減ズ。

水血症ノ利尿ニ及ボス結果ハ多様ナリ(一)血液中ニ於ケル濾出セラレ得ベキ水分ヲ増大シ、血漿ノ膨脹壓ヲ減ジ以テ濾出ヲ容易ナラシメ、(二)血液ノ粘度ヲ減ジ血流ヲ迅速ナラシメ、(三)且實驗上水血症ハ腎臓ノ血管ヲ擴大セシメ、愈々血流ヲ盛ニスル等是ナリ。

細尿管ニ於ケル
吸收ノ抑遏
細尿管ノ吸收ヲ抑遏スルニハ細尿管ヨリ吸收セラレザル或ハ吸收セラレ難キ物質ノ尿中ニ移行スルヲ要ス。斯ノ如キ物質ハ水ノ吸收ヲ妨グ尿量ヲ増大スルノ効アルコト恰モ鹽類ノ瀉下作用ニ髣髴タリ。故ニマグネシウムMagnesiaハ此現象ヲ細尿管下痢ト稱セリ。

神経系ノ影響

「フロリジン」ヲ動物ニ注射スルトキハ腎臓ニ於テ形成セラレタル多量ノ葡萄糖ハ髓鞘中ニ濾出セラレ到底細尿管中ニ於テ吸收シ盡サレ得ザルガ故ニ溶解水ヲ固定シテ其吸收ヲ妨グ多量ノ水ト共ニ尿中ニ出現ス、是レ亦細尿管下痢ノ一例ナリ。

其他腎臓ノ機能ハ神経系ニ由テ影響セラレ、腎臓ニ達スル神經ハ内臟神經ヨリ

來リ、一部ハ血管ニ沿フテ走リ、他ハ血管毬竝ニ細尿管ノ周圍ニ細網ヲ結ブ、而シテ是等神經ノ血管運動ニ作用スルハ明カナレドモ其分泌ニ及ボス影響ハ未ダ闡明セラレズ。想フニ腎臟ハ一ノ排泄機關ニシテ他ノ諸腺ト異リ血液中ニ存在スル物質ヲ排出スルニ止リ、腎臟自己ニ於テ特殊ノ物質ヲ形成スルコトナキガ故ニ、或ハ分泌神經ヲ有セザルモノカ。

但腎臟ガ安息香酸ト「グリコ、ル」ヨリ尿酸ヲ集成シ、又「フロリヂン」中毒ノ際、葡萄糖ヲ生成スル等ハ事實ナルモ、他腺ニ於ケルガ如キ生理的、特殊產物ノ形成ト其趣ヲ異ニス。

然レドモ一定ノ中樞ニ由リ尿分泌ノ影響セラル、ハ之ヲ否定ス可カラズ。動物ニ於テ後腦及小腦ノ一定部ヲ穿刺スルトキハ血管神經ノ媒介ニ由ルコトナク大量ノ稀薄尿ヲ排出ス。此中樞ハ糖尿ト相關セザルモ其部位糖尿穿刺ノ部位ト隣接ス。人ニ在リテモ頭部ノ損傷又ハ腦疾患ノ一現象トシテ尿崩症ヲ來シ、一日ノ尿量時トシテ二十「リートル」ニ達スルコトアリ、又往々精神發揚ニ由リ尿量ノ増大スルヲ見ル。然レドモ其精密ナル關係竝ニ該中樞ニ作用スル藥物ノ有無ハ之ヲ後來ノ研究ニ俟ツ。從テ「アムモニア」劑ノ利尿作用ガ一部分該中樞ノ刺激ニ因スルモノナラントノ說ハ單ニ一ノ臆說ノミ。

利尿藥ノ種類竝ニ奏効ノ理由概ネ左ノ如シ。

一。「カフエイン」、「テオブロミン」ノ如キ「プリン」誘導體ハ他部ノ血管ヲ擴大スルコト

利尿藥ノ種類
腎臟血管ノ擴
大

ナク專ラ腎臟ノ血管ノミヲ擴大セシムルガ故ニ有効ナル利尿藥タリ「ヂギタリス」劑モ亦多少此作用ヲ有スルモ其強心作用ガ利尿ノ主因タリ「アルコホル」、「バラアルデヒード」等ノ麻醉藥ハ血管中樞ノ麻痺ニ由リ全身ノ血管ト共ニ腎臟ノ血管ヲモ擴大セシム。然レドモ同時ニ血壓下降スルガ故ニ利尿作用弱シ、但シ血管中樞ノ刺激ニ因スル腎臟血管收縮ノ爲メニ來レル尿閉症ニ對シテハ有効ナリ。

異常物質ニシテ腎臟ヨリ排泄セラレ、殊ニ局所刺激ノ性ヲ有スルモノハ腎臟血管ヲ擴大ス。彼ノ揮發油ヲ含有スル生藥ガ利尿茶劑トシテ使用セララル、理由ノ一部分ハ是ナリ。抱水「テルピン」ノ利尿藥トシテ使用セララル、「カンタリス」劑ノ管テ同一ノ目的ニ使用セラレタル等亦之ニ基ク。此種ノ物質ハ持長スレバ遂ニ腎臟ノ炎症ヲ發ス、故ニ之ヲ腎臟患者ニ使用スベカラズ。

二。腎臟血行ノ緩徐ナルガ爲メニ尿量ノ減少スルハ心臟衰弱ニ由テ動靜脈間ノ壓差減少セルトキニ經驗セララル、事實ナリ。此際「ヂギタリス」劑ヲ與ヘ心臟ノ機能ヲ旺盛ナラシメ血行ヲ調フルトキハ利尿ス。又腹水ニ由リ機械的ニ下大靜脈或ハ腎靜脈ガ壓迫セラレ爲メニ腎血行ノ阻碍セラレタル場合ニハ穿腹術ヲ行ヒ腹水ヲ去ルカ若クハ發汗藥、峻下藥等ヲ用キテ水分ヲ皮膚又ハ腸管ニ導キ腹水ノ減量ヲ圖ルトキハ利尿ス。

三。利尿茶劑、炭酸水、一定ノ鹽水等ノ形ニ於テ大量ノ水ヲ攝取スレバ水血症ヲ

腎血行ノ恢復

水利尿

鹽類利尿

發シ利尿ス(水利尿 Wasserdiurese)此際體液ノ流通佳良トナリテ組織ヲ洗滌シ且尿ノ固形分ヲ減少セシムルガ故ニ慢性中毒新陳代謝異常等ニ有利ナル影響ヲ與フルノ外、尿路ノ炎症又ハ尿酸結石等ノ場合ニ尿ヲ稀釋スルノ利アリ。

四。鹽類モ亦水血症ヲ發シ利尿ス、之ヲ鹽類利尿 Salzdiurese ト云フ(變質藥ノ部一二六頁ヲ見ヨ)此際組織細胞内ニ竄入スルノ性ニ乏キ物質ヲ選ブトキハ組織ヨリ水分ヲ奪フコト大ニ、且腎臟ニ於テ濾出セラレテ後所謂細尿管下痢上ヲ見ヨ)ヲ來スガ故ニ、利尿作用愈、大ナリ。是レ食鹽、硝石等ノ如キ容易ニ組織内ニ竄透シ得ベキ物質ニ比シ、炭酸⁽¹⁾アルカリ⁽²⁾、硫酸⁽³⁾アルカリ⁽⁴⁾等ガ強大ナル利尿作用ヲ有スル所以ナリ、アルカリ⁽⁵⁾ノ脂肪酸鹽⁽⁶⁾、醋酸⁽⁷⁾、カリウム⁽⁸⁾、醋酸⁽⁹⁾アムモニウム⁽¹⁰⁾等モ亦體內ニ於テ炭酸鹽トナリ叙上ノ作用ヲ逞フス。

甘汞ノ利尿作用

食鹽ハ時トシテ利尿作用ヲ呈セザルコトアリ、而シテ斯ノ如キ時ニハ尿ノ食鹽量亦減少ス、是レ原發的ニ食鹽ニ對スル血管収ノ通過性減少セルガ爲メナリ。食鹽ノ排出減少スル際更ニ食鹽ヲ與フレバ血液ノ滲透壓ヲ維持センガ爲メ尿量却テ減少ス。此際發汗藥ヲ用井食鹽ヲ皮膚ニ排泄セシメ、又ハ食鹽ニ乏シキ食物ヲ攝取セシメ、或ハカフェイン⁽¹⁾劑ヲ與フレバ利尿ス蓋シ⁽²⁾、カフェイン⁽³⁾ハ後節論ズルガ如ク食鹽等ノアルカリ鹽ノ排出ヲ促スノ効アリ。

五。重金屬鹽殊ニ甘汞ノ利尿作用ハ其本態尙不明ナリ、從來ハ腎細胞ニ及ホス特殊ノ影響ニ由テ來ルモノナラント思爲セラレタルモ、マイエル Meyer⁽¹⁾ハ腸管ニ分泌セラレタル腸液ノ再吸收ノ爲メニ發スル水血症ヲ以テ其直接原因トナシ、殊ニ

利尿藥ノ應用

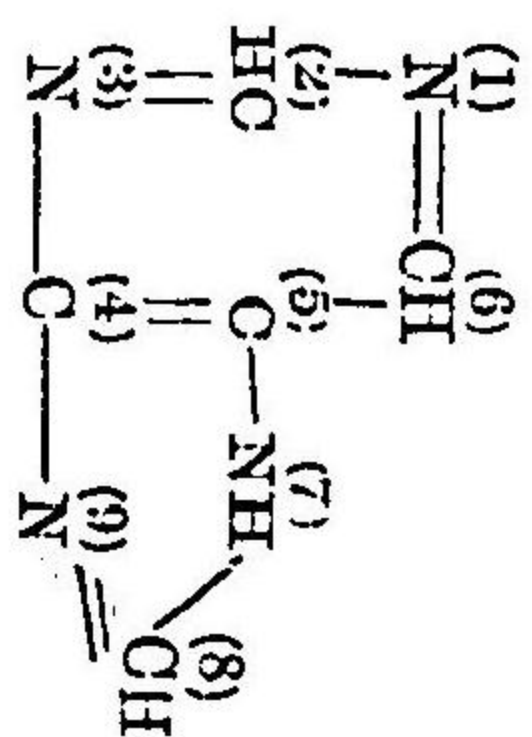
浮腫蓄水等ノ際ニ有効ナリトセリ、但シビルギー Billet⁽¹⁾ニ據レバ水銀劑ハ其皮下注射又ハ内服ニ由テ、浮腫等ノ存否ニ關セス悉ク利尿作用ヲ呈スルモノ、如シ。

利尿藥ノ應用ハ以上ノ説明ニ由リ明亮ナレドモ更ニ其要點ヲ枚舉スルコト次ノ如シ。

- 一。尿成分ノ沈澱結石ヲ防遏セントシ或ハ尿路ノ炎症アルトキ之ヲ洗滌シ且其刺戟ヲ減セントスルニハ尿量ヲ増シ同時ニ之ヲ稀薄ナラシメンガ爲メ水利尿ヲ發セシムベシ。
- 二。新陳代謝病或ハ慢性中毒等ノ際體液流通ヲ利シ蓄積セル代謝產物又ハ毒物等ヲ除去センニハ鹽類利尿最モ其當ヲ得タリ。
- 三。諸多ノ原因ニ因リ尿量減少シ、浮腫、蓄水等ヲ發セルトキハ瀉下藥、發汗藥ノ外利尿藥ヲ要ス、但シ腎臟ノ疾患アルモノニハ刺戟性ノ藥物ヲ避クベシ。

「プリン」Purin C₅H₄N₆

「プリン」誘導體



「プリン」誘導體

ナル構造ヲ有スル物質ニシテ其主ナル誘導體ハ(2)(6)(8)三酸化プリンナル尿酸(2)(6)二酸化プリンナルキサンチン(6)酸化プリンナルヒポキサンチン(6)アミノプリンナルアデニン(2)アミノ(4)酸化プリンナルグアニン(1)(3)(7)三メチールキサンチンナルカフェイン(3)(7)二メチールキサンチンナルテオプロミン及(1)(3)二メチールキサンチンナルテオフィリンナリ。就中前四者ハ生理化學上重要ナル物質ニシテ後三者ハ藥物トシテ其名ヲ逸スベカラズ。

「カフェイン」Caffein 及「テオプロミン」Theobromin ハ人類ガ嗜好品トシテ使用スル植物中ニ存在スルモノニシテ、東部亞細亞ニ栽培セラル、茶 Thea chinensisノ乾燥葉中ニハ一五—三五%ノカフェイント少量ノテオフィリンヲ含有シ、亞非利加ニ産スル珈琲 Coffea arabicaノ子實中ニハ一二—一四%ノカフェインヲ中央亞米利加ニ産スル「カ、オ」Theobroma Cacaoノ子實中ニハ一五%ノテオプロミント少量ノカフェイントテ、西部熱帶亞非利加ニ産スル「コラ」實 Cola acuminata中ニハ約二%ノカフェインヲ、南米土人ガ Paulinia sorbilisヨリ製スル「グアラナ」Guarana中ニハ五%ニ達スル「カフェイン」ヲ其他南米土人ガ Ilex Paraguaysensisノ實ヨリ製スル「バラガイ」茶並ニ北米土人ノ喫スル Ilex Cassinaノ葉モ共ニ「カフェイン」ヲ含有ス。

斯ノ如ク「カフェイン」若クハ「テオプロミン」ヲ含有スル植物ガ其科屬ヲ異ニセルニ拘ラズ諸多ノ人種ヨリ期セズシテ悉ク嗜好品トシテ使用セラル、豈奇ナラズトセンヤ。想フニ是人類本能ノ致ス所ニシテ生體本能ノ力ノ偉大ナルヲ證スルモノナリ。今日吾人ガ有スル重要ノ藥物ノ多數モ亦人類ガ半バ本能的ニ發見シタルモノナリ。解熱竝ニ對間歇熱藥トシテ「キナーネ」驅梅藥トシテノ水銀劑等蓋シ其著キモノナリ。然リ而シテ本能ノ發揮ハ動物ノ原性ニシテ人智ノ發達スルニ從ヒ漸次其光世ヲ藏ムルハ數ノ免レザル所ナルガ故ニ後來ハ斯ノ如キ發見ヲ本能ノ力ニ待ツコト能ハズ、須ク秩序的ノ研索ヲ以テ本能ノ缺ヲ補ハザルベカラズ。

「カフェイン」ノ利尿作用

斯ノ如キ歴史ヲ有スル物質ニ偉大ナル効力ノ潛ムベキハ當然ニシテ、而モ近年藥物學ノ進歩ニ由テ初メテ闡明セラレタリ。即チ「カフェイン」「テオプロミン」等ノ嗜好品トシテノ價值並ニ藥物トシテノ作用ハ概ネ次ノ如シ。



「カフェイン」Coffein 又ハ「テイン」Thein ト云フ絹絲様ノ光澤アル柔軟白色ノ錠狀結晶ニシテ味微ニ苦ク、八十分ノ冷水及二分ノ熱湯ニ溶解シ中性ノ反應ヲ微ス極量一回〇・五—一日一・五。

茶及珈琲ニ利尿作用アルハ古來人ノ知ル所ニシテ間、之ヲ疾病ニ應用シタリ。後「カフェイン」ノ析出セラル、ヤ亦然リ。而シテ初ハ「ヂギタリス」瀉ノ如ク心臟ノ機能ヲ亢進シ、續發的ニ利尿セシムルモノト思考セラレタルガシュロエデル Schröder ニ至リ始メテ血壓ト關係ナク腎臟作用ノ結果ナルコトヲ知ルヲ得タリ。

「カフェイン」利尿ガ腎臟ノ直接作用ナル證左ハ又尿量ガ尿中ニ出現スル「カフェイン」ノ量ト比例スルノ事實ニ於テモ之ヲ見ル。又「カフェイン」ニ由テ甚シク増尿セザル動物(犬)ニ於テハ僅ニ注射量ノ八%ガ尿中ニ排出セラル、ノミナルモ、兎ノ如キ著明ナル利尿ヲ發スル動物ニテハ尿中ノ排出量二〇%ニ上ルコトモ亦之ト一致ス。

シュロエデルハ此作用ヲ以テ「カフェイン」ガ細尿管ノ上皮細胞ノ分泌機能ヲ刺激スルニ因ルモノナリトセリ。然レドモ此説明ハ恐ラク正鵠ヲ得ザルモノニシテ、ロエウイ Loewiガ證明セルガ如ク腎臟ノ血管擴大ガ「カフェイン」利尿ノ原因ナラン。

ロエウイノ實驗ニ據レバ「カフェイン」ニ由テ腎臟ノ容積増大シ且腎靜脈ノ血液ハ動脈性トナル、ナリシ誘導體

是レ共ニ腎血管ノ擴大ヲ證スルモノナリ。此作用ハ全然末梢性ニシテ、腎神經ヲ切斷シ數週ヲ經テ其纖維ノ變性セル後ニ於テモ亦同一ノ現象ヲ呈ス。故ニ恐ラク直接ニ血管壁ニ作用スルモノナラント云フ。

「カフェイン」ニ因ル血管擴大ハ腎臟ノ外唯之ヲ腦及心臟冠狀動脈ニ見ル。内臟神經下ノ血管ハ寧ロ收縮シ、爲メニ血液盛ニ是等擴大部ニ集注ス。

即チ「カフェイン」利尿ハ主トシテ血管壁ノ濾過亢進ナルガ故ニ血管壁ニ障礙アルトキハ奏効セズ、之ニ反シ細尿管ノ變性等ハ之ニ甚シキ影響ヲ與ヘズ。

上記血管作用ノ外「カフェイン」ハ恐ラク細尿管ニ於ケル吸收ヲ抑過ス。

即チ動物ニ「インヂコカルミン」ヲ注射スレバ血管壁ヨリ濾出セラレ、次デ細尿管ヨリ吸收セラレ、其上皮細胞ノ核ヲ青染ス然ルニ之ト同時ニ「カフェイン」ヲ與フルトキハ其吸收ヲ防遏スルガ故ニ核ノ著色ヲ見ズ。

「カフェイン」利尿ハ時トシテ全然缺如スルコトアリ、其理由亦シユロニデ、由テ闡明セラレタリ。即チ「カフェイン」ハ後節論ズルガ如ク血管運動中樞ヲ刺戟シ全身ノ血管ヲ收縮セシムルノ性アリ、而シテ生體ノ個性ニ由リ、又ハ其當時中樞興奮性ノ状態ニ由リ、此作用強ク現ハル、トキハ「カフェイン」ニ固有ナル腎血管擴大作用ハ發揮セラル、ニ由ナク腎血流却テ緩慢トナルガ故ナリ。斯クノ如キ際ニ抱水「タロラール」ノ如キ血管中樞ヲ麻痺セシムル藥物ヲ與フルトキハ全身ノ血壓下降スルニ拘ラズ尿量増大ス。

其他「カフェイン」ハ尿中ニ於ケル「アルカリ」鹽ノ絶對量ヲ増大ス。是レ身體ノ奪水ニ有利ナル一現象ナリ、何トナレバ「カフェイン」ニシテ單ニ水分ノミノ排泄ヲ促ガスモノナリセバ體中ニ鹽類蓄積シ組織液ノ滲透壓ヲ亢進セシムルガ故ニ再ビ水分ヲ牽引スベケレバナリ。

「カフェイン」ノ中樞作用

「カフェイン」ハ其他諸多ハ神經中樞、横紋筋並ニ心臟ニ作用ス。中樞神經系ハ「カフェイン」ニ由テ興奮セラル、人ニ於テハ少量〇.一—〇.二ニテ大腦ノ機能ヲ亢進シ衝動制眠ノ効アリ、又思想結合及感覺接受ヲ容易ナラシメ、同時ニ血管中樞ヲ刺戟シ殊ニ内臟神經下ノ血管ヲ收縮セシム。之ニ反シテ腎臟、心臟、腦皮層ノ血管ハ擴大セラレ爲メニ全身血液ノ配置ニ變化ヲ來スコトハ注目ニ値ス。大量〇.五—一.〇ヲ用フレバ精神發揚シテ不穩状態トナリ、耳鳴、譫語、震顛遂ニ搖蕩ヲ發シ、心悸亢進シ脈ハ速、實且往々不整トナル。

呼吸中樞モ亦刺戟セラレ呼吸頻數且深大トナル。體温又上騰スルコト〇.五—一度ニ至ル。

動物ニ於テハ脊髓ノ反射機能ヲ亢進セシメ終ニ強直性痙攣ヲ來ス。蛙殊ニ金線蛙ニテハ其症狀恰モ「ストリキニーネ」中毒ニ於ケルガ如シ。

「カフェイン」ヲ動物ニ注射スレバ時トシテ糖尿ヲ來ス。是レ恐ラク糖刺ニ由テ刺戟セラル、中樞ノ興奮ニ因ルモノナラン。

横紋筋ニ對シテ「カフェイン」ハ其刺戟闕ヲ低下セシメ、其絶對力ヲ増大シ、且同一刺

「筋作用」

「カフェイン」ノ誘導體

載ニ對スル作業並ニ疲勞ニ至ル迄ノ全作業ヲ増加セシム。此作用ハ「カフェイン」ト筋質トノ間ニ行ハル、化學的反應ニ基クモノニシテ、濃厚ナルトキハ筋纖維内ノ流動性内容ヲ凝固セシメ爲メニ筋ハ瞬時ニ短縮シ、其構造ヲ失ヒ、恰モ熱湯中ニ於ケルガ如ク強直シ、其興奮性ヲ失フ。此作用ハ殊ニ赤蛙ニ於テ著明ナリ。

心臟作用

「カフェイン」ノ心臟作用ハ複雑ナリ。其神経系ニ於テハ一方ニ迷走神経ノ制止中樞ヲ刺戟シ、一方ニハ催進神経ノ末梢ヲ刺戟ス。此兩々相反スル作用ハ各神経系興奮性ノ大小ニ由リ時ニ遅脈ヲ、時ニ速脈ヲ來サシム。

心筋モ亦骨格筋ト同一ノ影響ヲ受ケ其收縮性ヲ増大スルガ故ニ心ノ收縮ハ旺盛トナルモ其擴張微弱トナリ、其結果脈量減少ス。然レドモ心臟衰弱等ニ由リ血液末梢ニ鬱滯セル場合ニハ「カフェイン」ノ効用大ニ見ルベキモノアリ。即チ先ヅ血管中樞ノ作用ニ由リ内臟神経ノ領域ヨリ血液ヲ驅逐シテ之ヲ心臟ニ導キ、心臟ハ冠狀血管ノ擴大ニ由リ其榮養ヲ恢復シ、且「カフェイン」ノ直接作用ニテ心筋ノ絶對力増大スルガ故ニ、此際ニ於テハ脈量ヲ増シ、心機能ヲ整ヘ、動脈系ノ血壓ヲ亢進シ、延テ利尿催進ノ効ヲ助長ス。是レ「カフェイン」ガ其作用ニ於テハ「デギタリス」ト其趣ヲ異ニスルモ心弱症ニ對シ類似ノ効果ヲ齎ス所以ナリ。

「カフェイン」ノ排泄及變化

「カフェイン」ハ一部分ハ原形ノマ、一部分ハ「メチール・キサントン」「メチール・キサントン」及「キサントン」トナリ尿中ニ出デ、大部分ハ更ニ分解シテ尿素等トナリ其踪跡ヲ失フ。

應用

「カフェイン」ハ利尿藥トシテ其効テオプロミン等ニ如カズ、故ニ行ハレズ。強心藥トシテ慢性心臟病ノ經過中ニ來ル心弱症、又ハ熱性諸病ノ急性心弱症ニ使用セラル(〇.一ヲ一日數回内服)。

定型性偏頭痛ニ對シ之ヲ發作ノ初期ニ與フ。アンチピリンヲ伍スレバ其効力ヲ増ス。

處方。「カフェイン」〇.二「アンチピリン」〇.〇「オプロト」適ニ入レ投與發作前一瓖ツ、一二回「モルヒネ」「クロ、フォルム」「アルコホル」等ノ麻醉藥ノ中毒ニ對シ血管及呼吸中樞ヲ刺戟シ、大脳ノ機能ヲ亢進セシム。

▲「サリチール酸ナトリウムカフェイン」Caffeino-Natrium salicylicum
白色無晶形ノ粉末或ハ白色顆粒狀ノ塊ニシテ味微ニ苦クシテ甘味ヲ帶ブ、二分ノ水ニ溶解シ中性ノ反應ヲ徵ス。極量一回一〇.一日六〇。

應用「カフェイン」ノ如シ。水ニ溶解シ易キノ利アリ、故ニ又皮下注射料トナス、例ヘバ心臟衰弱ニ對シ

處方。「サリチール酸ナトリウムカフェイン」水「グリセリン」各五〇.一日一二筒。
▲安息香酸ナトリウムカフェイン Caffeino-Natrium benzoicum
性状前者ノ如ク味微ニ苦シ。極量一回一〇.一日六〇。

△「エトオキシカフェイン」Aethoxycafein C₁₂H₁₁(OC₂H₅)N₂O₂

「プリン」誘導體

無色ノ結晶ニシテ水ニ溶解シ難シ。

麻醉作用ヲ有スルガ故ニ偏頭痛、三叉神經痛等ニ用ユ。〇・二五ヲ一日數回「オブラート」ニ包ミ内服。

△「シムフォール」Symphorol

「カフェイン・スルフォ」酸ナリ。通常「ナトリウム」リチウム「或ハ」ストロンチウム「等ノ鹽ヲ使用ス。共ニ無色結晶性ノ粉末ナリ。

血管中樞ヲ刺戟セザルガ故ニ利尿作用「カフェイン」ヨリモ遙ニ確實ナリト云フ。一日量四〇—五〇「リチウム」鹽ハ殊ニ石淋ニ使用セラル。

「テオプロミン」ノ作用

「テオプロミン」Theobrominノ腎、心筋ニ對スル作用ハ「カフェイン」ト等キモ中樞作用ヲ有セザルガ故ニ其利尿作用確實ナリ。

「テオプロミン」自己ハ水ニ溶解シ難ク、從テ吸收緩慢ニシテ奏効遅ク且胃症ヲ發シ易キガ故ニ其可溶性複鹽ヲ使用ス。就中「デュレチン」及「アグリン」最名アリ。

▲「サリチール酸ナトリウムテオプロミン」Theobrominum natriosalicylum (Diuretin)

白色ノ粉末ニシテ甘鹹且稍油汁様ノ味ヲ有シ、等分ノ水ニ溶解シ「アルカリ」性ノ反應ヲ徴ス。

最有力ナル利尿薬ノ一ナリ。病的ニ體中水分増大セル場合ニハ本薬ニ由リ一日往々數リ—テ「ル」ノ尿ヲ利スコトアリ。慢性腎臟炎及心臟患者ノ浮腫ニ最有効ナリ。前者ニハ尿中ノ蛋白ヲ増スコトナク後者ニハ間「チ」ギタリス「劑」ノ奏効セザル時ニモ尙奇効ヲ收ムルコトアリ。但シ肋膜炎、腹膜炎等炎症性滲出及肝臟患者ノ蓄水ニハ確効ナシ。又狭心症、竝ニ血管硬化症ニ來ル喘息發作ニ持長シテ之ヲ輕快セシムルコトアリ。用量〇・五—一・〇ヲ一日三乃至六回又ハ

處方。「デュレチン」五〇—六〇。水五〇〇。薄荷水一〇〇。一日數回一食匙宛内服。

副作用トシテ少量ニテ頭痛、嘔氣ヲ、大量ニテ眩暈、嗜眠、嘔吐、下痢等ヲ來スコトアリ。

凡ソ「プリン」誘導體ハ他ノ刺戟性利尿薬ノ如ク腎臟實質ヲ刺戟セザルガ故ニ腎臟炎ニ對シ使用シ得ラル、ノミナラズ腎ノ血流ヲ盛ニシテ其治癒ヲ促ガス性アリ。但シ急性腎臟炎ニハ稀ニ蛋白ノ増量ヲ見ルコトアリ其使用ヲ慎ムベシ。

△「アグリン」(醋酸「ナリウム・テオプロミン」) Agwin

白色ノ粉末ニシテ引濕性ナリ、水ニ溶解シ易ク味鹹苦ナリ。

△「テオプリン」(「蟻酸」ナトリウム・テオプロミン) Theophorin

白色ノ粉末ニシテ十倍ノ水ニ溶解ス。

△「テオラクチン」(「乳酸」ナトリウム・テオプロミン) Theolacin

白色或ハ類白色ノ粉末ニシテ引濕性ナリ、水ニ溶解シ易シ。味苦クシテ服フベシ。

△「ウロシトラール」(「枸橼酸」ナトリウム・テオプロミン) Uroital

「プリン」誘導體

無色ノ粉末ニシテ容易ニ水ニ溶解ス。味鹹苦。

△「ウロフリン」 Trophenin

二種アリ、一ハ安息香酸リチウムテオプロミン、一ハ「サリチール」酸リチウムテオプロミンナリ。共ニ白色ノ粉末ニシテ五倍ノ水ニ溶解ス。

以上五藥ハ其効力「ヂウレチン」ト伯仲シ、其用量亦之ニ同ジ。

△「バルチン」(「サリチール」酸「ナトリウム・バリウム・テオプロミン」) Barutin

白色ノ粉末ナリ。利尿藥トシテ一回量〇・一—〇・二五

△「ヂスフノン」 Dyspnon

錠劑トシテ販賣セラル。一錠中「ヂウレチン」〇・二五「アグリニン」〇・二「ケブラッチ」越幾斯〇・一ヲ含有ス。

狭心症竝ニ血管硬化症又ハ心臟病ニ來ル喘息ニ用ユ。一回二錠内服。

△「テオフリリン」(「テオチン」) Theophyllin (Theocin)

「テオプロミン」ノ異性體ナリ。少量ニ於テ茶葉中ニ含有セラレ、又人工的ニ製造セラル。無色ノ結晶ニシテ水ニ溶解シ難シ。

「プリン」誘導體中最強ク且最速ニ利尿ス、然レドモ其作用ハ廢藥後亦速カニ消失ス。

本藥ハ「テオプロミン」劑ニ於ケルガ如キ頭痛嘔吐等ノ外、中樞刺戟ノ爲メ時トシ

テ癲癇様發作ヲ發スルコトアリ、又比較的少量一日一五〇ニテ中毒死ヲ來シタルコトアリ、故ニ其用量ヲ節シ(一回〇・二、一日量〇・八ヲ超ユベカラズ)且之ガ持長ヲ避ケ、必要アラバ「ヂウレチン」等ヲ以テ之ニ代ユベシ。

△「醋酸ナトリウムテオフリリン」 Theophyllinum natrio-aceticum

無色ノ粉末ニシテ二十五分ノ水ニ溶解ス。

多量ノ水ニ溶解シ食後ニ分服セシムレバ胃腸症ヲ發スルコトナシ。一回〇・三—

〇・五、一日量一・五ヲ超ユベカラズ。

△「サリチール酸」ナトリウムテオフリリン Theophyllinum natrio-salicylicum

上ニ同ジ。

○茶及珈琲

茶及珈琲ハ共ニ嗜好品中ノ最優良ナルモノ、而シテ藥物トシテノ價值亦尠シトセズ。

茶ニ二種アリ。人工加熱ニ由リ迅速ニ乾燥セシメタルモノ之ヲ綠茶トナシ、徐々ニ乾燥セシメ醱酵作用ニ由リ暗色トナリタルモノ之ヲ紅茶トナス。茶ハ一・五—三・五%ノ「カフェイン」ト少量ノ「テオフリリン」ノ外、〇・六—一%ノ揮發油ト一〇—三〇%ノ鞣酸トヲ含有ス。珈琲ハ珈琲豆ヲ焦蒸シタルモノニシテ一・二—一・四%ノ「カフェイン」ノ外、約〇・二—二%ノ焦性揮發油ト四—六%ノ鞣酸トヲ含有ス。

茶及珈琲

茶及珈琲ノ作用ハ之ヲ「カフェイン」ト揮發油トニ歸スベシ。即チ此兩者ハ共ニ大脳ノ機能ヲ亢進スルガ故ニ忘疲破睡ノ功アリ。殊ニ疲勞ニ對シテハ「カフェイン」ノ筋作用モ亦佳良ナル影響ヲ與フ。是レ疲勞ハ中樞興奮性及筋收縮力ノ減退ニ由テ來ル現象ナレバナリ。茶又ハ珈琲ヲ喫飲スレバ能ク一時性過度ノ勞働ニ耐ヘ得ルコトハ行軍若クハ登山等ノ際屢々經驗セラル、所ナリ。

「カフェイン」〇・二五ヲ二時間前ニ内服スレバ、疾走又ハ登山ニ由テ來ル急性呼吸困難ヲ豫防シ得ト云フ。

「カフェイン」ガ内臟神經下ノ血管ヲ收縮セシメ、多量ノ血液ヲ腦ニ導クコト亦破睡作用ヲ助ク。殊ニ食後血液消化管ニ集注シ腦貧血トナリ爲メニ倦怠ヲ覺ヘ睡眠ヲ催スノ時一碗ノ茶能ク氣力ヲ恢復セシメ睡魔ヲ逐フハ此理ニ由ル。

五〇—六〇ノ茶葉若クハ一六〇—一七〇ノ珈琲ヨリ製セル一磅ノ浸劑ハ共ニ〇・一—〇・二ノ「カフェイン」ヲ含有シ、既ニ其有効量ニ達ス。

其他「カフェイン」ノ作用ニ由リ認識、注意、結合、判定等ノ諸能力増大セラレ、反應時亦短縮セラル、ガ故ニ凡ソ腦力ヲ費スガ如キ作業ヲ行フニ當リ有利ノ影響ヲ齎ラヌモノナリ。

輕度ノ虛脱症又ハ心臟衰弱ニ之ヲ溫喫セシムレバ心動ヲ整ヘ皮膚ノ血流ヲ盛ニシ呼吸量ヲ増ス等著キ衝動物作用ヲ呈ス、又嘔氣、頭痛等ヲ去リ、酒精飲料ノ中毒

ヲ輕快セシムル等ノ効モ亦看過スベカラザルモノナリ。

茶及珈琲中ノ鞣酸ハ多數ノ「アルカロイド」及重金屬鹽ト不溶解性ノ沈澱ヲ形成スルガ故ニ是等ノ中毒ニ際シ少クモ一時其吸收ヲ遷延セシム。

要スルニ茶及珈琲ハ毫モ麻醉作用ヲ有セズ、神經及筋ノ二系ニ有利ニ作用ス。蓋シ嗜好品ノ上乘ナルモノナリ。而シテ其濫用ニ由テ發スル神經過敏、不安、震顫、眩暈、頭痛、苦悶、心悸亢進、不眠等ハ之ヲ節約スレバ早晚消失ス。

「カ、オ」及「シヨコラー」

「カ、オ」及其製品「シヨコラー」デハ「テオプロミン」ト少量ノ「カフェイン」ノ外脂肪及含水炭素ヲ含有スルガ故ニ殆ト神經系ヲ興奮スルコトナク主トシテ筋ニ作用シ其疲勞ヲ除キ、且同時ニ滋養品ノ性質ヲ具フ。

二 尿 素

尿素ノ利尿作用

尿素及其製劑ハ容易ニ腸管ヨリ吸收セラル、モ組織細胞ニ竄入スルノ性ニ乏キガ故ニ多量ニ吸收セラル、トキハ血液ノ滲透壓ヲ維持センガ爲メ組織中ヨリ水ヲ奪ヒ腎臟ヨリ濾出セラレ、且同時ニ腎臟ノ血管ヲ擴大スルノ性アルガ故ニ利尿作用ヲ有ス。然レドモ其力甚シク強大ナラズ且奏効ニハ大量ヲ要スルノ不便アリ、行ハレズ。

試験管中ニ於テハ尿酸ヲ溶解スルノ性アルモ體液又ハ尿中ニ於テハ蓋シ此性ヲ發揮スルコトナシ。

尿素

△尿素 *Urea CO(NH₂)₂*

無色ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス味清涼。

肋膜炎、肝臟硬化症等ノ蓄水及心臟患者ノ浮腫或ハ尿石症、石淋等ニ試ム。

處方。尿素一〇〇—二〇〇水二〇〇〇。每一乃至二時一食匙內服。

又硝酸尿素、枸橼酸尿素等ノ製劑アリ。

▲苗陸 *Radix Phytolaccae*

Phytolacca acinosa ノ根莖ヲ採集シ乾燥セルモノナリ。

▲苗陸越幾斯 *Extractum Phytolaccae*

褐色ノ稠厚越幾斯ニシテ水ニ潤滑シテ溶解シ微ニ苦辣性ノ苦味ヲ有ス。極量一回〇・五、一日一五。

利尿作用アリトテ蓄水、浮腫等ニ試ミラル、コトアルモ確効ナシ。

第二十九章 尿防腐藥 *Haurantiseptica*

尿防腐ノ程度

尿防腐藥トハ腎臟ヲ通過シテ尿中ニ出デ之ニ防腐性ヲ與フル藥物ヲ云フ。

尿路ニ細菌發育シテ爲メニ炎症ヲ發シタルトキ、皮膚ニ對スル防腐性洗滌ノ如ク防腐力ヲ有スル尿ヲ以テ時々之ヲ洗滌セシムルヲ得バ當然其癒期ヲ短縮スベキ理ナリ、然レドモ吾人ハ未ダ斯ノ如ク強力ナル防腐性ヲ尿ニ賦與スルノ方法ヲ知ラズ、尿防腐藥ハ其効單ニ尿中ニ於ケル細菌ノ發育ヲ一定度マデ防遏シ、尿ノ分解ヲ抑制スルニ止マル。而モ臨牀上之ニ由テ既ニ多大ノ利益ヲ享クルコトアリ。

尿路ニ細菌性疾患アルトキハ、尿ハ往々其放出セラレザル前ニ既ニ分解シテ刺激性物質ヲ生成シ、焮衝セル粘膜ヲ刺激シテ其症候ヲ増悪セシメ、又ハ細菌盛ニ尿中ニ繁殖シテ病變ヲ瀰蔓セシムルモノナリ、此ノ如キ場合ニ尿防腐藥ハ疾患ノ増悪ヲ防ギ、間接ニ其治癒ヲ促スノ効アリ、故ニ尿防腐藥ハ痲病ノ如キ尿路ノ傳染性疾患ニ對シ局所療法ト相待テ著シキ効力ヲ示ス。

多數ノ物質ハ其吸收セラレテ尿ニ排泄セララル、ニ至ル間ニ幾多ノ變化ヲ蒙ルガ故ニ、元來防腐力ヲ有スル物質モ其尿ニ出ヅルニ當リテハ全ク無効ナルヲ常トス、且身體組織ニ對シテ著ク有害ナルモノハ初メヨリ之ヲ使用スルヲ得ズ、故ニ尿防腐藥トシテハ比較的無害ノ形ニテ體中ヲ循環シ、腎臟ニ於テ變化シ防腐性ヲ取

腎臟刺激

尿防腐藥ノ應用

尿防腐藥ノ多數ハ同時ニ腎臟ヲ刺激シ其充血ヲ惹起スルガ故ニ少量ニ於テ能ク尿量ヲ増大ス爲メニ尿路ハ多量ノ稀薄ナル尿ヲ以テ洗滌セラレ其疾患ニ良好ノ影響ヲ與フ然レドモ腎臟刺激一定度ヲ超ユルトキハ急性腎臟炎ノ症狀ヲ發シ尿ニ蛋白血球圓柱等ヲ混ズルニ至ル

尿防腐藥ハ主トシテ腎盂膀胱尿道ノ細菌性疾患殊ニ痲病ニ應用セララル稀ニハ利尿藥トシテ用キラルコトアルモ腎臟ニ疾患アルモノニハ嚴ニ之ヲ禁ズベシ又カテーテル挿入ニ當リ細菌ノ附著進入シテ増殖スルコトアルガ故ニ之ヲ豫防センガ爲メニ使用セララルモノアリ

揮發油類

揮發油類ノ作用

此種ニ屬スルモノハ主トシテ揮發性ニシテ容易ニ吸收セララルテルペン及テールベンアルコホルヨリ成ル揮發油ヲ含有ス其他コバイババルサムノ如キハ樹脂酸ヲ含有ステルペン及テールペンアルコホルハ一部分ハ肺臟ヨリ排出セララルモ大部ハグリクロン酸及硫酸ト抱合シテ無作用トナリ尿ニ出ヅ而シテ腎臟ヲ通過スル際一部分再ビ酸ヨリ離レ以テ尿ヲ防腐シ又多少腎臟ヲ刺激シテ尿量ヲ増大ス樹脂酸ハ局所刺激性強クシテ大量ヲ用ユルトキハ尿路ノ刺激症狀ヲ發シ腎臟痛蛋白尿膀胱痛等ヲ來ス亦尿ニ多少ノ防腐性ヲ與フルガ如シ

尿性狀ノ變化

此種ノ藥物ヲ内服シタル後排泄セララル尿ハアルカリ性銅液ヲ還元ス是レグリクロン酸ノ爲メニシテ多クハ糖分ナラズ但シコバイババルサムノ如キハ糖尿病患者ニ用キテ尿糖ヲ増量セシムト云フ又樹脂酸ヲ含有スル藥物ヲ攝取セル後ノ尿ハ硝酸ニ由テ沈澱ヲ生ズルコト蛋白尿ニ似タリ然レドモ是レ樹脂酸ノ遊離ニ由テ起ル現象ニシテ酒精ヲ加フルトキハ之ニ溶解ス

▲「コバイババルサム」 Balsamum Copaivae

Copaifera 屬諸種植物ノ幹部ニ附セル根根ヨリ滲出セル「バルサム」ナリ澄明多少濃厚ノ液ニシテ帶黃類褐色ヲ有シ螢石彩ヲ現ハサズ或ハ之アルモ僅微ニ過ギズ香氣ハ特異味ハ辛烈ニシテ少シク苦シ

「コバイバ」油ト稱スル「テルペン」 $C_{10}H_{16}$ 及「テルペン」アルコホルノ外「コバイバ」酸ナル樹脂酸ヲ含有ス稀ニ疥癬ニ外用シ又ハ多量ノ分泌アル氣管支炎ニ内用(制分泌防腐ノ効アリト云フ)スルコトアルモ主トシテ尿路ノ細菌性炎症ニ用キラル「コバイバ」尿ハ長時間之ヲ放置スルモ惡臭ヲ發セズ後途ニ微ヲ生ズルニ至ルモ細菌ハ殆ト蕃殖スルコトナシ又其實際尿路ノ疾患ニ有効ナルコトハ尿道瘻孔ヲ有スル痲病患者ニ「コバイバ」サルサムヲ與フルトキハ瘻孔ヨリ後部即チ尿ヲ以テ洗滌セララル部ハ速ニ症狀ノ輕快スルヲ見テ知ルベシ

揮發油類

適應症ハ痲病殊ニ劇烈ナル炎症ノ經過シテ亞急性又ハ慢性トナリタルモノナリ。急性ノモノニハ時トシテ刺戟症狀ヲ増大セシム。〇五—二〇ヲ一日三乃至四回膠囊劑丸劑又ハ乳劑トナシ内用セシム。

副作用トシテ時ニ胃痛、屢氣、下痢等胃腸ノ刺戟症狀ヲ見ル。大量ハ腎臟ヲ刺戟シ蛋白尿、血尿等ヲ來ス。又蕁麻疹、麻疹等種々ノ發疹ヲ見ルコトアリ。

▲「コバイバ」膠囊 Capsulae Copalivae

各〇五「コバイバ」バルサムヲ包有ス。

△「コバイバ」油 Oleum Copalivae

「コバイバ」バルサム「中樹脂分ヲ除キタルモノニシテ無色稀薄ノ油ナリ。

胃腸ヲ刺戟セズ又腎臟ヲ害スルコト稀ナルモ、尿防腐力亦微弱ナリト云フ。十乃至三十滴膠囊劑トナシ内用。

▲菓澄茄 Cubebae

Piper Cubeba ノ成長セル未熟ノ果實ヲ採集シ乾燥セルモノ、略球形ヲナシ直徑五密迷ヲ超ヘズ、氣味芳香性ニシテ苦シ。

揮發性菓澄茄油 Oleum Cubebanum aethericum (主トシテ「テルペン」 $C_{10}H_{16}$ ヨリ成ル)ト菓澄茄酸ナル樹脂酸ヲ含有ス。効用「コバイバ」バルサムニ類ス。痲性尿道炎ニ對シ一〇—三〇ヲ一日二乃至三回、散劑又ハ砥劑トナシ内用。

處方。菓澄茄末一五〇「コバイバ」バルサム三〇〇「タマリンド」六〇〇。右砥劑一日二回一茶匙宛内用。

▲菓澄茄越幾斯 Extractum Cubebarum

「エーテル」酒精ヲ以テ製シタル稀薄越幾斯ナリ。

〇三—一〇ヲ膠囊劑又ハ丸劑トナシ、一日二乃至三回内用。

▲白檀油 Oleum Santali

Santalum album ノ木材ニ水ヲ和シ蒸餾シテ得タル揮發油ニシテ、淡類黃色又ハ黃色濃厚ノ液ナリ。佳香ヲ有シ味背烈ナラズカシテ微ニ苦シ。

「テルペン」アルコホル「ヨリ成リ、樹脂酸ヲ含有セザルガ故ニ刺戟性少ク、從テ新鮮ナル痲病ニ使用セラレ、速ニ尿道ノ灼熱ヲ去リ分泌ヲ減シ尿ヲ澄明ナラシムルノ効アリ。胃腸ノ刺戟症狀、發疹等ハ只粗惡品ニ就テ之ヲ見ルノミナリト云フ。又惡臭アル氣管支炎ニ内用セシム。稀ニ外用藥トシテ痒癬ニ塗布セラル、コトアリ。

用法ハ内用ニハ〇五ヲ膠囊ニ容レ、一日六乃至九個。外用ニハ一〇—五〇%軟膏トナス。

△「ゴノロール」(サンタロール) Gonorol (Santanol)

白檀油中三百度ニ於テ沸騰スル部分ナリ。殆ド無臭無色ノ液ナリ。

白檀油ヨリモ更ニ有効ニシテ、局所刺戟、皮膚發疹等ヲ發スルコト稀ナリト云フ。

揮發油類

痲病ニ對シ〇三ヲ膠囊ニ入レ一日三乃至四個、又ハ十乃至二十滴宛一日三回内用。

△「サロサントール」Salosantal

白檀油ニ三三%ノ「サロール」ト薄荷油トヲ加ヘタルモノ、淡黄色澄明稀薄ノ液ナリ。

痲病殊ニ痲性膀胱炎ニ使用セラル。〇五ノ膠囊ヲ一日六個或ハ十乃至二十滴ヲ一日三回内用。

△「ゴノサン」Gonosan

二〇%ノ「カワ」ノ樹脂様越幾斯ヲ含有スル白檀油ナリ。帶黄綠色、半透明芳香性油狀ノ液ナリ。

白檀油製劑中最弘ク行ハル、モノ、一ナリ。副作用極メテ稀ニシテ(時トシテ輕キ下痢ヲ發スルコトアリ)且「カワ」ノ有効分ヲ含有スルガ故ニ、尿路ノ知覺ヲ痲痺シ勃起竝ニ遺精等ヲ防遏スルノ効アリ。

「カワ」Kawa ハ南洋諸島ニ産スル *Macropiper mellysiacum* ノ根ニシテ、土人之ヲ嚙ミテ飲料ヲ製ス、恰モ酒精性飲料ノ如キ痲醉作用アリト云フ。其有効分ハ「カヴァイン」Cavain ト稱セラル、樹脂様ノ物質ニシテ、之ヲ味ヘバ始メ少シク苦ク、次デ辛辣ヲ覺ユルモ、後口腔ノ知覺ヲ鈍麻セシム。他ノ粘膜結膜ニ對シテモ同一ノ局處痲醉作用アリ。吸收作用トシテ運動障害、睡眠狀態進ンデハ意識ヲ失ヒ、全身知覺減退ス。而シテ其一部ハ尿中ニ出デ、尿路ニ局所知覺痲痺ヲ起スモノ、如シ。

尿道膀胱等ノ急性及慢性痲病ニ用ユ。〇三ノ膠囊ヲ二個宛一日三四回内用。

△「サンチール」Santyl

白檀油ノ「サリチール」酸エステルナリ。淡黄色ノ油ニシテ殆ド無味無臭ナリ。

胃腸症ヲ來スコト稀ニシテ、亦一ノ良劑タリ。急性及亞急性痲病ニ用ユ。二十乃至三十滴ヲ牛乳ニ加ヘ一日三回食事中又ハ食後ニ内用ス。膀胱炎アルモノニハ「ウロトロピン」ヲ伍ス。

△「アレノール」Arhenol

白檀油ヨリ得タル「テルペン」アルコールナリ。無色油狀ノ液ニシテ白檀油ト同効ナリ。〇二ノ膠囊ヲ一日六乃至十二個内用。

△「ブレナール」Blenal

白檀油ノ「炭酸」エステルニシテ、無味無臭黄色ノ液ナリ。十五滴宛一日三回、又ハ〇三ノ膠囊ニ個宛一日三回内用。

△「カムフサン」Camphosan

一五%ノ樟腦酸メチルエステルト八五%ノ「サントロール」ヲ含ム澄明ノ液ナリ。〇三ノ膠囊ヲ二個宛一日三乃至五回。

△「アロサン」Allosan

「アロファン」酸Allophanureト白檀油ノ化合物ナリ。無色無味結晶性ノ粉末ニシテ、腸ニ到リ始メテ分解吸收セラル。一〇—二〇ヲ散劑トナシ一日三回。

▲杜松實 *Fructus Juniperi*

揮發油類

Juniperus communisノ果實ヲ乾燥シタルモノ、球形ニシテ直徑九密迷ニ至ル味ハ強芳香性ニシテ甘シ、杜松實油ノ外、葡萄糖ヲ含有ス。

尿消毒藥トシテヨリモ寧ロ利尿藥トシテ使用セラル。一〇〇—二〇〇ヲ一日量トナシ、浸劑トシ内服セシム。但シ大量又ハ持長スル時ハ腎臟炎ヲ發ス、故ニ腎臟ニ疾患アルモノニ之ヲ使用スベカラズ。

▲杜松實油 Oleum Juniperi

杜松實ニ水ヲ和シ蒸餾シテ得タル揮發油ナリ。澄明無色或ハ淡類黃色稀薄ノ液ニシテ、特異ノ香味ヲ有ス。

利尿藥トシテ水腫ニ用ヒ、又膀胱加答兒ニ用ユ(二乃至五滴ヲ砂糖ニ和シ内用又皮膚刺戟藥トシテ、俱麻質斯等ニ外用スルコトアリ。

▲杜松實精 Spiritus Juniperi

杜松實油二分、酒精九十八分ヨリ成ル無色ノ液ナリ。

利尿藥トシテ一〇—三〇一日數回單味又ハ他ノ利尿藥ニ加ヘ内用、又皮膚刺戟藥トシテ外用スルコトアリ。

▲フ「葉 Folia Bucco

Bursera 屬植物ノ葉ヲ乾燥セルモノニシテ、香氣芸香ニ類シ、味芳香性ナリ。

揮發油ヲ含有シ、從テ利尿及尿防腐ノ効アリ。膀胱尿道ノ加答兒ニ内用セシム(一。

〇—五ヲ散劑トナシ、一日三乃至四回、又ハ五—一五%ノ浸劑トナシ、一食匙宛内用。

△樺葉 Folia Betulae

Betula albaノ葉ヲ乾燥セルモノナリ。

近來利尿ノ効アリトシテ、盛ニ推奨セラル(八〇〇—一〇〇〇ヲ浸劑六〇〇〇トナシ、一日中ニ内用。腎臟炎患者ニ對シ、尿ノ蛋白ヲ減ズト云フ。

ニ「ヘキサメチレンテトラミン類

「ヘキサメチレンテトラミン」ハ「フォルムアルデヒド」ト「アムモニア」トノ化合物ナリ。「フォルムアルデヒド」ト異リ、局所作用ヲ有セズ、之ヲ内用スルトキハ尿ニ出デ分解シテ「フォルムアルデヒド」ヲ發生シ、尿ヲ防腐ス。

利尿作用ヲ有スルト雖モ、腎臟ヲ刺戟セザルガ故ニ數週或ハ數月ニ亙リ之ヲ使用スルヲ得。

適應症ハ、痲菌又ハ大腸菌ニ因ル膀胱炎、細菌尿、慢性腎盂炎等一般ニ尿路ノ傳染性疾患ナリ。又「カテーテル」挿入ニ際シ膀胱炎ヲ豫防スルノ効アリ。傳染性腎臟炎例ヘバ猩紅熱ニ來ル如キヲ輕快セシメ、又之ヲ豫防シ得ト云フ。

本類ノ藥物ハ又尿酸ヲ溶解スルノ性ヲ有スルガ故ニ、尿酸結石、又ハ一般ニ尿酸素質ニ使用セラル。

▲「ヘキサメチレンテトラミン」(「ウトロピン」) Hexamethylenetetraminum (Urotropinum)

「ヘキサメチレンテトラミン」類



白色結晶性ノ粉末ニシテ臭氣ナク、味初メ甘ク後微ニ苦シ、二三分ノ水ニ溶解シ弱アルカリ性ノ反應ヲ徴ス。

應用上記ノ如シ、〇・五ヲ散劑又ハ錠劑トナシ或ハ曹達水ニ和シ一日數回内用セシム、持長スルニハ一日一〇—二〇ヲ超ユベカラズ。

△「ヘトタリン」 Hetralin (Dioxybenzotrotopin)

白色針狀ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス。

一日量一・五—二・〇ヲ與ヘ、症狀輕快スレバ〇・五—一・〇ニ減ズ、副作用トシテ輕微ナル胃腸症ヲ訴フルコトアリ。

△「ボロヴェルチン」 Boroverin

「ウロトロピン」五—一五%硼酸四八五%ヨリ成ル無色ノ結晶ニシテ、水ニ溶解シ、酸性ノ反應ヲ徴ス。

有力ナル尿防腐藥ナリ、一日量一〇—二〇ヨリ四〇ニ至ル、服藥後胃腸症ヲ訴フルコトアリ。

△「チストフリン」 Cystopurin

「ウロトロピン」二分、醋酸ナトリウム二分ヨリ成ル無色ノ結晶ナリ、膀胱炎竝ニ瘰癧ニ用ユ。

△「チタリン」 Citarin $\text{C}_7\text{H}_5\text{O}_7\text{Na}_3$

枸橼酸ナトリウムニ「ファルムアルデヒド」ヲ作用セシメテ製シタルモノナリ、無色ノ結晶ニシテ容易ニ水ニ溶解ス。

本品ハ主トシテ尿酸素質即チ尿酸性關節炎、尿酸腎臟結石等ニ使用セラル。殊ニ痛風ノ急性發作前ニ内服セシムルトキハ二十乃至三十分ニシテ奏効スト云フ。二〇ノ錠劑ヲ初メ一日四個後三個トナス。食思缺損、消化不良、下痢等ヲ來スコトアリ。

△「ヘルミトール」 Helmiol

「チタリン」ト「ウロトロピン」ノ化合物ナリ、無色結晶性ノ粉末ニシテ微ニ甘味アリ。

「ウロトピン」竝ニ「チタリン」ノ効ヲ兼有ス。從テ尿酸素質ニ竝ニ尿防腐藥トシテ使用セラル。用量一回一〇又一—二%溫溶液ノ百乃至二百立方仙迷ヲ膀胱内ニ注射シテ防腐ノ効アリ。

新「ウロトロピン」 Neu-Trotopin ト稱セラル、モノハ「ヘルミトール」ト同一物ナラン

▲「ウワウルミ」葉 Folia Uvae Ursi

Arctostaphylos Uva Ursi、葉ヲ乾燥セルモノ、味ハ收斂性ナリ。

「アルブチン」 Arbutin $\text{C}_8\text{H}_{16}\text{O}_7$ 及「ヒリコリン」 Erkolin ナル二種ノ糖原質及ビ樟腦様ノ「ウルソニン」 Ursol 及鞣酸ヲ含有ス。アルブチンハ腎臟ニ於テ分解シ糖竝ニ「ヒドロキノン」 Hydroquinon $\text{C}_6\text{H}_4(\text{OH})_2$ ヲ生ズ。ウワウルミ葉ノ膀胱炎ニ作用シ且尿ニ防腐性ヲ與フルハ蓋シ「ヒドロキノン」ノ發生スルニ因スルモノナラン。本藥ヲ服用セ

「ヒキザメチレン」チアラミン類

ル後ノ尿ハ放置後ヒドロキノールノ酸化ニ因テ暗色トナルアルカリ性尿ニ於テハ放尿時ニ既ニ暗色ヲ呈ス。是レ尿中ニ「ヒドロキノール」ノ存在スル證ナリ。又利尿作用ヲ有ス。從前鞣酸ヲ以テ主効分ナラント思爲セラレタルモ、鞣酸ハ其形ニ於テ尿中ニ出現セザルガ故ニ局所作用ヲ尿路ニ及ボスコト能ハズ（收斂藥ノ部參照）。
 尿路ノ加答兒就中膀胱炎ニシテ惡臭ヲ放チ溷濁セルアルカリ性尿ヲ排泄スルモノニ効アリ。一〇%ノ浸劑又ハ煎劑トナシ一食匙宛一日四乃至六回内用。
 「アルブチン」自己モ同一ノ目的ニ使用セラル、コトアルモ一回一〇内用効力生藥ニ如カザルガ如シ。

○第九 生殖器ニ作用スル藥物

第三十章 子宮緊縮藥 Uterostonica

子宮ノ運動

子宮ハ自働的ニ振子様竝ニ蠕動様運動ヲ營ムコト恰モ腸管ノ如ク、且其運動ハ摘出セル子宮ニ於テモ尙ホ且之ヲ見ルガ故ニ其要件ハ子宮自己ニ存スルモノナルベシ。然レドモ又外來ノ神經ヲ經テ中樞神經系ヨリモ影響セララル、モノニシテ就中交感神經（下腹神經）中ニハ制止及催進ノ二纖維アリ、故ニ之ヲ刺戟スルトキハ動物ニ由リ（例ヘバ猫）初メ制止シ後催進シ、又ハ（兎ニテハ）初メヨリ催進ス、又一般ニ懷妊セル子宮ハ初メヨリ催進ス、又交感神經中ニハ血管收縮纖維ノ包有セララル、コト勿論ナルガ故ニ「アドレナリン」ヲ作用セシムレバ下腹神經ノ末端ニ作用シ子宮ノ貧血及高度ノ收縮ヲ來ス。

自律神經（骨盤神經）モ亦催進纖維ヲ有スルガ如シ、即チ「ピロカルピン」、「フィゾスチグミン」等自律系ノ末端ヲ刺戟スル藥物ハ皆子宮ヲ收縮セシメ、之ニ反シ「アトロピン」ハ少量ニテハ少シク其運動ヲ亢進セシムルモ大量ハ之ヲ制止ス。其他自律神經中ニハ血管擴大纖維アリト云フ。

子宮運動ノ中樞ハ腰髓ニ在リ。而シテ間接ニ大腦皮質ヨリ影響セララル。又劇烈ナル胃腸ノ刺戟ハ反射的ニ子宮ノ收縮ヲ來ス。彼ノ蘆薈ノ如キ、又ハ「サビナ」油ノ如キハ腸管ヨリ延テ子

宮ノ充血ヲ來シ其結果トシテ子宮ヲ收縮セシムルノ外又反射的ニ之ヲ喚起スルモノナラシム。

子宮ノ自動運動ハ平時ニ於テハ微弱ナルモ妊娠時ニハ緩慢ニシテ而モ強大トナル。且妊娠セル子宮ハ比較的微弱ナル影響ニ由テ著シキ收縮ヲ喚起ス。是レ多數ノ植物性瀉下藥、自律神經毒等ガ少量ニ於テ既ニ墮胎ヲ起ス所以ナリ。

子宮緊縮藥ハ子宮内出血ヲ制止スルノ効アリ。是レ幾分ハ子宮緊縮藥ガ同時ニ末梢血管ニ對シ收縮作用ヲ有スルニ因ルト雖モ、獨リ之ヲ以テ止血ノ原因ト見做スヲ得ズ。全身ノ末梢血管收縮スルトキハ血壓ノ上騰ヲ來シ却テ出血ヲ促スノ虞アルノミナラズ、血管收縮ノミニ因テ止血セシメントセバ他ノ重要ナル臟器ノ血管ニモ強度ノ收縮ヲ來シ非常ナル危険ヲ伴フモノトス。故ニ止血作用ノ主因ハ寧ろ間接ニ子宮ノ收縮ニ在リ。解剖學上ヨリ觀察スルモ子宮壁ノ收縮ハ其血管ヲ壓迫收縮セシムルニ適ス。是レ血管收縮藥ガ他内臟ノ出血ニ作用セズシテ唯子宮ニ對シ止血ノ効ヲ有スル所以ナリ。

子宮緊縮藥ハ墮胎藥トシテ流産又ハ早産ヲ促スガ爲メ使用セラル、モ危険ヲ伴フガ故ニ行ハレズ。分娩時ニ際シ陳痛微弱ナル時ニ使用セラレ得ルモ、子宮ハ多クハ爲メニ痙攣性收縮ヲナシ却テ分娩ノ進行ヲ妨グルコトアリ、又然ラザルモ子宮口ノ開大十分ナラザルトキ、殊ニ骨盤狭小ナルモノニハ危険ナリ、故ニ只分娩ノ末期殊ニ後産期ニ於テ使用セラル、ノミ。

子宮緊縮藥ノ應用

子宮緊縮藥ノ止血作用

子宮止血藥トシテ各種ノ子宮内出血ニ使用セラル。分娩後ノ子宮無力及復小不完全ナルモノ、出血アルモノ、分泌過多ナルモノ等ニ有効ナリ。

「ピロカルピン」ハ陳痛催進藥トシテ又「ニコチン」劑ハ民間墮胎藥トシテ使用セラレ、コトアリ。其他「キニーネ」如キ亦子宮自己ニ作用シテ收縮ヲ促スガ故ニ近時亦陣痛充進藥トシテ推奨セラル、モ、通常專ラ子宮ニ對シ使用セラル、ハ左ノ數藥ナリ。

一 麥角

麥角 *Scaevola cornutum*, Mutterkorn. *Claviceps purpurea* ナル菌ノ保藏形ナリ、種々ノ禾本科植物殊ニ大麥ノ穗ニ寄生シ暗色ノ角狀ヲナシ穀粒ノ間ニ發育ス。

麥角ヲ含有セル麥粉ヲ食用ニ供スルトキハ「エルゴチヌムス」*Ergotismus*ト稱セラレ、慢性中毒症狀ヲ發ス。

麥角ハ濕地ヲ好ムガ故ニ雨量多キ年ニ於テ盛ニ發育シ爲メニ古來歐洲ニ於テハ屢、麥角中毒ノ地方性大流行ヲ見タルコトアリ。近年穀粒ノ精選セララル、ニ至リ、著ク其數ヲ減ゼリト雖モ、尙露西亞西班牙等ニ於テハ時々其續出スルヲ見ル。而シテ麥粉中〇五—一〇%ノ麥角分ヲ含有スルトキハ能ク中毒ヲ發スト云フ。

中毒症狀ニ二型アリ。痙攣性 *Ergotismus gangranosus* 及痙攣性 *Ergotismus convulsivus* 是ナリ。地理的關係竝ニ流行ニ山テ殊ニ多ク兩者ノ孰カヲ見ルコトアリ、又單ニ一型ノミノ流行スルコトアリト云フ。

麥角

六〇九

麥角中毒

瘰癧性麥角中毒ハ屢指ノ知覺鈍麻竝ニ蟻走感及吐瀉ヲ以テ起リ、二三日ニシテ殊ニ四肢ニ水泡ヲ發シ、指尖黑變乾燥ス。麥角ノ攝取ヲ廢スルトキハ漸次分割線ヲ生ジ、瘰癧部脱落スルモ、然ラザルトキハ漸次中央ニ進ミ、遂ニ四肢悉ク瘰癧死離落シテ頭部ト軀幹トノ、ミヲ殘スニ至ルト云フ。又鼻頭耳殼等モ同一ノ變化ヲ來ス、而シテ瘰癧ノ發成竝ニ分割ニハ劇烈ナル疼痛ヲ伴フ。但シ近來ハ昔時ノ如ク甚シキ瘰癧ノ發生ヲ見ルコトナシ。

瘰癧性中毒モ亦多クハ初メ手足後ニハ全身ノ知覺異常蟻走感ヲ以テ始マリ、故ニ本症ヲ又蟻走病 Kriebelkrankheit ト云フ。同時ニ吐瀉ヲ發シ、次デ特異ノ瘰癧ヲ發ス。即チ或ハ諸筋殊ニ四肢屈筋ニ慢性ノ疼痛性强直様收縮ヲ來シ、筋萎縮及永久の短縮ヲ殘スコトアリ、或ハ重症ニテハ舞踏病様又ハ癲癩様ノ瘰癧發作ヲ來シ、數日又ハ數週ニシテ斃ル、カ又ハ精神障害ヲ殘シ痴呆狀トナルコトアリ。

又麥角中毒ノ經過中屢早産又ハ流産ヲ見ル

之ヲ要スルニ麥角中毒ニ於テ見ル主要ナル現象ハ瘰癧、瘰癧竝ニ流産ナリ。此作用ハ亦動物試驗ニ於テモ之ヲ證明スルヲ得ルモ、麥角ノ有効成分ノ研究ガ今日迄多數ノ學者ニ由テ研索セラレタルニ拘ラズ、末ダ全ク闡明セラレザルガ故ニ、此等現象ガ同一ノ物質ニ由テ惹起セラル、モノナルヤ、又ハ麥角中ニ多數ノ有効成分含有セラル、ヤ、之ヲ斷言スルヲ得ズ。

動物試驗ニ徵スルニ、麥角ハ小血管ヲ持續的ニ收縮セシム。此作用ハ末梢性ニシテ頸髓ヲ切斷セル動物ニ於テモ尙能ク麥角ヲ以テ血壓ヲ亢進セシムルヲ得。小循環ハ血管收縮藥ニ對スル反應一般ニ微弱ナルヲ常トスルモ、麥角ニ由テ亦著シク

麥角ノ血管作用

收縮セラル

血管ノ瘰癧性收縮ノ結果トシテ一定ノ動物ニ於テハ瘰癧ヲ發ス。殊ニ雞ニ於テ其發生最著明ナリ。麥角ノ必要量ヲ與フルトキハ雞冠及腮葉ハ血行停止ノ徵トシテ先ヅ青色ヲ呈シ、次デ漸次黑變乾燥萎縮シ、分割線ヲ生ジテ脱落ス。舌端及會厭軟骨等他ノ終端部ニモ亦同一ノ變化ヲ來シ、時トシテ兩翼ノ全ク瘰癧死離落スルコトアリ。胃腸ニ於テモ粘膜炎ノ壞死ニ由リ出血及潰瘍ヲ發ス。腸ニテハ殊ニハイエル氏板ニ腫脹及瘰癧ヲ見ル。鏡檢上瘰癧部ノ血管ハ硝子様血栓ヲ以テ殆ト填塞セララルルヲ見ル、是レ恐ラク血管ノ瘰癧ト内膜ノ變化トニ因テ來ルモノニシテ、爲メニ血行杜絶セラレ前記ノ症狀ヲ呈スルモノナラン。故ニ人ニ於テモ又他ノ動物ニテモ瘰癧ハ常ニ體ノ末端ニシテ血行ノ本來既ニ緩慢ナル部局ニ來ルヲ常トス。

瘰癧

子宮收縮

大量ヲ與フルトキハ動物ニ就テ初メ搖擗性後強直性瘰癧ヲ發シ、其狀癲癩ニ彷彿タリ、又胃腸ノ瘰癧ニ由テ吐瀉ヲ發ス。後遂ニ一般麻痺ヲ來シ、呼吸靜止ス。麥角ハ其未ダ認ムベキ中毒ヲ發スルニ足ラザル量ニテ子宮ノ收縮ヲ亢進セシム、殊ニ動物ガ妊娠シテ末期ニ近クニ從ヒ益著明ナリ、而シテ時トシテ正規ノ陣痛ニ類セル周期性收縮ヲ來スコトアルモ、又長時間ノ強直様收縮ヲ營ムコトアリ、後ノ場合ニ於テハ胎兒ハ勿論窒息ス。

麥角ノ有効成分

既ニ記セルガ如ク、麥角ノ有効成分ニ關シテハ諸説區々ニシテ、コヘルト Kohert ニ從ヘバ

麥角

麥角ハ血管收縮竝ニ壞疽ヲ惹起スル「スファツェリン酸」Sphaecelinsäureト稱スル樹脂様物質ト「ピクロトキシニン」ニ類スル痙攣作用ヲ有スル「コルヌチン」Cornutin ナル「アルカロイド」トヲ含有ス。但後者ハ稀ニ且極メテ少量ニ麥角中ニ存在スルモノニシテ、動物ニ對シ單ニ一過性ノ急性中毒ヲ發スルノミナルガ故ニ人體ニ發スル慢性ノ痙攣症狀ハ「コルヌチン」ノ作用ニ非ズシテ「スファツェリン酸」ノ血管作用ニ由リ、腦ノ貧血及榮養障害ニ由テ來ルモノナランカ。其他「コーベルト」ニ據レバ「エルゴチン酸」Ergochininsäureト稱スル窒素ヲ含有スル酸性ノ糖原質アリ、「サボニン」ニ類似セル性質ヲ備フト云フ。

ヤコビー Jacobyニ據レバ血管作用ヲ有スル主効分ハ「スファツェロトキシニン」ナル樹脂様物質ト及ビ夫トエルゴクリジンErgocryptinナル酸性無作用ノ物質トノ化合物ナル「クリゾトキシニン」Chlostrixinト及無作用ナル鹽基セカリニンSealinト「スファツェロトキシニン」ノ化合物ナル「セカリノトキシニン」Sealininト三物質ナリ。此中「スファツェロトキシニン」ハ極メテ分解シ易キモ、他ノ二ハ比較的安定ナル物質ナリト云フ。此三者ハ均ク動物ニ壞疽ヲ發シ、又妊娠セル子宮ノ收縮ヲ喚起ス。

以上「コーベルト」ノ「スファツェリン酸」及「ヤコビー」ノ三物質ハ共ニ酒精「エーテル」等ニ可溶性ニシテ水ニ溶解シ難キモ、フアレーン Valienニ從ヘバ麥角中ニハ水ニ可溶性ナル「クラヴィン」Clavin $C_{12}H_{15}NO_4$ ト稱スル含窒素物質アリ「アルカロイド」ノ反應ヲ呈セザルモ鹽酸ト化合シテ鹽ヲ形成シ、殆ド毒性ヲ有セズ、動物ニ大量ヲ與フルモ壞疽ヲ來スコトナク、只妊娠セル子宮ニ對シ少量ニ於テ陣痛様收縮ヲ來スノミナリト云フ。

近年ニ至リクラフト Krafft竝ニ之ト全く無關係ニ「パーゲルカール」及「デーレル」Banger, Carr u. Daleノ三氏ハ $C_{12}H_{17}NO_5$ ナル集成ヲ有スル無晶形ノ「アルカロイド」ヲ發見セリ。此物質ハ管テ「タンレー」Tanretガ發見シタル結晶性「アルカロイド」ナル「エルゴチニン」Ergochinin $C_{12}H_{15}NO_5$ ノ抱

水化合物ナリ。エルゴチニンガ作用極メテ微弱ナルニ反シ前記抱水化合物ハ著ク麥角ニ特異ノ作用ヲ享有ス。クラフトハ之ヲ水化「エルゴチニン」Hydroergochininト名ケ「パーゲル等」ハ「エルゴトキシニン」Ergotoxinト稱セリ。「パーゲル」等ハ最近更ニ麥角水製越幾斯ヨリ「バラヒドロキシ」フェニール・エチール・アミン」ニ該當スル鹽基ヲ發見セリ、亦強力ナル血管竝ニ子宮作用ヲ有スト云フ。

其他麥角中ニハ副成分トシテ「ロイチン」「アミン」「類」「ペタイン」「ヒヨリン」等ノ含窒素物、砂糖「マンニット」及多量約三〇—四〇%ノ脂肪油及種々ノ色素ヲ含有スルモ生理的意義ヲ有セズ。

斯ノ如ク麥角有効分ノ研究ハ未ダ終結セザルモ、諸多ノ事實ヨリ推定スルニ有効分ハ必ず容易ニ水ニ溶解スルモノナラザルベカラズ。

麥角有効分ノ研究困難ナルハ、主トシテ其變化シ易キニ由ル、即チ麥角ハ麥ノ收穫前ニ最強大ナル作用ヲ示シ、一年ヲ經過スレバ七分ノ一乃至八分ノ一ノ効力トナリ、二年ヲ過グレバ其十五分ノ一トナル。一説ニ壞疽ヲ發スル作用ハ半年ノ貯藏ニ由テ既ニ消失スト云フ。

一。陣痛微弱ニ對シ使用セラル、モ、時トシテ正規ノ陣痛ヲ旺盛ナラシムルコトナク子宮痙攣ヲ發シ、分娩ヲ妨ゲ且胎兒ヲ死ニ致スコトアルガ故ニ、開口期ニハ之ヲ用ユベカラズ、只歴出期ニ於テ之ヲ試ムベシ。但必要アラバ直チニ人工的ニ分娩ヲ終ラシムルノ覺悟竝ニ準備ヲ要ス。

二。後産期竝ニ分娩後ノ子宮無力ニ對シ子宮ヲ收縮セシメ竝ニ止血セシムル

其分解

麥角ノ應用

ノ効アリ。產褥ニ於ケル子宮不全退行ニ對シ亦然リ。

三。子宮内出血ニ對シ有効ナリ。筋腫ニ對シテハ子宮收縮及貧血ノ結果屢其縮小スルヲ見ル。慢性子宮實質炎ニ對シテモ亦然リ。此止血作用ハ血管作用ヨリモ寧ロ子宮收縮ノ結果ナルガ故ニ、他ノ内出血、紫斑病等ニ對シテ其効果ヲ望ムベカラズ。

四。脊髄疾患例ヘバ脊髄癆、膀胱閉鎖不能、動靜脈瘤又ハ赤痢、腸加答兒等ニ使用セラル、コトアルモ奏効疑ハシ。尿管症ニ對シ時トシテ有効ナルコトアリト云フ。
五。墮胎藥トシテ使用セントセバ少クトモ其中毒量ヲ要ス。吾人ハ胃ニ對スル催吐藥、腸ニ對スル瀉下藥ノ如ク特ニ子宮ニ作用シテ其内容ヲ排出セシムル藥物ヲ知ラズ。

急性麥角中毒

麥角ノ急性中毒ハ立トシテ墮胎ノ目的ニ大量ヲ使用セルトキニ來ル。煩渴、嘔吐、下痢、頭痛昏朦ヲ以テ始マリ、後癲癇様發作ヲ來シ、遂ニ虛脱ニ陥ル。療法ハ速ニ毒物ノ排除ヲカムルノ外對症的手段ヲ取ルベシ。

▲麥角 *Secale cornutum*

Claviceps purpurea ノ特ニ *Secale cereale* ニ發生セル保菌體ヲ採集シ、微温ヲ施シ乾燥セルモノニシテ、鈍キ三稜或ハ四稜形ヲ有シ、多クハ稍彎曲シ、長サ十乃至三十密迷太サ二・五乃至五密迷、兩端少シク狹細トナル、外面ハ暗紫色乃至黑色ニシテ、破折面ハ類赤色或ハ類白色ナリ。極量一回一〇―一日五〇。

〇五―一〇ヲ散トナシ一日三乃至四回内用、又三〇―五〇ヲ浸劑一五〇〇トナシ一乃至二食匙宛、一日數回出血甚シキトキハ一食匙ヲ每十五分ニ與フ。採集後一年以上經過シタルモノハ無効ナリ。

▲麥角越幾斯 *Extractum Secalis cornuti*

赤褐色ノ稠厚越幾斯ニシテ水ニ澄明ニ溶解ス。極量一回〇二―一日〇六。

内用ニハ通常丸劑トナス。麥角越幾斯三〇、甘草末適宜三十九ト爲シ、一日三乃至四回一丸宛、之ヲ皮下ニ注射スルトキハ疼痛ヲ來スガ故ニ腎筋肉ニ注射ス。

處方。麥角越幾斯一〇、水「グリセリン」各二〇。右半乃至一筒ヲ腎筋内ニ注射ス。

▲麥角流動越幾斯 *Extractum Secalis cornuti fluidum*

赤褐色澄明ノ液ナリ。用量麥角ノ如シ、内用藥トス。

以上三種ハ局方藥ナリ、腐敗又ハ効力不同ノ虞アル故ニ、多數ノ新製劑販賣セラレ、然レドモ未ダ完全ナルモノナキガ如シ。

△ボムベロン流動「エロコチン」 *Ergotinum Bombelou fluidum*

暗褐色ノ液ナリ。内用ニハ〇五―一〇注射ニハ二乃至四倍ノ水ヲ以テ之ヲ稀釋スベシ。

△ゴラーツ 麥角透析液 *Dialysatum Secalis cornuti Golaz*

淡赤褐色澄明ノ液ナリ。

内用ニハ二十滴ヲ一日三四回、筋肉内注射ニハ一回一乃至二筒、貯藏一年ニ及ブ

麥角

六五

麥角ノ新製劑

トキハ効力ノ二〇―一五%ヲ失フト云フ。

△「エルゴチノール」Ergotinol

澄明赤褐色ノ液ナリ。

麥角越幾斯ヲ醱酵セシメテ後透析セルモノニシテ、長ク効力ヲ減ゼズト云フ。本品一立方仙迷ハ局方麥角越幾斯ノ〇五ニ該當ス。

△「エルゴチン」Ergotin-Fromm

〇一―〇四ヲ内用又ハ注射。

△「ゼカコルニン」Seacornin

「スファツェリン酸ヲ除キタル麥角製劑ニシテ痙攣ヲ起スコトナシト云フ。〇五―一〇内用又ハ注射。

△「枸橼酸コルヌチン」Cornutum citricum

褐色無晶形ノ物質ニシテ水ニ容易ニ溶解ス。

用量〇〇〇ニト〇〇〇五、一日〇〇一ニ至ル注射ニハ〇〇〇ニ子宮ヲ收縮セシメ止血作用ヲ呈ス。又麻痺性遺精ニ有効ナリト云フ。

△「クラヴァン」Clavin $C_7H_9NO_4$

結晶性粉末ニシテ水ニ溶解ス。クラヴァン 0.002 ニ食鹽 0.008 ヲ含有スル錠劑トシテ販賣セラル。

「スファツェロトキシシン等ノ如ク痙攣ヲ來サズ、又「コルスチン」ノ如ク痙攣作用ヲ有セズ、特殊ニ子宮ノ收縮ヲ來スト云フ。〇〇ニヲ内用又ハ皮下。

ニ「ヒドラスチス劑

「ヒドラスチス」根中ニ二種ノ「アルカロイド」アリ「ヒドラスチン」Hydrastin 及「ベルベリン」Berberin ナリ。就中「ヒドラスチン」ハ其有効成分ニシテ動物ニ中樞性麻痺トシトリキニ―ネニ類スル反射亢進作用ヲ有ス。殊ニ其一現象トシテ少量ニテ既ニ血管運動中樞ニ作用シ血壓ヲ亢進セシム。

「ヒドラスチン」ヲ稀硝酸ト共ニ熱スルトキハ「オピアン酸」Opianäure 及「ヒドラスチニン」Hydrastinin ニ分解ス。後者ハ亦一ノ「アルカロイド」ニシテ其作用母體ニ類スルモ強直作用微弱ニシテ只筋ノ過敏性竝ニ震顫ヲ來スノミナルモ、血管收縮作用ハ頗ル強大ニシテ且持続性ナリ、全身ノ血管甚シク收縮シ血壓頗ル上騰ス。大量ハ中樞神経系ヲ麻痺セシム。

「ヒドラスチン」「ヒドラスチニン」ハ又子宮自己ニ作用シテ其收縮ヲ催進ス。

阿片中ノ「アルカロイド」ナル「ナルコチン」ヲ分解セシムルトキハ「コタルニン」Cotarnin ナル「アルカロイド」ヲ生ス。化學上「ヒドラスチニン」ノ「メトキシ」化合物ナリ。其作用亦「ヒドラスチニン」ニ類シ、血管竝ニ子宮ノ收縮ヲ促ス。

「ヒドラスチス劑

「ヒドラスチン」及「ヒドラスチニン」

「コタルニン」

故ニ上記ノ物質竝ニ其製劑ハ主トシテ子宮出血ニ對シ使用セラル

▲「ビドラスチス根」*Radix Hydrastis*

*Hydrastis canadensis*ノ根莖ヲ根ト共ニ採集乾燥セルモノニシテ香氣微弱味苦シ

稀ニ煎劑トナシ内服セシムルモ(一回〇・五—一・〇)多クハ其製劑ヲ用ユ

▲「ビドラスチス流動越幾斯」*Extractum Hydrastis Fluidum*

暗褐色ノ液ニシテ不快ナル苦味ヲ有ス

子宮内出血ニ内用ス(二十乃至四十滴ヅ、一日數回)又遺精、攝護腺充血、盜汗等ニ試ム、他ノ内臓出血、紫斑病等ニハ効力疑ハシ、墮胎藥又陣痛催進藥トシテハ不可ナリ。是効力微弱ナルト假令子宮收縮ヲ起スコトアルモ其痙攣性ナルガ故ナリ。勿論妊婦ニハ禁藥タリ。

副作用トシテ胃症ヲ來シ、又連用ニ由テ精神障害ヲ見ルコトアルモ稀ナリ。

△鹽酸「ビドラスチン」*Hydrastinum hydrochloricum* $C_{17}H_{17}NO_2 \cdot HCl$

帶黃白色結晶性粉末ニシテ水ニ溶解ス。

〇・〇一—〇・〇三内用効力微弱ナリ。

△鹽酸「ビドラスチニン」*Hydrastininum hydrochloricum* $C_{17}H_{17}NO_2 \cdot HCl$

帶黃白色針狀ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス。稀薄溶液ハ強キ青色ノ螢石彩ヲ呈ス。

〇・〇一—〇・〇三ヲ内用又ハ皮下注射トス。一回量〇・一ニ至ルモ障害ヲ來サズト

云フ有効ナル子宮止血藥ナリ。

△「スチフチチン」鹽酸「コタルニン」*Styptoin* (*Cotarninum hydrochloricum*)

$C_{12}H_{15}NO_4 \cdot HCl + H_2O$

無色ノ結晶ニシテ水ニ容易ニ溶解ス。

輕キ鎮靜作用ト止血竝ニ消炎作用アリ。婦人科ニ於テハ子宮出血、月經過多症ニ用ユ(〇・〇二五—〇・〇五—〇・一内用、又ハ五—一〇%液トナシ注射)。

膀胱出血及膀胱炎ニハ内用ノ外、膠桿トナシ之ヲ挿入シ、又ハ稀薄液ヲ以テ洗滌ス。又癰疽、淋巴管炎等ニ消炎作用アリトシテ外用ス(四—五%「ラノリン」軟膏)肺出血ニ内用セシメ又ハ皮下ニ注射シテ効アリト云フ。

△「スチフトール」(「フタール」酸「コタルニン」)*Styptol* (*Cotarninum phthalicum*)

黄色ノ細微ナル結晶ニシテ水ニ溶解ス。

〇・〇五—〇・一ヲ一日三回内用。

△「コタルギット」*Cotargit*

鹽化鐵ト「スチフチチン」ノ複鹽ナリ。赤色ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス。局所止血藥ナリ

三 「アドレナリン」及「ピツイトリン」

「アドレナリン」ノ血管竝ニ子宮ニ對スル收縮作用ハ既ニ之ヲ論ゼリ。アドレナリンノ皮下又ハ子宮内注射ハ其効一過性ナルガ故ニ子宮筋質内注射ヲ行フ。分娩後「アドレナリン」及「ピツイトリン」

ノ子宮無力ニ對シ又ハ帝王切開術ヲ行フニ當リ子宮ノ貧血ヲ起ス等ニ極メテ有効ナリ。

「ピツイトリン」Pituitinハ腦下垂體ノ漏斗部ヨリ製セル越幾斯ニシテ、兎ニ之ヲ與フルトキハ何等中毒ヲ發スルコトナク子宮ニ極度ノ收縮ヲ喚起セシムト云フ。故ニ子宮無力ニ對シ推奨セラル。其眞價ハ後日經驗ヲ積ムノ後之ヲ決スベシ。

第三十一章 催淫藥 Aphrodisiaca

陰萎

催淫藥ハ陰萎 Impotenzニ對シ使用セラル、藥物ナリ。陰萎ハ糖尿病、慢性酒精中毒等諸種疾病ノ經過中ニ來ルコトアリ、又神經系殊ニ腰髓ノ機能障害ニ由リ勃起中樞ノ興奮性減退ヲ來シ爲メニ交接不能ヲ來スコトアリ。陰萎ニ對シテハ從來「カンタリス」劑ノ如キ尿路ヲ刺戟シテ該部ニ充血ヲ起シ爲メニ勃起ヲ喚起スルモノヲ用ヒ、又「ストリキニーネ」ノ如ク脊髓ニ存在スル中樞ニ作用スルモノヲ用キタルガ、是等ハ皆副作用ヲ有スルガ故ニ漸次其需要ヲ失ヘリ。是ニ反シ茲ニ述ベントスル新藥ハ比較的無害ニシテ選擇的ニ生殖器ノ官能ニ作用スルモノ、如シ、主トシテ神經性陰萎ニ有効ナリト云フ。



無色ノ結晶ナリ、又〇〇〇五宛ノ錠劑トシテ販賣セラル。Corynanthe Yohimbeノ皮中ニ存在スル「アルカロイド」ナリ。

「ヨヒンベ」皮ハ其產地(西部阿弗利加)ノ土人ガ催淫藥トシテ從來使用セルモノニシテ、「ヨヒムビン」及「ヨヒムベニン」ノ二「アルカロイド」ヲ含有シ、殊ニ「ヨヒムビン」ハ効力強大ニシテ溫血動物ニ大量ヲ與フルトキハ流涎、不安、纖維性筋攣縮、痙攣次デ中樞麻痺ノ症狀ヲ發シ、心臟衰弱シ、血壓下降シ、終ニ呼吸麻痺ヲ來ス、少量ニテハ身體

外部殊ニ陰部ノ血管ヲ擴大セシメ、外陰部ノ腫脹ヲ來ス(内臓ハ腎臓ノ外ハ其血管寧口縮小ス)又腰髓ノ勃起中樞ニ作用シ其機能ヲ亢進ス(但シ他ノ反射機能ニハ作用セズ)。

神經衰弱等ニ來ル官能的陰萎ニ用キ屢有効ナリ又時トシテ糖尿病等ニ來ル續發的陰萎ニモ奏効スルコトアリト云フ(内用ニハ一日三回、〇〇〇五—〇〇一五宛重症ニハ皮下ニ二%液ノ半乃至一筒ヲ二三日注射シ、後一週二三回トナシ全注射二十回ニ至ル)時トシテ用藥後數日ニシテ始メテ奏効スルコトアリ、効力ノ持續六乃至九週間ナリ、婦人ニ對シテハ効否不明ナルモ交接時ノ快感ヲ増加スト云フモノアリ。

副作用トシテ心悸亢進、不眠症、眩暈、發揚狀態等ヲ見ルコトアリ、泌尿生殖器ニ炎症アル患者ニハ禁忌トス。

「ヨヒムピン」ハ局所ニ「コカイン」類似ノ知覺麻痺作用ヲ有ス、眼、鼻、耳ノ粘膜ニ使用セラル、コトアリ(一—二%)。

△「ムイラチチン」 Muraichin

Mura Puanaノ木部及根ヨリ製セル越幾斯ト「レチチン」トヨリ成ル、丸劑トシテ販賣セラル。

「ムイラ」越幾斯中ニハ尿ニ出デ、尿路ノ粘膜ヲ刺戟シ其充血ヲ起スモノト、直接ニ腰髓ヲ興奮スルモノトヲ含有スト云フ。

陰萎ニ對シニ丸宛一日三回内用、連用五六週間ニ亘ルモ副作用ヲ來スコトナシト云フ。

○第十 皮膚ノ機能ニ作用スル藥物

皮膚ハ身體ヲ被包保護シ、外界ノ刺戟ヲ感受シ、且溫ノ放出ヲ調節シテ體溫ヲ保ツ等ノ機能ヲ有スルモ、是等ニ關シテハ上章ニ論述シタルガ故ニ、茲ニハ專ラ汗竝ニ乳汁ノ分泌ニ及ボス藥物ノ作用ヲ論ゼントス。

第三十二章 發汗藥 Diaphoretica

汗ハ汗腺ニ於テ製造分泌セララル、モノ、其反應ハ酸性、中性若クハ、アルカリ性ナリ。新鮮ナル汗ハアルカリ性ナレドモ、分泌後ノ分解ニ由リ、又ハ皮脂腺ヨリ分泌セラレタル脂酸ノ爲メニ中性又ハ酸性トナルモノナラン。故ニ發汗多量ナルトキハアルカリ性ノ反應ヲ微スルヲ常トス。

汗ハ約一—二%ノ固形分ヲ含有ス、其中主要ナルモノハ食鹽及尿素ニシテ、其他ニハ少量ノ磷酸鹽、硫酸鹽、尿酸鹽、クレアチニン、スカトール等諸多ノ新陳代謝產物ナリ。

アルロアレン Arloing ノ檢索ニ據レバ、尿ハ毒素ヲ含有シ、大ノ體重一基瓦ニ對シテ十乃至十五立方仙迷ヲ血管中ニ注射スレバ、胃腸ノ症狀ヲ發シ十五乃至八十四時ニシテ之ヲ斃死セシムト云フ。

汗ノ成分

汗量ハ攝取セル水量氣溫、運動ノ如何等ニ由リ一定セザルモ、普通ノ安靜狀態ニ於テハ人ノ體重一基瓦ニ對シ二十四時間中ニ約十立方仙迷ナリトス。汗中固形分ノ量ハ汗量ノ増加ニ從ヒ其相對量ヲ減ズルモ其絶體量ハ著ク増加シ、過劇ナル勞動等ニ由リ流汗ノ盛ナルトキハ其窒素量往々一晝夜一瓦ニ達スルコトアリ、即チ人體ノ全窒素排泄量ノ約一二%ナリ、而シテ斯ノ如キ時ニハ食鹽ノ量モ亦約一〇ニ達ス。虎列刺病又ハ尿毒症等ニテ尿分泌阻滯スル時ノ如キハ其量愈増大シテ皮層上ニ尿素及食鹽ノ結晶ヲ形成スルニ至ル。

汗ノ異常成分トシテ「ヨード」水銀ノ如キ毒物、糖尿病患者ニ在リテハ糖、安息香酸攝取後ニ於テハ安息香酸及馬尿酸、葱蒜ヲ食シタル後ニハ特殊ノ臭氣ヲ有スル揮發分等ヲ汗中ニ證明スルヲ得。

汗分泌神經

汗ノ分泌ハ分泌神經ニ由テ支配セララル。其纖維ハ脊髓ヨリ出デ線索ニ入り、正中神經及尺骨神經ヲ經テ上肢ニ達シ、坐骨神經ヲ經テ下肢ニ到ル。而シテ局所中樞ハ脊髓ニ、綜合中樞ハ延髓ニ位置ス。

汗量ハ通常皮膚血行ノ速度ニ比例スルモノナレドモ上記ノ分泌神經ヲ刺戟スレバ血行ノ如何ニ關セズ發汗ヲ催起ス。猫ニ就テ下肢ヲ切斷シ坐骨神經ヲ刺戟スレバ切斷後二十分ヲ經ルモ尙能ク足趾ノ無毛部ニ發汗ノ淋漓タルヲ見ル。

發汗中樞ハ精神感動、高溫ヲ有スル血液窒息、嘔吐中樞ノ刺戟等ニ由リ興奮セララル、又反射

汗ノ生理的意義

發汗藥ノ一般應用

的ニ並ニ毒物ノ化學的刺戟ニ對シテモ反應ス。
 汗ハ常態ニ在リテハ體溫調節ヲ以テ其主ナル任務トス。然レドモ異常ノ場合ニハ盛ニ水、食鹽、尿素等ヲ排泄シ一定度マデ腎臟ヲ機能ヲ代償スルノ力アリ。
 往昔ノ醫師ハ疾病ノ原因ヲ於テ概ネ有毒物ノ體內蓄積ニ在リト信ゼシガ故ニ盛ニ發汗、利尿、瀉下藥等ヲ用キ、速ニ之ヲ排泄セントセリ。故ニ發汗藥ハ寧ロ濫用セラレタルノ觀アリキ。方今ニ於テハ通常左ノ諸症ニ之ヲ使用スルノミ。

但シ一定ノ場合ニ於テ新陳代謝產物又ハ體中ニ蓄積セル異常物質ヲ排除センガ爲メニ發汗藥ヲ使用スルハ極メテ合理的ナリ。

一、浮腫、滲出液、硝子體ノ溷濁等アルトキ發汗ハ血液ヲ濃厚ナラシメ是等ノ吸收ヲ催進スルノ効アリ。此際利尿藥亦効ナキニ非ザルモ利尿ハ神經系ヨリ亢進セラレザルガ故ニ血液一定ノ濃度ニ達スレバ利尿セズ。故ニ發汗神經ヲ興奮セシムル藥物ガ血液濃厚ナル際ニ於テモ尙能ク作用スルニ如カザルナリ。

二、腎臟ノ急性又ハ慢性機能不全ノ時發汗ハ尿中ニ排泄セラルベキ水及新陳代謝產物ヲ皮膚ヨリ排除シ以テ腎臟ノ負擔ヲ輕減シ且尿毒症ヲ豫防スルノ効アリ。一定ノ尿閉症ニハ發汗後血液ノ滲透壓下降若クハ腹腔蓄水ノ減退ノ爲メ利尿ノ現ハル、コトアルハ既ニ之ヲ利尿藥ノ條下ニ述ベタリ。

三、水銀、鉛等ノ中毒ノ際發汗ハ其排泄ヲ速ニス。

四、熱性傳染病並ニ氣道ノ急性加答兒感冒等ノ初期ニ發汗藥ヲ使用スレバ之ヲ頓挫セシムトハ從來一般ニ信ゼラレタル所ナリ。是レ蓋シ急性熱性病ノ分利ハ發汗ヲ伴フガ故ニ發汗ヲ是等疾病ノ治癒ニ必要ナル條件ナリト思爲セルニ因ルモノナラン。然レドモ分利期ニ來ル發汗ト藥物ニ由テ起ル人工的發汗トハ全然其本態ヲ異ニスルガ故ニ發汗ガ果シテ上記疾病ノ經過ニ好影響ヲ與フルモノトセバ其理由ハ不明ニ屬ス。

健康汗中ニ有毒物ノ存在スルコト並ニ傳染病ノ分利汗中ニ毒素ヲ含有スルコトハ往々學者ノ唱フル所ナルモ未ダ一般ニ承認セラル、ニ至ラズ。從テ上記應用ノ根據トナスヲ得ズ。

發汗藥ノ種類

發汗藥ヲ別チテ中樞性及末梢性ノ二トス。

一、凡ソ脊髓ノ機能ヲ元進セシムルモノハ亦其發汗中樞ニ作用ス。アムモニア劑ノ如キ是ナリ。

二、分泌神經ノ末梢或ハ汗腺自己ヲ刺戟スルモノ之ヲ末梢性發汗藥トナス。汗分泌神經ハ解剖學上交感神經ニ屬スレドモ藥物學上ニハ自律系毒ニ由テ影響セラル。即チ「ムスカリン」、「フィジスチグミン」等自律神經末梢ヲ刺戟スルモノハ皆發汗作用アリ。而シテ其危險ナクシテ實用ニ適スルモノ是ヲ「ピロカルピン」トナス。

「ピロカルピン」

「ピロカルピン」

「ピロカルピン」ノ發汗作用

「ピロカルピン」Pilocarpin ハ「ヤボランチ」(葉後出)中ニ含有セラル、アルカロイドナリ、強大ナル發汗作用ヲ有ス。即チ其鹽酸鹽ノ約〇〇一ヲ人體ノ皮下ニ注射スルトキハ十乃至十五分ニシテ皮膚潮紅シ次テ劇烈ナル發汗ヲ來ス、其持續約二時間、汗量半「リール」ヨリ往々ニ「リール」ニ達ス。之ト同時ニ、或ハ屢之ニ先チ流涎ヲ發シ、其量「リール」ニ及ブコトアリ、罕ニハ單ニ流涎ノミヲ來ス。發汗ノ將ニ旺盛ナラントスルヤ脈搏少シク頻數トナリ、體溫上ルコト半乃至一度ニ達スルコトアリ、後共ニ常位ニ復ス。

「ピロカルピン」ハ、諸多自律神經ノ末梢ヲ直接ニ興奮セシム。發汗流涎ハ即チ其部分現象ニシテ、涙腺粘液腺消化腺ノ分泌亦亢進セラル。但シ乳汁ノ分泌ニ對シテハ其影響明瞭ナラズ。尿モ亦時トシテ増量スルコトアルモ必發ノ現象ニ非ズ、是レ其特殊ノ分泌神經ヲ有セザルガ爲メカ將又ハ他腺ノ分泌増大シテ血液ノ濃厚トナルガ爲メカ、未ダ詳ナラズ。

「ピロカルピン」發汗ノ末梢性ナルコトハ神經ヲ切斷シテ中樞ト絶縁セル後ニ於テモ尙有効ナルコト、皮下ニ注射スレバ先其部ニ作用スルコト竝ニ少量ニテハ發汗ノ注射部ニノミ限局スル等ノ事實ニ徴シテ明ナリ。

「ピロカルピン」ヲ點眼スレバ虹彩括約筋及毛様筋ニ達スル動眼神經ノ末梢ヲ刺戟シテ瞳孔縮小竝ニ調節痙攣ヲ發ス、而シテ一定時ノ後刺戟作用經過シテ輕度ノ麻痺ヲ來シ爲メニ瞳孔少シク開大ス。

眼ニ對スル作用

胃腸子宮ノ收縮

胃腸ニ於テハ迷走神經ノ末梢ヲ刺戟シ痙攣狀收縮ヲ惹起ス。子宮ニ於テモ亦然リ。

以上ノ作用ハ往々藥用量ニ於テ發揮セラレ、縮瞳ニ伴フ視覺障礙、胃腸收縮ニ因スル嘔氣嘔吐、腹痛、下痢竝ニ子宮收縮等ヲ來スコトアリ。

心臟作用

蛙ノ心臟ニ對シテ恰モ「ニコチン」ニ於ケルガ如ク(後篇疥癬藥ノ部ヲ見ヨ)迷走神經中ノ制止纖維ト其末梢機トノ間ニ介在スル神經節ヲ初メ刺戟シ後麻痺セシム。故ニ心動ハ初メ微弱且緩慢トナリ終ニ擴張期ニ靜止スルコト約一二分、後自ラ搏動ヲ始メ漸次常態ニ復ス。此時迷走神經ノ刺戟ハ無効ナルモ「ムスカリン」ヲ與フルトキハ再ビ擴張期ニ靜止ス。

中樞神經系及新陳代謝

中樞神經系ハ「ピロカルピン」ニ由テ初メ刺戟セラレ、後麻痺セラレ、中毒ノ際現ハル、虚脱ハ主トシテ血管中樞及呼吸中樞ノ麻痺ニ原因ス。又新陳代謝ハ腺機能亢進ノ爲メ促進セラレ、炭酸ノ排泄量増大ス。

「ピロカルピン」ノ中毒ハ自癒スルヲ常トス。危險ナル症狀ヲ發セバ「アトロピン」ヲ注射スベシ。

「ピロカルピン」中毒

「アトロピン」ト「ピロカルピン」トハ相互ニ反對作用ヲ有ス。然レドモ「アトロピン」ノ組織ニ對スル親和力強大ナルガ故ニ其大量ヲ與ヘタル後ニハ「ピロカルピン」奏効セズ。

▲鹽酸「ピロカルピン」 Pilocarpinum hydrochloricum $C_{11}H_{16}N_2O_2 \cdot HCl$

白色ノ結晶ニシテ微ニ苦味ヲ有シ氣中ニ於テ潮解シ濕氣ヲ引ク。水ニ容易ニ溶解シ弱酸

「ピロカルピン」

性ノ反應ヲ徵ス。粗惡ナル製品ハ「ヤボリン」ト稱スル本藥ノ分解產物ヲ混ズ。該者ハ「アトロピン」ト同効ニシテ本藥ノ反抗藥タリ。注意ヲ要ス。極量一回〇〇二—〇〇六。

最有効ナル發汗藥ニシテ既記ノ適應症ニ使用ス。但心臟患者ノ浮腫ニハ虛脱ヲ來シ。又ハ氣道分泌亢進ノ結果肺浮腫ヲ惹起スルノ虞ナシトセズ。又腎臟患者ノ既ニ尿毒症ヲ發セルモノニハ血液ヲ濃厚ナラシメ却テ其症狀ヲ増惡セシムルコトアリト云フモ、又時ニ意外ノ好果ヲ齎スコトアリ。用最、内服ハ〇〇一—〇〇二、皮下注射〇〇〇五—〇〇一。運用スレバ患者ヲ衰弱セシム。

皮膚癢痒ニ對シ輕度ノ發汗ヲ喚起スル量ヲ内服セシメ又ハ皮下注射トシテ奏効スルコトアリ。

「アトロピン」中毒ニ對シ稀ニ之ヲ注射ス。

點眼料トシテハ一—二%液ヲ邊緣性白內障ニ與ヘ一時視力ヲ恢復セシム、又綠內障ニハ〇—一%ノ鹽酸「モルヒネ」ヲ加ヘ點眼スルトキハ急性症狀ヲ驅逐シ疼痛ヲ減ゼシム、其効「フィンスチグミン」ニ如カザルモ毒性少キノ利アリ。

生毛藥トシテ患部ニ塗布又ハ注射スルコトアルモ奏効疑ハシ。

墮胎藥トシテ又ハ陣痛微弱ノ時等ニ用キラル、コトアルモ確實ナラズ。但シ妊婦ニハ發汗藥等トシテ本藥ヲ用ユベカラズ。

▲「ヤボラン」葉 Folia Jaborandi

Pilocarpus 屬ノ諸種植物ノ寄生莖葉ヲ採集シ乾燥セルモノナリ。

「ピロカルピン」「ピロカルピヂン」Pilocarpidinノニ「アルカロイド」ノ外「ヤボリン」Jaborinヲ含有ス。ピロカルピヂン「ハ其効」ピロカルピン「ノ如クシテ弱シ」。「ヤボリン」ハ「ピロカルピン」ノ分解ニ由テ生ズル「アルカロイド」ニシテ其作用「アトロピン」ニ類シ其母物質ト正反對ナリ。故ニ本生藥ノ効力ハ極メテ不確ナリ、使用セザルニ如カズ。

第三十三章 制汗藥 Antihydrotica

多汗症

多汗症 Hyperhidrosis ハ或ハ手掌、足蹠、腋窩等局部ニ來リ、又ハ全身ニ發ス。局部多汗症ニハ防腐又ハ收斂作用ヲ有スル藥物ヲ外用シテ之ヲ防遏スベシ。全身多汗症ニ對シテモ稀醋酸、酒精、鞣酸溶液等ヲ以テ洗滌塗擦シ又ハ「バラ・フォルマリン」ニタンノ「アルム」等ヲ撒布スル等局所療法ヲ行フコトアルモ、多クハ吸收作用ニ由テ汗腺ノ分泌ヲ制遏スル藥物ヲ要ス。制汗藥即チ是レナリ。

全身多汗症

病的ニ來ル全身多汗症ノ原因ハ多様ナルベシ。肥胖病ニ來ルモノ、如キハ温ノ放出妨碍セララル、ニ因テ來リ、急性肺炎又ハ肺結核ニ來ルモノハ皮膚血管ノ緊張減退カ、若クハ肺ノ呼吸面減少セル爲メ、瓦斯交換不完全トナリ、血液中ニ炭酸ノ蓄積スルニ因ルナラント云フ、殊ニ睡眠時ニ於テ呼吸運動微弱トナルトキ盛ニ發汗ヲ來ス、盜汗即チ是ナリ。

細菌ノ産スル毒素ノ一部分ガ汗ト共ニ排泄セララル、ガ故ニ發汗ハ猥ニ之ヲ抑制スベカラズト説クモノアルモ、患者ヲ衰弱セシメ、安眠ヲ妨ゲ感冒ヲ誘フ等ノ害アルガ故ニ之ヲ放任スベカラズ。

「アトロピン」ノ制汗

制汗藥トシテハ「アトロピン」最確効ヲ有ス。其自律神經末端ニ作用シ汗腺ノ分泌ヲ制止スルコト既ニ之ヲ述ベタリ、〇〇〇〇五—〇〇〇一ヲ注射シ、又ハ丸劑トナ

シ内用セシムルトキハ口腔咽喉部ノ乾燥感ヲ訴フルノ外他ノ作用ヲ呈スルコトナク、能ク結核患者等ノ盜汗ヲ防グ。

△アガリチン Agarichinum (Acidum agaricinicum) $C_4H_7O_4(COOH)_2 + H_2O$

Polyporus officinalis 中ニ存在スル、林檎酸列ニ屬スル酸「アガリチン」酸ナリ。白色結晶性ノ粉末ニシテ臭味ナク、水ニ僅微ニ溶解シ、酸性ノ反應ヲ微ス。極量一回〇.一。

「アガリチン」ハ局所作用トシテ創面竝ニ粘膜炎ヲ刺戟ス。大量ヲ内服スレバ吐瀉ヲ發シ、皮下ニ注射スレバ劇痛、炎症次テ化膿ヲ來ス、之ヲ動物ノ靜脈内ニ注射スレバ延髓ニ於ケル諸中樞ヲ初メ刺戟シ、後麻痺セシメ、終ニ呼吸停止ヲ來シ、又輕キ麻酔作用ヲ呈ス。但シ内用ニテハ其吸收緩慢ナルガ故ニ大量ヲ與フルモ胃腸刺戟ノ外中毒症狀ヲ來サズ。

内用ニ由テ起ル唯一ノ吸收作用ハ汗腺分泌ノ抑制ナリ、少量ニ於テ既ニ之ヲ見ル。此作用ハ「アトロピン」ト同ジク末梢性ニシテ、本品ヲ與ヘタル猫ハ其坐骨神經ヲ切斷シ其末梢端ヲ刺戟スルモ足蹠ニ發汗ヲ來スコトナシ。唯其「アトロピン」ト異ルハ其作用汗腺ノミニ限ラレ、瞳孔、迷走神經等ニハ勿論、唾液、粘液等他ノ分泌ニハ更ニ影響セザルニ在リ。

肺結核患者及其他ノ多汗症ニ〇〇—〇一ヲ散又ハ丸劑トナシ一日一回内用セシムルトキハ、五乃至六時間ニシテ奏効ス。無害ノ制汗藥タリ、時トシテ下痢ヲ來

スコトアルハ、母植物中ニ含有セラル、瀉下作用ヲ有スル樹脂ノ混入スルニ因ル
少量ノ阿片ヲ配スレバ之ヲ防ヅコトヲ得。

連用スルトキハ習慣シテ効力ヲ減ズ、他ノ制汗藥ヲ以テ之ニ代フベシ。

△「アガリチン酸ナトリウム」 *Natrium agaricinicum*

△「アガリチン酸リチウム」 *Lithium agaricinicum*

共ニ無色ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス、制汗藥トシテ使用セラル。

△「アガリチン酸チフネチチド」 *Agaricensäurediphenetidid*

△「アガリチン酸モノチフネチチド」 *Agaricensäuremonophenetidid*

前者ハ帶青白色後者ハ白色ノ結晶性粉末ナリ。解熱作用ト制汗作用ヲ兼有ス、肺結核等ニ
使用セラル。

▲樟腦酸 *Acidum camphoricum* $C_8H_8(COOH)_2$

無色無臭ノ結晶ニシテ、百五十分ノ水竝ニ八分ノ沸湯ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ徴ス。

樟腦ノ酸化産物ナレドモ、其作用ヲ異ニシ、痙攣ヲ發スルコトナク、只多少呼吸及
血壓ヲ亢進スルノミ、無害ノ物質ニシテ一日六〇ヲ與フルモ障害ヲ起サズト云フ。

制汗作用ノ原因ハ不明ナルモ蓋シ中樞性ナラン。或ハ毒素ヲ中和シテ汗腺ノ刺
戟ヲ減ズト云ヒ、或ハ呼吸中樞ニ作用シテ瓦斯交換ヲ催進スルニ由ルトモ云フ、學

者ノ所説一定セズ。

制汗藥トシテ殊ニ肺結核ノ盜汗ニ使用セラル。有効期間長ク能ク數日ニ亘ルコ
トアリト云フ(一〇―二〇就眼前内用)。

膀胱加答兒ニ内服セシメ又ハ洗滌料トスルコトアリ、又咽喉加答兒ニ合嗽料ト
シ喉頭氣管支炎等ニ吸入セシムルコトアリ(〇・五―二%少量ノ酒精ヲ加ヘ溶解セ
シムベシ)蓋シ微弱ナル防腐作用竝ニ局所刺激作用若クハ收斂作用ヲ有スルモノ
カ。

第三十四章 催乳藥 *Galactagoga*

乳汁ノ分泌ヲ旺盛ナラシムルニハ通常機械的方法又ハ蛋白質脂肪等ニ富ム食物ヲ攝取セシムルヲ最有効ナリトス。下記催乳藥ハ牛乳業者ノ經驗ヨリ來ルモノニシテ、乳汁ノ性質ヲ劣惡ナラシムルコトナク、其分泌量ヲ増大スト稱セラル、然レドモ其効確實ナリト云フヲ得ズ。

△「ラケタゴール」*Lactagol*

Gossypium 屬種子ノ粉末ヨリ製セル乾燥越幾斯ナリ。帶黃白色ノ粉末ニシテ味不快ナラズ、水ニ溶解セザルモ攪拌スルトキハ乳劑様トナル。

「エデスチン」*Edestin* ナル植物性蛋白質ヲ含有スルガ故ニ滋養品トシテ作用スルモノカ(或ハ「ヒョリン」*Cholin* ヲ含有スルガ故ニ分泌神經ノ末端ヲ刺戟スルモノカ)。

一茶匙宛、一日三乃至四回内服セシムルトキハ二三日ニシテ乳量ト同時ニ脂肪及窒素ノ量ヲ増大スト云フ。

△乾燥水製ガレガ越幾斯 *Extractum Galegae aquosum siccum*

Galega officinalis (荳科)ヨリ製スル秘密藥ナリ。催乳作用アリト云フモ其理由不明ナリ。〇四一
一〇チ一日四回内用。

第三篇

一定ノ疾病ニ對シテ使用セラル、藥物

前篇ニ於テ論ジタル藥物ハ臨床上、對症藥ト稱セラル、モノニシテ多クハ疾病ニ現ハル、症候ヲ除カンガ爲メニ使用セラル。故ニ同一ノ症候ナルトキハ其疾病ノ如何ヲ問ハズ同一ノ藥物ヲ以テ之ニ對スルヲ得、從テ其藥物ハ疾病自己ニ對シテハ何等影響スル所ナキモノトス。例ヘバ「アンチピリン」ハ其疾病ノ肺炎ナルト腸窒扶斯ナルトヲ問ハズ均ク解熱ノ目的ニ使用セラル、ガ如シ。

之ニ反シテ以下論ゼント欲スル所ノモノハ疾病ノ原因若クハ疾病自己ニ作用スルモノニシテ、從テ症候ノ如何ヲ顧慮スルコトナク、又其時期ヲ問ハズ使用セラレベキモノナリ。但シ一般細胞作用ニ由リ疾病又ハ病原ニ影響スルモノハ既ニ第一篇ニ於テ詳説セルガ故ニ茲ニハ選擇的又ハ特殊のニ一定ノ病原若クハ疾病ニ作用スルモノヲ舉ゲン。

思フニ療病ノ本旨ハ直チニ其原因ヲ衝キ之ヲ艾除スルニ在ルハ勿論ナルモ、此種理想的ノ藥物即所謂特效藥 *Specifica* ハ吾人今日尙ホ極メテ少數ノ疾病ニ對シ

テ之ヲ有スルノミ。本篇論ゼントスル藥物ハ其目的トスル所ハ病原若クハ疾病ニ在レドモ其奏効確實ナラズシテ之ヲ特效藥ト稱シ得ザルモノ多シ。

第三十五章 細菌產物及治療血清

Bacterienprodukte und Heilsera

細菌產物及治療血清ハ人體ヲ一定ノ疾病若クハ中毒ニ對シ免疫セシメンガ爲メニ使用セラル、モノナリ。

免疫

免疫。Immunität トハ素因 Disposition ノ反對ニシテ傳染性疾病又ハ一定ノ毒物ニ對シ同一ノ條件ニ於テ他ヨリモ強大ナル抵抗力ヲ有スルヲ謂フ。免疫ニハ先天性 angeboren アリ後天性 erworben アリ、人類ガ牛疫ニ感染セザル、又終生麻疹患者ト觸接ノ機會アルモ之ニ感染セザル等ハ先天性免疫ニシテ、種痘ヲナセルモノガ一定期間天然痘ニ罹ラザルハ後天性ナリ。先天性免疫ノ原因ハ多樣ニシテ且全ク闡明セラレズト雖モ、後天性ノモノニ在リテハ必ず體中ニ一種ノ保護質 Schutzstoff (免疫體 Immunkörper) ヲ生ジ、因テ以テ疾病又ハ中毒ノ危害ヲ免ル、モノナリ。方今專ラ後ノ場合ニ免疫ナル語ヲ使用シ先天性ノモノニハ自然的抵抗力 natürliche Resistenz ナル稱呼ヲ與ヘ以テ其區別ヲ明ニス。即チ免疫トハ一定ノ保護質ニ由テ、生體ノ疾病又ハ中毒ニ對スル抵抗力ノ増大セル状態ヲ云フ。

多數ノ傳染病ハ一度之ニ罹リ恢復スルトキハ一定期間ハ其機會ニ遭遇スルモ感染スルコトナシ、例ヘバ天然痘、猩紅熱、麻疹、奎扶斯ノ如キハ殆ト一生ノ免疫ヲ得

虎列刺、實扶的里等ノ如キモ一定時之ニ罹ルコトナシ。是レ其疾病ニ特殊ナル免疫體ノ體中ニ出現スルニ由ル。免疫體ニ數種アリ、之ヲ大別シテ抗毒素。Antitoxin 及抗菌質。Antibacterielle Substanz ノ二トス。

細菌毒素及抗毒素

抑、病原菌ガ吾人ノ身體ニ病的現象ヲ惹起スルハ菌體ノ機械的刺戟ニ非ズ、又彼等ガ養素ヲ吾人ノ體内ヨリ奪フガ爲メニモ非ラズ、一ニ毒素 Toxinヲ發生シテ以テ生體ヲ中毒セシムルニ由ル。即チ細菌性疾患ハ一種ノ中毒病ナリト云フヲ得ベシ。而シテ一定ノ細菌ハ其發育スルヤ新陳代謝ノ產物トシテ斷ヘズ毒素ヲ體外ニ排泄ス。斯ノ如キ要素之ヲ眞正毒素 echte Toxine ト云フ。實扶的里菌ノ如キ破傷風菌ノ如キハ此種ノ細菌ニ屬シ人體ノ一定部ニ蕃殖スルヤ盛ニ毒素ヲ發生シ其吸收ニ由テ特殊ノ中毒症狀ヲ發ス。故ニ細菌ヲ身體ニ接種スルモ、又ハ培養基中ニテ彼等ガ製造セル產物ヲ皮下ニ注射スルモ其現象全ク異ルコトナシ。斯ノ如キ細菌ノ體内ニ蕃殖セルトキ、又ハ其毒素ヲ注射スルトキハ生體内ニ漸次抗毒素ヲ發生ス。一定ノ細菌ハ之ニ反シ只體内ニ有毒物質ヲ含有スルノミニシテ生活中ハ之ヲ體外ニ排泄スルコトナク、死後菌體ノ壞崩スルヤ始メテ毒素ヲ遊離ス。虎列刺菌、莖扶斯菌ノ如キ是ナリ。斯ノ如キ毒素之ヲ内毒素。Endotoxine ト云フ。内毒素ガ生體内ニテ特殊ノ抗毒素ヲ發生セシムルヤ否ヤハ學者ノ爭點ニシテバイナル。Pfeffer 等ハ凡ソ内毒素ハ抗毒素ヲ作ラズト云フモ、メチニコフ Metchnikoff クラウス Kraus 等

ニ從ヘバ虎列刺、莖扶斯等ノ菌ハ多少抗毒素ヲ發生セシムルガ如シ、但シ脾脫疽菌、結核菌等ノ内毒素ハ全ク抗毒素ヲ作ラズ。

生體内ニ抗毒素ヲ發生セシムルハ上記細菌毒素ノ外之ト類似ノ性質ヲ有スル動物性毒物、即チ蛇毒ノ如キ、蝎毒ノ如キ、又植物性毒素 Phytotoxin ト稱セラル、蓖麻子中ノ「リチン」 Ricin 巴豆中ノ「クロチン」 Crocin 「アブルス」子中ノ「アブリン」 Abrin ノ如キモ又能ク抗毒素ヲ發生セシム。

是等毒素ハ極メテ複雑ナル化學的集成ヲ有シ、非常ニ大ナル分子量ヲ有スルモノナラン。其性狀蛋白質ニ類シ、或ハ蛋白ニ屬スルモノナランカ、但シ一定ノ操作ニ由リ蛋白質ノ反應ヲ有セザル毒素ヲ製スルコトヲ得ト云フ。膠様ノ性質ヲ有シ、透析性ニ乏ク、他ノ沈澱ニ附著シテ沈澱シ、硫酸、アムモニウムノ如キ中性鹽ニテ鹽析セラル。又酸酵素ト同ジク熱及光線ニ對シ鋭敏ニシテ、又多クハ消化液ニ由テ變化セラル。其藥物的作用ハ或ハ神經系ニ作用シ、或ハ血球ニ作用スル等各、特異ナリ。此種ノ毒素ヲ以テ等ク「トキシシン」(毒素)ナル名稱ヲ有スル「ピクロトキシシン」、チギトキシシン[等化學的單純ナル物質ト混同スベカラズ]。

抗毒素ニ至リテハ分子量更ニ大ニシテ、透析性極メテ微少ナリ、恰適セル毒素ノ毒性ヲ中和スル以外毫モ作用ヲ有セズ、而シテ毒素ニ比スレバ熱及化學的物質等ニ對スル抵抗力稍、大ナリ。

抗菌質ハ細菌ガ動物体内ニ蕃殖シ又ハ之ニ細菌ヲ注射セルトキ生体内ニ發生
 スルモノニシテ諸種アリ。溶菌素 Bacteriolysin ハ該當セル細菌ヲ溶解セシムルモノ、
 凝集素 Agglutinin ハ該當セル細菌ヲ凝集膠着セシムル作用ヲ有シ又沈降素 Precipitin
 ハ該當セル細菌体内ノ蛋白ヲ沈澱セシムルカヲ有ス。

抗體及「アンチゲイン」

以上諸種物質ノ体内ニ發生スルコトハ一般ニ異種蛋白質異種細胞等ガ生体内ニ入りタ
 ルトキ發スル反應ノ一部分ナリ。異種ノ蛋白又ハ細胞ガ消化管以外ヨリ換言スレバ變化セ
 ラレズシテ体内ニ入ルトキハ生體ハ沈降素溶解素等ノ發生ニ由リ之ヲ無害トナス。異種ノ
 血球ニ對シテハ溶血素ヲ生ジ、酸酵素ニ對シテ抗酸酵素ヲ生ジ、精蟲ヲ注射スレバ之ヲ麻痺
 溶解スル物質ヲ生ジ、胚毛上皮細胞ヲ注射スレバ之ニ對抗スル物質ヲ生ズルガ如シ。是等並
 ニ抗毒素、抗菌質ヲ總稱シテ抗體 Antikörper ト云ヒ。抗體發生ヲ促ガス物質即チ毒素等ヲ一般
 ニ「アンチゲイン」(「抗體質」) Antigen ト云フ。而シテ發生セル抗體ハ血液中ニ溶存ス。

抗體ハ一般ニ極メテ特殊ナリ。抗體發生ノ原因トナリタル「アンチゲイン」ニノミ結合シテ
 之ト反應ス。質扶的里抗毒素ハ破傷風毒素ニ作用セズ。犬ノ血清蛋白ニ對スル沈降素ハ兎ノ
 血清蛋白ニ反應セズ。「アブリン」ト「リチン」トハ其作用、性状等殆ド區別ナキモ、抗體ハ全ク別種
 ニシテ「リチン」抗體ハ「アブリン」ヲ沈降セシメザルガ如シ。

故ニ人ノ血清ヲ兎ニ注射スルトキハ兎ノ血清中ニ人ノ血清蛋白ノミヲ沈降セシムル抗
 體ヲ生ズ。斯ノ如キ血清ハ實用上人血ト獸血トヲ區別セントスルニ當リ極メテ鋭敏ナル試
 藥タリ。而シテ猿血ハ微弱ナレモ人血ニ類スル反應ヲ呈スルモ、動物ノ種類相違ザカルニ從
 ヒ反應全ク特殊トナルハ奇ト云フベシ。又特殊凝集素ハ之ヲ診斷上ニ應用スルヲ得例ヘバ
 茲ニ空扶斯類似症アリトセンカ、空扶斯菌ノ培養ニ其血清ヲ加ヘ凝集反應ノ有無ニ由テ之

ヲ判定スルヲ得ルガ如シ。

抗體發生ノ理由ハ全ク不明ナリ。然レドモ「アンチゲイン」ヨリ變生スルモノニ非ズシテ生
 活セル細胞ノ産物ナラン。エールリッヒ Ehrlich ノ學說ニ從ヘバ抗體ハ「アンチゲイン」ノ作用ス
 ベキ細胞ノ原形質中ニ側鎖 Seitenkette トシテ存在スルモノニシテ「アンチゲイン」ハ之ト結合
 シ細胞ニ作用ス。而シテ側鎖ガ「アンチゲイン」ニ由テ占領セラレ、トキハ補缺トシテ多數ノ
 同一側鎖ヲ生ジ終ニ原形質ヨリ離レ血液中ニ出ヅ、之レ即チ抗體ナリ。即チ側鎖ハ細胞中ニ
 在ルトキハ毒素ヲ細胞ニ導キ、血液中ニ在ルトキハ之ヲ捕促シテ細胞ニ向ハシメズ、側鎖ハ
 故ニ「アンチゲイン」ト特殊ノ親和力ヲ有スルモノナリ。

免疫ハ本態ハ抗體ノ發生ナリ。免疫ハ生體ノ抵抗力増大ノ點ニ於テ一見、モルヒ
 ネ「酒精等ニ對スル習慣」ト相似タルモ、習慣ニ於テハ決シテ抗體様ノ物質形成セラ
 ル、コトナシ以テ明瞭ニ此二者ヲ區別スベシ。

自然免疫

細菌性疾患ガ定規ノ經過ヲ取り自然ニ治癒スルハ抗體ノ發生ニ因ル、從テ抗體
 ノ血液中ニ存在スル間ハ同一ノ疾患ニ罹ルコトナシ。斯ノ如キ是ヲ後天性自然免
 疫ト云フ。然リ而シテ吾人ガ細菌産物或ハ治療血清ヲ使用スル目的ハ人工的免疫
 ニ在リ。

人工的免疫

人工的免疫 künstliche Immunisierung ニ二種アリ、一ハ人體ニ抗體發生ヲ促ス方法ニ
 シテ之ヲ自動免疫 aktive Immunisierung ト云ヒ、一ハ他ヨリ得タル抗體ヲ人體ニ注射
 スルモノニシテ之ヲ他動免疫 passive Immunisierung ト云フ。

自動免疫ハ自然免疫ト其本態ヲ同フス。經驗上、抗體ハ疾病ノ輕重ニ關セズ同一程度ニ發生スルモノニシテ、彼ノ不全形ノ傳染ヲ經過セル後ト雖モ、亦一定期間該病ニ對スル免疫ヲ得ルガ如ク人工的ニ種々ノ方法ニ由リ細菌ノ害性 Virulenzヲ減弱セシメタルモノ又ハ細菌ノ殘骸或ハ其生産物ヲ用キ人體ニ極メテ輕度ノ症候ヲ起サシムルトキハ多量ノ抗體ヲ發生セシムルヲ得ベシ、是レ即チ自動免疫法ナリ。他、動免疫ハ動物ニ自動免疫法ヲ用キテ其體內ニ多量ノ抗體ヲ發生セシメ、其血清ヲ採取シテ人體ニ使用スルモノニシテ、此場合ニ於テハ人體ハ何等症候ヲ發スルコトナシ、即チ前者ニハ細菌又ハ細菌ノ產物ヲ用キ、後者ニハ動物ヨリ得タル所謂治療血清ヲ用ユ。

一 細菌及細菌產物

細菌又ハ其產物ヲ接種或ハ注射スルトキハ其害性又ハ毒力ノ大小ニ應ジ多少ノ症狀ヲ呈ス之ヲ反應 Reaktion ト云フ。反應ハ當該細菌ニ由テ起ル疾病ト同性質ノモノニシテ、完全ナル害性ヲ有スル細菌ヲ接種スルトキハ真正ノ疾病ヲ惹起ス。此際抗體ハ徐々ニ五乃至十日後ニ至テ發生ス、故ニ此種自動免疫ハ急性傳染病ニ對シテハ治療的意義ヲ有セズ、只慢性ノ經過ヲ取ルモノニ使用セラル、ノミ、之ニ反シ抗體ノ發生スルヤ數月數年ニ互リ血中ニ存在スルガ故ニ、豫防トシテ偉大ナル効力ヲ有ス。

豫防接種 Schutzimpfung

豫防接種ニハ種々ノ方法アリ(一)完全ナル害性ヲ有スル生活セル細菌ノ接種ハ非常ノ危險ヲ伴フカ故ニ人體ニ使用シ難キガ如キモ、然モ細菌蕃殖ニ不適當ナル條件ヲ與フルトキハ其危險ヲ避クルヲ得、即チ虎列刺菌、窒扶斯菌等ヲ皮下ニ與フルトキハ該菌傳染ニ特殊ナル症候ヲ發スルコトナクシテ抗體ノ發生ヲ促スト云フ。但シ死シタル細菌ヲ用ユルモ同一ノ結果ヲ得ルガ故ニ此法ハ殆ト使用セラ、ル、コトナシ(二)之ニ反シ生活セル病原體ノ害性ヲ弱メタルモノハ實用セラル、バ、スト、Pasteurニ由テ發見セラレタル**狂犬病接種**ノ如キ是ナリ。

狂犬病豫防接種

狂犬病ノ病原ハ不明ナルモ、該病ニ罹レル動物ノ中樞神經系ハ強大ナル害性ヲ有ス。直接ニ該中樞神經系ノ乳劑ヲ皮下ニ注射スルトキハ特異ノ痙攣症狀ヲ發シ死ス。故ニ接種ニハ之ヲ乾燥セシメ其害性ヲ減退セシメタルモノヲ用ユ。即チ初メハ二週間乾燥セル骨髓ノ乳劑ヲ皮下ニ注射シ、漸次短時日ノモノトナシ、約三週ノ療期間ノ終ニハ二日間乾燥セルモノニ至ル然ルトキハ抗體ハ血中ニ現レ病原ノ蕃殖並ニ毒素發生ヲ防遏ス。

此方法ハ狂犬ノ咬傷ヲ受ケタルトキ其潜伏期ニ之ヲ行フトキハ能ク病症ノ發現ヲ豫防シ又ハ之ヲ全然防遏シ得ザルモ其症候ヲ輕微ナラシムルノ効アリ。統計上狂犬病ノ死亡率ハ通常一〇—一二%ナルモ、此法ニ由テ之ヲ〇五%ニ低下シ得ト云フ。

牛痘接種

牛痘接種ノ目的モ亦害性微弱ナル牛痘ノ病原ヲ接種シテ人痘ニ對スル免疫體

豫防接種

ヲ發生セシムルニ在リ。痘疱ノ病原ハ不明ナレドモ牛痘モ亦人痘ト同種屬ニシテ牛體ノ通過 Passage ニ由リ害性ノ減却セラレタルモノナラン。

(三)細菌ヲ殺シ之ヲ注射スルトキハ生活セル細菌ノ如ク抗菌質ヲ發生シ其血液ハ生活セル當該細菌ヲ溶解凝集セシムルノ性ヲ取ル。窒扶斯虎列刺「ベスト」等ニ對シ此法ヲ試ミ好果アリト云フ。蓋シ治療學上有望ナル新領域ナリ。

ハツフキン HalKine ガ印度ニ於テ行ヘル「ベスト」豫防注射ノ結果ハ良好ニシテ「ベスト」菌ノ肉汁培養ヲ殺シ(一時間七十度ニ熱ス)之ヲ皮下ニ注射スルトキハ體温三十九乃至四十度ニ上ル等著シキ一般症狀ヲ發スルモ約一晝夜ニシテ經過シ多少ノ免疫性ヲ與フ。勿論只一回ノ注射ニテハ免疫完全ナラザルモ此法ヲ施セル者ハ「ベスト」ニ罹ルモ其經過輕シト云フ。

「ツベルクリン」

結核菌竝ニ其培養ヨリ製セラレタルモノ多數アレドモ其作用ニ大差ナク且未ダ一般ノ承認ヲ經ザルモノ多シ故ニ茲ニハ專ラコッホ Koch ノ創製セルモノニ就テ論ゼン。

▲「ツベルクリン」 Tuberculinum

澄明褐色ノ液ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ水ニ容易ニ混和シ有効成分ノ外百分中約四十分ノ「グリセリン」竝ニ「アイオン」ノ成分ヲ含有ス。

是レ又舊「ツベルクリン」 Alttuberculin ト稱セラル、モノニシテ一八九〇年ノ創製ニ係ル。結核菌ノ「グリセリン」「アイオン」培養ノ六乃至八週ヲ經タルモノヲ熱ヲ加

ヘテ蒸發セシメ同時ニ殺菌シテ當初ノ十分ノ一量トナシ濾過シテ菌體ヲ去リタルモノナリ。有効分ハ結核菌ノ內毒素ニシテ死シタル菌體ヨリ液中ニ出デタルモノナリ。

「ツベルクリン」反應

「ツベルクリン」ハ奇ナル性質ヲ有ス之ヲ注射スルトキハ健康體ニテハ大量ニ非ズンバ反應ヲ發セザルモ結核ニ罹レル動物及人ニハ極メテ少量ニテ特異ノ反應ヲ來ス。即チ結核性ノ「モルモット」ハ〇・一—〇・一五立方仙迷注射ニ由テ死スルモ否ザルモノハ其十倍ヲ與フルモ反應セズ。結核患者ハ更ニ鋭敏ナリ。〇・〇〇〇一—〇・〇〇一立方仙迷ヲ注射スルトキハ既ニ一般及局所ノ反應ヲ發ス。

一般反應トシテ多クハ戰慄ニ伴フテ體温三十八乃至四十一度ニ上リ頭及四肢ノ疼痛倦怠咳嗽屢惡心嘔吐稀ニハ黃疸及皮膚ノ發疹ヲ來ス。此現象ハ注射後四五時間ニ始マリ十二乃至十五時間持續ス。

局處反應ハ狼瘡ニ於テ直接之ヲ觀察スルヲ得。即チ注射後數時間ニシテ患部發赤腫脹シ二三日後減腫ト共ニ痂皮ヲ結ビ日ヲ經テ病的組織ト共ニ剝離シ滑澤ナル癍痕ヲ殘ス。之ト類似ノ反應ハ亦他部ノ結核竈ニモ來ル。故ニ肺結核ニテハ一時濁音部増大シ濕性水泡音及喀痰ヲ増ス。

コッホハ「ツベルクリン」ハ結核組織ヲ破壞シ以テ之ヲ治療セシムルモノナラント思考セルモ從來ノ經驗ニ據レバ其治療的效果ハ甚大ナラズ而已ナラズ使用ノ時

治療的價值

「ツベルクリン」

「ツベルクリン」療法

期並ニ用量ノ如何ニ由テハ、病竈ヲ脆軟ナラシムルガ爲メ、細菌ヲ播布シ粟粒結核ヲ來スコトアリ。故ニ方今ハ結核ノ初期ニ於テ極メテ其少量ヲ試ムルノミ。

「ツベルクリン」療法ニ適スルハ混合傳染ナキ初期ノ無熱(二十七度以下)患者ナリ。初メ先百分ノ一乃至二十分ノ一密瓦ヲ注射シ體温ヲ注意ス、僅微ナル發熱(〇・二五度)アリトモ其平復迄注射ヲ反覆スベカラス。發熱セザレハ三日目ニ倍量ヲ試ミ、發熱スレバ解熱後同一量ヲ與フ。斯ノ如ク進ミテ一回量〇・〇一—〇・〇二ニ至ル。全療期約二三箇月ニシテ休療シ、半年ヲ經テ又同一ノ療法ヲ行フ。而シテ〇・〇二ヲ與ヘテ反應ナキトキハ之ヲ治療ト認ムルヲ得。

今日マデ此法ニ由リ結核ガ治療セリトノ報告乏シカラザルモ又之ヲ否定スル論者ナキニ非ズ。要スルニ此場合「ツベルクリン」ハ局部ニ適度ノ充血ヲ來シテ病菌ノ撲滅ヲ助クルト同時ニ人體ヲ多少自動的ニ免疫セシムルモノナランカ。

上記ノ如ク「ツベルクリン」ハ結核性ノ動物ニ對シ容易ニ反應ヲ來スカ故ニ、獸醫科ニ於テ牛ノ潜伏結核ヲ診斷スルニ使用セラル。但シ病變ノ非常ニ進歩セルモノニハ却テ反應ナク、又之ヲ反覆スルトキニハ反應ヲ來ササルニ至ル。注意ヲ要ス。

牛ニ對シ〇・五瓦積ニハ〇・三瓦ヲ皮下ニ注射シ、體温上騰一度ニ及ブトキハ確實ニ結核性ナリ。〇・五乃至一度ナルトキハ其疑アリ。〇・五度以下ナルトキハ之ヲ陰性トス。

人ニ對シテモ亦近時クベルクリン反應ヲ以テ結核診斷ノ助トナス。皮膚反應

結核診斷上ノ價値

皮膚反應

cutane Reaction 及眼反應 Ophthalmoreaktion ノ二法アリ。

一 ハピルケー Piquet ノ法ニシテ二五%「ツベルクリン」液「ツベルクリン」二滴水三滴ヲ消毒洗滌セル上膊ノ伸側ニ滴下シ、該部ノ皮膚ニ極メテ淺キ切創ヲ作ルニ在リ。結核者ニテハ約三時間ニシテ該部ニ發赤シ、十二乃至十四時後丘疹又ハ水泡疹ヲ發ス。又純「ツベルクリン」又ハ同量ノ無水「ラノリン」ヲ以テ製セル軟膏ヲ皮膚ニ擦入スルトキモ亦發赤發疹ヲ來スト云フ。

眼反應

二 ハツォルフ、アイヌネル Wolf-Eisner ノ法ニシテ、一%「ツベルクリン」ノ一滴ヲ點眼シ、六乃至二十四時間後ニ結膜充血、羞明、多少ノ灼熱又ハ異物感ヲ來スモノヲ陽性トス。但シ眼ニ結核性其他ノ疾患アルモノニ之ヲ行フベカラズ。

△「ツベルクリン」テー「エル」 Tuberkulin T.R.

コッホガ一八九七年ニ創製セルモノニシテ、乾燥セル結核菌ヲ磨碎シ、鏡檢上並ニ動物試驗上生存セル細菌ナキニ至リ、水ヲ加ヘテ攪拌シ、之ヲ遠心器ヲ以テ分離スルトキハ淡黃色澄明ノ上層ト白色ノ沈澱トニ分ル。其上層ハ粗糞「ツベルクリン」ニ相當スルモノニシテ、之レヲ「テーオー」E.O.ト稱ス。

「テイエル」ハ得タル沈澱ヲ集メ、乾燥セシメ、更ニ研磨シ水ヲ加ヘテ製セルモノニシテ、帶褐色濃厚ノ液ナリ。結核菌中水ニ溶解セザル物質ノ全部ヲ含有ス。一立方仙迷中ニ一〇密瓦ノ固形分アリ。

結核治療藥トシテ固形分五百分一密瓦(原液)〇・一立方仙迷ヲ食鹽水五〇〇〇ニ

「ツベルクリン」

溶解シ、其一筒ノ注射ヨリ始メ、反應ノ有無ヲ檢シ、舊ツベルクリンノ如ク隔日之ヲ反覆シ、徐々増量シテ一回量固形分五密瓦(即チ原液〇五立方仙迷)ニ達スルトキハ一週二回トシ、二十密瓦ニ達シテ反應ナキトキハ治療ト認ム。但シ舊ツベルクリンニ比シ弊價寧ロ劣ルガ如シ。

△新ツベルクリン(細菌乳劑) Neutuberkulin (Bacillenemulsion)

一九〇一年ノ製劑ナリ。結核菌ノ全部ヲ細末トナシ、水、グリセリンノ等分ニ混和シタルモノニシテ一立方仙迷中五密瓦ノ細菌末ヲ含有ス。

用量ハ細菌末〇〇〇二五—〇〇〇五密瓦ヨリ始メ、漸次増量シテ最高〇〇三密瓦ニ至ル。結核菌ニ對スル患者ノ血液ノ凝集力ヲ充進スルハ事實ナレドモ、治療上ノ効果顯著ナラズ。

但ライト Wright ガ「オブソニン」指數ノ檢定ニ由リ歸納セル所ニ據レバ肺結核ニハ三萬分ノ一密瓦他ノ全ク限局セル結核ニハ一萬五千分ノ一乃至一萬分ノ一密瓦ヨリ始メ、毎十日ニ反覆シ、増量ハ其三分ノ一量ヲ超過ス可カラズ、而シテ最大量一回四千分ノ一密瓦ニ達スルヲ得ベシト云フ。個性ニ由リ之ヲ増減スベキヤ勿論ナリ。

△無蛋白ツベルクリン(Tuberkulin A. F.)

無蛋白培養液ニ於ケル結核菌培養ヨリ得タルモノニシテ、低溫ニ於テ原液ヲ二五%ニ縮

濃セルモノ、黄色澄明ノ液ナリ。

「ア・エフ」トハ「アルブモーズ」ヲ含有セズ、albumosenfreiトノ謂ナリ、然レドモ結核菌ヨリ來ル特殊ノ蛋白質ヲ含有スルヤ勿論ナリ、其舊ツベルクリント異ル所ハ肉汁蛋白質、ペプトン等培養基ニ添加セル蛋白質ヲ含有セザルコト、並ニ舊ツベルクリン製造ノ際高熱ヲ加フルガ爲メニ發生スル不明ノ毒物ヲ有セザルニ在リ。

故ニツベルクリンニ特殊ノ性質ハ盡ク之ヲ具有スト雖モ、之ヲ皮下ニ注射スルニ反應微弱ニシテ自覺症狀亦輕ク、從テ容易ニ増量セラレ得ルノ利アリ、即チ通常十分ノ一密瓦ヨリ始メ、毎週一乃至二回之ヲ反覆シ、漸次極量二千乃至三千密瓦ニ達シ得ベシト云フ。

患者本製劑ノ大量ヲ堪ユルニ至ラバ後續療法トシテ細菌乳劑注射ヲ行フベシ、初メヨリ大量ニ耐ヘ且速カニ之ヲ増量スルヲ得ベシ。

「ピオチアナーゼ」

△「ピオチアナーゼ」 Pyocyanase

多數ノ細菌培養ハ一定ノ時日ヲ經過スルトキハ十分ナル養素ガ存在スルニ拘ラズ其發育靜止シ、終ニハ細菌ノ溶解ヲ來スモノナリ。是レ細菌ニ由テ、一種ノ細菌溶解性ヲ有スル酸酵素ノ形成セラル、ニ由ル。此種ノ酸酵素ハ或ハ自己又ハ一定種類ノ細菌ノミヲ溶解スルアリ、或ハ多種ノ細菌ニ作用スルモノアリ、而シテ「ピオ

「ピオチアナーゼ」

チアネウス菌膿ニ青綠色ヲ與フル所謂綠膿菌ノ自家溶解ニ由テ生ズル醱酵素ハ後者ニ屬シ、試験管中ニ於テ「ヂフテリア」菌菌狀菌、連鎖菌等ノ發育ヲ抑制シ且之ヲ溶解スルノ性アリ、ピオチアナールセハ該醱酵素ノ溶液ナリ。

主トシテ「ヂフテリア」口峽炎、腦膜炎等ニ使用セラル「ヂフテリア」ニハ一日二三回咽頭ニ散霧ス(二〇—三〇)但シ同時ニ血清療法ヲ行フヲ要ス。腦膜炎ニハ三—五立方仙迷ヲ硬腦膜下ニ注射ス。

副作用トシテ嘔吐又ハ下痢ヲ見ル、又一過性虛脱ヲ來スコトアリ。

一 治療血清

動物ヲ自動的ニ免疫スルトキハ其血清ハ抗體ヲ含有シ、之ヲ人體ノ皮下ニ注射スルトキハ直チニ人體ヲ免疫セシム、故ニ豫防ノ外、急性傳染病ノ治療ニ應用スルヲ得、自動免疫ト異リ反應ヲ來スコトナシ、而シテ抗體ヲ新生スルコトナク、且比較的速ニ分解排泄セラル、ガ故ニ其豫防力ハ約二三週間持續スルノミ。

血清治療ニ最モ適合セル疾病ハ真正毒素ニ由テ來ルモノ、即チ「ヂフテリア」破傷風等ナリ。内毒素ハ上説セル如ク抗毒素ヲ作ラズ又之ヲ作ルモ極メテ微少ナリ、而モ是等ノ疾患ニ抗毒性血清ヲ使用センカ、體內ニ蕃殖セル細菌一時ニ死滅溶解シテ多量ノ内毒素ヲ遊離シ、劇烈ナル症狀ヲ來シ、却テ危險ヲ來スノ虞アリ、故ニ豫防

ノ目的ニハ適當スルモ、治療上ニ之ヲ使用スルニハ疾患ノ初期ニ非ンバ不可ナリ。抗體ハ一部乳汁ト共ニ分泌セラル、之レ哺乳兒ガ多數ノ傳染病ニ對シ母體ト同一ノ免疫ヲ有スル所以ナリ。

「ヂフテリア」血清

「ヂフテリア」血清ハ「ヂフテリア」毒素ニ對スル抗毒素ヲ含有スル血清ニシテ「ヂフテリア」治療竝ニ豫防ニ使用セラル。

其製法ハ通常馬ニ先ツ少量ノ「ヂフテリア」毒素ヲ注射シ、徐々之ヲ増量シテ高度ノ免疫性ヲ得セシメタル後、瀉血法ニ由テ血液ヲ取り、其血清ヲ集メ、液體ノモノニハ防腐藥トシテ石炭酸又ハトリクレゾールヲ加フルニ在リ。

血清ガ抗毒素ヲ含有スル量ハ、免疫ノ方法、時日、免疫動物ノ種類等ニテ各異ルガ故ニ一々之ヲ定量セザルベカラズ、抗毒素ノ量ハ「ヂフテリア」毒素ヲ中和スル力ニ由テ之ヲ定ム、其單位ハペーリング Behring 及エーレルリヒ Ehrlichニ據ル、即チ二百五十瓦ノ體重ヲ有スル「モルモット」ヲ四日間ニ致死セシムル最少量(一死量ノ百倍ヲ中和スル抗毒素ノ量)ヲ一免疫單位 Immunitätseinheit (I. E.) 又ハ一抗毒單位 Antitoxineinheit (A. E.) ト云フ。

「ヂフテリア」血清ハ「ヂフテリア」毒素ヲ中和スル以外ニ何等ノ作用ヲ有セズ、豫防藥トシテ二百乃至五百免疫單位ヲ皮下(胸部又ハ大腿)ニ注射スレバ三週間有効ナ

「ヂフテリア」血清

免疫單位

換防

治療

リ。既ニ發病セルモノニハ成ルベク迅速ニ多量ヲ注射スルヲ要ス、豫後ハ専ラ發病後注射ノ遲速ニ關ス。統計ニ據ルニ

發病後第一日ニ注射ヲ行ヘルモノハ其死率	〇%
第二日	一五%
第三日	六%
第四日	八%
第五日	一四%
第六日	二一%

ナリト云フ。而シテ發病後ノ時間、症狀ノ輕重ニ由テ六百千、二千乃至三千單位或ハ其以上ヲ注射スベシ。少量ニ失スルヨリハ寧ロ一回ニ大量ヲ注射スルヲ優レリトス。

「デフテリア」血清ハ咽頭「デフテリア」ノミナラズ、喉頭、眼、腔、鼻等ノ病症ニモ有効ナリ。注射後十二乃至二十四時ニシテ體温下降シ、氣色爽快トナリ。局所ニハ義膜脆軟トナリ、黃色ヲ帶ビ分割線ヲ生ジ、周縁ヨリ漸次剝離シ、三四日ニシテ全ク終結ス。然レドモ、血清ハ純抗毒性ナルガ故ニ直接ニ細菌ノ發育ニ關係ナク、只細菌毒ヲ中和シテ以テ局所ノ破壊ヲ中止セシメ、從テ細菌ニ好箇ノ培養基ヲ與フルコトヲ妨ゲ、間接ニ其發育ヲ防碍スルノミ、故ニ血清ニ由テ治シタル患者ハ尙永ク有力ナル細

菌ヲ貯ヘ、他ニ感染セシムルノ危險アリ。鼻口腔ノ防腐洗滌ヲ必要トス。

「デフテリア」症狀ノ中、所謂「デフテリア」麻痺ト稱セラル、心臟聲帶等ノ麻痺竝ニ他ノ劇烈ナル中樞神經ノ症狀ハ血清ニ由テ影響セラル、コト尠シ。

「デフテリア」抗毒素ハ毒素ガ遊離シテ存在セル間ハ容易ニ之ヲ中和スルモ、組織内ニ侵入セルモノニ對シテハ効力微弱ナリ。蓋シ抗毒素ハ毒素ト異ナリ組織内ニ侵入スルノ性ニ乏シ是レ主トシテ血清ガ發病後速ニ注射セラル可カラザル所以ナリ。動物ニ毒素ヲ注射スルトキハ數分ニシテ血液中ヨリ消滅スルモ、抗毒素ハ長ク其中ニ證明セラル、ヲ以テモ如何ニ其組織ニ對スル結合カノ差アルカヲ知ルベシ。故ニ多量ノ毒素發生シテ既ニ組織ト結合セル場合ニハ血清ヲ以テ之ヲ救フヲ得ズ。

マイエル及ランソム Meyer und Ransom ニ從ヘバ「デフテリア」毒素ハ神經纖維中ニ入り恐ク軸索ヲ經テ中樞ニ達スルモ抗毒素ハ之ニ從フコト能ハズ、故ニ「デフテリア」後ノ麻痺ニ作用セズト。

血清注射ヲ行フトキハ時トシテ副作用トシテ注射後約一週間ニシテ發疹、麻疹、赤斑、發熱及關節痛等ヲ來ス。是レ血清病 Serumkrankheit ト稱セラル、モノニシテ、其原因ハ抗体ニ非ズシテ、動物ノ血清蛋白ニ由テ惹起セラル、モノナリ。此現象ハ再ビ同一ノ注射ヲ行フトキハ更ニ劇烈ニシテ且注射後短時日ニ發スルヲ常トス。

血清病ハ異種蛋白ニ對スル異常過敏性ニ基クモノニシテ「アナフィラキシー」Anaphylaxieト稱セラル、現象ト其本態ヲ同フス「アナフィラキシー」トハ異種蛋白ヲ消化管以外ニ注射スルトキハ第一回ニ於テハ反應ヲ呈セザルモ同一蛋白ノ第二回注射ニ對シ發疹發熱等ヲ來ス

「デフテリア」血清

血清病

状態ヲ云フ。其原因未ダ明ナラザルモ、恐ク抗體發生ト類似ノ機轉ニシテ、異種蛋白ヲ分解スル物質體中ニ發生シ、第二次ニ來レル蛋白ヲ分解シ、其產物ニ由テ上記ノ症候ヲ發スルモノナラン。蛋白ノ分解產物タル「プトン」「アルブミン」等ガ之ヲ皮下ニ注射スルトキハ一定ノ反應ヲ起スハ既ニ人ノ知ル所ナリ。即チ生體ハ異種蛋白ノ刺戟ニ由リ特殊ノ蛋白分解素ヲ發生スルモノナラン。故ニ一回馬ヨリ製セル「チフテリア」血清ノ注射ヲ受ケタルモノハ、數月數年後ト雖モ再ビ馬ノ血清ヲ注射スレバ劇烈ナル「アナフィラキシー」ヲ起ス虞アリ、斯ノ如キ患者ニハ羊、牛等他ノ動物ヨリ製セル血清ヲ使用スルコト合理的ナルベシ。

「ツベルクリン」ガ結核患者ニノミ反應ヲ來スモ亦恐ク同一ノ現象ニシテ結核患者ハ特殊結核菌體ノ蛋白ニ對スル分解素ヲ有スルガ爲ナラン。

▲「チフテリア」血清 Serum antiphthericum

「チフテリア」毒素ヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ニシテ左ノ二種アリ。

▲液體「チフテリア」血清 Serum antiphthericum liquidum

類黄色澄明或ハ微ニ濁セル液ニシテ貯藏ノ目的ニ添加セル防腐藥ノ臭氣ヲ有ス。立方仙迷中ニハ五百免疫單位以上ヲ有セザルベカラズ。

局方ニ規定セラレタル所ニ據レバ、一樽中ノ免疫單位數ニ從ヒテ第一號六百免疫單位、第二號千免疫單位、第三號千五百免疫單位ノ三種アリ。

貯藏ハ冷暗處ニ於テスベシ、但一年以上ヲ過グ可カラズ。又著シク濁濁シ又ハ多量ノ滲液ヲ含ムモノハ供用スベカラズ。

▲乾燥「チフテリア」血清 Serum antiphthericum siccum

「チフテリア」血清ヲ低温ニテ乾燥セシメタルモノニシテ黄色透映ノ小葉片或ハ帶黄白色ノ粉末ナリ。其一瓦ハ少クモ五千免疫單位ヲ有シ、之ヲ冷暗處ニ貯ヘ、用ニ臨デ石炭酸水二百倍又ハ滅菌水ニ溶解スベシ、但シ溶解ニ時間ヲ要ス。

共ニ豫防ニハ二百乃至五百單位、治療ノ目的ニハ千、二千、五千單位ヲ用ユ。必要アレバ十二乃至二十四時後更ニ之ヲ反覆ス。高度ニ免疫セル血清ヲ選ビ、成ル可ク多量ノ血清ノ注射ヲ避クベシ。

破傷風血清

「チフテリア」血清ノ如ク破傷風毒素ヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ナリ。液體ノモノニハ防腐藥トシテ石炭酸(一%)ヲ加フ。免疫單位ハ四千萬瓦ノ南京鼠ニ對スル最少致死量ノ毒素ヲ中和スル抗毒素ノ量ナリ。

破傷風毒ニ適量ノ該血清ヲ混ズルトキハ之ヲ動物ニ注射スルモ全然無害ナリ、又該血清ヲ注射シタル動物ハ破傷風菌ヲ接種スルモ、或ハ其毒素ヲ注射スルモ何等症狀ヲ發スルコトナシ、然レドモ破傷風ニ感染シ既ニ其症狀ヲ發セルモノニハ大量ノ血清ヲ注射スルモ多クハ無効ナリ。其理由如何。

破傷風菌ガ例ヘバ皮膚外傷部ニ發育スルヤ、發生セル毒素ハ直ニ神經末端ニ竄入シ軸索ヲ經テ脊髓ニ達シ其反射機能ヲ亢進シ、次テ漸次上行シテ延髓ニ達シ全身ノ痙攣ヲ發ス。故ニ破傷風ノ潜伏期ハ通過スベキ神經ノ長短ニ關ス、同一動物ニ

在リテハ負傷ノ部位ニ由テ潜伏ノ時間ヲ異ニシ、異種動物ニ於テハ體ノ大小ニ關ス。即チ毒素注射後馬ハ五日、犬ハ一日半乃至二日、モルモットハ十三乃至十八時、南京鼠ハ八乃至十二時ニ發病スルガ如シ。又如何ナル動物ト雖モ毒素ヲ脊髓内ニ注射スルトキハ一二時ニシテ發症ス。又細菌蕃殖部ニ於テ發生セル毒素ノ一部ハ一旦血液中ニ入り亦他ノ神經末端ヨリ進入シテ中樞ニ達ス。

然ルニ抗毒素ハ神經中ニ入ルコトヲ得ザルガ故ニ其多量ヲ注射スルト雖モ只發生シツ、アル又ハ血液中ニ遊離セル毒素ニ作用スルノミニシテ、神經中ニ入りタルモノニ對シテハ全ク手ヲ束ヌルノ外ナシ。是レ發症後ハ勿論潜伏期ニ於テモ血清ノ皮下注射ガ多クハ無効ナル所以ナリ。

故ニ豫防ニハ血清ノ皮下注射ニテ足ル。治療ノ目的ニハ直接ニ之ヲ外傷部ニ達スル神經ノ徑路中ニ注射スルニ非ザレバ奏効スルコトナシ。

豫防ニハ二十單位ヲ皮下ニ注射シ確効アリ。發病後ハ百乃至二百單位ヲ毎日一二回反覆スルモ奏効セザルコト多シ。神經内注射ヲ試ムベシ。又腰髄穿刺ヲ行ヒ十乃至二十立方仙迷ノ脊髓液ヲ流出モシメ徐々ニ同量ノ血清ヲ注射スベシ。

▲破傷風血清 *Serum antitetanicum*

破傷風毒素ヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ナリ。二種アリ。

▲液體破傷風血清 *Serum antitetanicum liquidum*

類黄色澄明或ハ微ニ濁セル液ニシテ添加防腐藥ノ臭氣ヲ有ス。一立方仙迷中ニハ五免疫單位以上ヲ有セザル可カラズ。貯藏ハ之レヲ冷暗處ニ於テスベシ。但一年以上ヲ過グベカラズ。

▲乾燥破傷風血清 *Serum antitetanicum siccum*

透映ノ小葉片或ハ帶黄白色ノ粉末ナリ。本品一瓦ハ少クモ五十免疫單位ヲ有ス。用ニ臨ミ二百倍石炭酸水又ハ滅菌水ニ溶解スベシ。

連鎖菌血清

連鎖菌血清ハ抗菌性血清ナリ。總テ連鎖菌ニ由テ惹起セララル、並ニ續發的ニ連鎖菌ノ傳染ヲ來ス疾患ニ應用セラル。即チ猩紅熱、產褥熱、丹毒、心臟内膜炎、敗血症、肺結核ノ混合傳染等ナリ。

連鎖菌血清ニ二種アリ。一ハ直接人體ノ病竈ヨリ採取セル菌ノ培養ヲ以テ動物(馬)ヲ免疫シ其血清ヲ取リタルモノ、一ハ人體ノ菌ヲ數回動物體ヲ通過セシメ其害性ヲ増大セルモノヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ヲ取リタルモノ是ナリ。後者ハ只動物體通過ニ由テ變化セル菌ニ作用スルモノ、人體中ノ菌ニハ無効ナリト主張スル論者アルモ、實際ニハ兩種ノ血清並ビ行ハル、ガ如シ。

本血清ノ効果ハ其報告區々ナリ且多數ノ製劑ノ優劣判然セズ、蓋シ尙試驗中ニ屬スルモノナリ。副作用トシテ發疹、注射部ノ疼痛化膿等ヲ見ルコトアリ。

△マルモレーク連鎖菌血清 *Antistreptokokkenserum-Marmorék*

連鎖菌血清

動物通過ニ由リ高度ノ毒性ヲ與ヘタル菌ヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ナリ。猩紅熱産毒熱等ニ有効ナリト云フ。

△アロンソン血清 Antistreptokokkenserum-Aronson

直接人體ノ菌ト動物通過法ヲ行ヒタル菌トヲ以テ得タル血清ナリ。兩種ノ抗體ヲ有ス。

△メンツェル血清 Antistreptokokkenserum-Menzer

△ターヴェル血清 Antistreptokokkenserum-Tavel

△バルタウフ血清 Antistreptokokkenserum-Paltauf

共ニ人體ヨリ直接ニ得タル菌ヲ以テ製ス。

△モーゼル猩紅熱血清 Scharlachserum-Moser

猩紅熱屍ノ心臓血ヨリ培養セル菌ヲ接種シテ製ス。殊ニ猩紅熱ニ使用セラル。

以上諸種血清ノ用量用法等ハ各製劑ニ添附セル製造者ノ記載ニ據ルベシ。

以上ノ外多數ノ血清販賣セラル、モ茲ニハ其二三ノ名稱ヲ舉グルニ止メシ。

△ヨッホマン腦脊髄膜炎血清 Meningokokkenserum-Jochmann

腦脊髄膜炎重球菌ノ接種ニ由テ得タル血清ナリ。液體及乾燥ノ二ナリ。

△ツンバル枯草熱血清(ポランチン) Heufieberum-Dunbar (Pollantin)

禾本科植物ヨリ得タル蛋白様毒素ヲ注射シ得タル馬ノ抗毒血清ナリ。液體乾燥ノ二種ヲ

リ。之ヲ眼及鼻ニ點滴塗布ス。

△蛇毒血清(アンチヴエニン) Schlangengiftserum (Antivenin)

「コブラ」毒ヲ以テ免疫セル馬ノ血清ナリ。「コブラ」以外ノ毒蛇咬傷ニハ無効ナリト云フ。

△赤痢血清 Dysenterieserum

細菌性赤痢ニ使用セラル抗毒性志賀クルーゼ(Kruso)竝ニ抗菌抗毒性(ローゼンタール Rosenhau)ノ二種アリ。

其他曰ク結核血清曰ク肺炎菌血清曰ク「ベスト」血清曰ク脾脱疽血清等殆ト枚舉

ニ遑アラズ。

第三十六章 臟器製劑 Organopreparate

凡ソ生活セル組織ハ絶ヘズ血液ヨリ一定ノ物質ヲ取リテ之ヲ變化シ其產物ヲ血液ニ與フ是レ即物質交換ナリ而シテ通常ノ組織ノ取ルモノハ養素ニシテ與フル所ノモノハ生理的價値ヲ有セザル不要物ナリ然ルニ一定ノ組織殊ニ腺様構造ヲ有スル臟器ノ組織ハ上記普通ノ物質交換ノ外生體ノ正規状態ヲ保績スルニ必要ナル產物ヲ製造分泌ス消化腺ノ機能ノ如キ即チ是ナリ。

外分泌及内分

分泌ニ二種アリ。皮膚、消化腺ノ如ク其產物ヲ皮膚面又ハ粘膜面ニ出ス之ヲ外分泌。 *äussere Sekretion* ト云ヒ其產物ヲ血中ニ出ス之ヲ内分泌。 *innere Sekretion* ト云フ。前篇ニ於テ論ジタル「アドレナリン」ノ如キハ副腎ニ由テ産出セラル、内分泌物ナリ其他一般ニ輸尿管ヲ有セザル腺様構造ヲ有スル臟器即チ甲状腺、下垂體等モ一定ノ内分泌物ヲ産出スルコトハ疑フベカラザルノ事實ナリ。輸尿管ヲ有シ外分泌ヲ行フ臟器中ニモ亦特殊ノ内分泌物ヲ産出スルモノアルハ一般ニ信ゼラル、所ナリ。

内分泌物ハ臟器ノ特殊新陳代謝ノ產物ニシテ他ノ組織ノ機能榮養發育ニ缺クベカラザルモノナリ。例ヘバ兩側ノ副腎血管ヲ結紮シテ突然「アドレナリン」ノ分泌ヲ制止セシムルトキハ動物ハ久カラズシテ斃死ス。

一定ノ臟器ハ又生體ニ有害ナル物質ヲ血中ヨリ取り之ヲ無害トナスノ性ヲ有

臟器ノ解毒機能

スルガ如シ之ニ對シテハ異論アルモ肝臟ガ多數ノ外來毒物ヲ捕捉シ漸次之ヲ無害トナスハ蓋シ事實ニシテ他ノ臟器ニ於テモ類似ノ機轉ガ一定ノ外來又ハ内發毒物ニ對シ行ハル、ハ之ヲ推測シ得ベシ。此現象モ亦一ノ變形セル新陳代謝ニシテ一定ノ毒物ヲ恰モ養素ノ如ク血液中ヨリ取り之ヲ分解又ハ變化セシムルモノナリ。

約言スレバ一定ノ臟器ハ特殊新陳代謝ニ由テ生體ニ必要ナル物質ヲ産出シ又ハ生活ニ有害ナル物質ヲ分解變化セシムルノ機能ヲ有ス。

故ニ此種ノ臟器ガ手術損傷等ニ由テ破壊セラレ又ハ病變ニ由テ其機能ヲ失フトキハ生體ニ障害ヲ齎スハ炳然タリ。臟器療法 *Organotherapie* ハ他ヨリ得タル臟器又ハ有効分等ヲ以テ其缺損ヲ填補スルヲ目的トス。

填缺ノ目的ヲ完全ニ達センニハ出來得ベクンバ缺損セル臟器ヲ他體ヨリ取り之ヲ移植スルヲ最良手段トス。但シ此方面ハ外科學ノ領域ニ屬スルガ故ニ論及セズ。乃チ普通ノ意味ニ於ケル臟器療法ハ臟器ノ内服又ハ注射ニ由テ其缺損ニ應ゼントスルモノナリ。而シテ左ノ條件ニ適合スルヲ要ス。

一 内分泌ヲ行フ臟器ノ缺損ナラザルベカラズ毒物ヲ捕捉無害トナス臟器ノ缺損ニ對シテハ無効ナリ。

二 有効分ノ分解シ易キモノハ有効ナル製劑ヲ得ルニ難ク且其効力一過性ナ

ルガ故ニ不適當ナリ、少クモ效果不完全ナリ、理論上頻繁ニ其使用ヲ反覆スルトキハ目的ヲ達シ得ベキガ如キモ實際上不可能ナリ。

三 生體ニ對シ間斷ナク必要ナル内分分泌物ノ填補ハ同一ノ理由ニ因リ不可能ナリ。

故ニ疾病又ハ障害ノ原因、内分泌ノ缺損ニ在ルモノト雖モ、腺器療法ノ奏効スルハ極メテ少数ナリ。彼ノ「アドレナリン」ノ如キモ上記ノ二及三項ニ抵觸スルガ故ニ腺器療法ノ意義ニ於テハ全ク無効ニシテ只對症藥トシテ使用セラル、ノミ。又勿論上記ノ條件ニ適合スルモノト雖モ其効力ハ服藥停止ト共ニ早晚消失スルモノナリ。

甲状腺

甲状腺ノ全摘出ヲ行フトキハ漸次皮下組織ノ浮腫、皮膚ノ栄養障害、貧血、精神的並ニ肉體的遲鈍、記憶並ニ一般智力減退等ノ如キ、特發性ニ來ル粘液浮腫 Myxödemト同一ナル症狀ヲ發ス。又發育期ニ在ル動物ノ甲状腺全摘出ヲ行フトキハ生育障害セラレ、頭顱變形シ、四肢短縮、皮膚浮腫様トナリ、運動緩慢、體力微弱トナルコト恰モ人ノ「クレチン」病 Cretinismusニ於ケルガ如シ。是等ハ甲状腺性惡液質 Cachexia strumivivaト稱セラル、モノニシテ、其原因一ニ腺缺損ニ在リ。腺質ノ一小部分殘留スルトキハ發生セズ、又上記特發性粘液浮腫及「クレチン」病モ亦甲状腺ノ變性或ハ先天

的缺損ニ由リ來ルモノニシテ手術後ニ來ル惡液質ト其基因ヲ同フス

動物ニテハ甲状腺全摘出後屢、發作性ノ強直性痙攣ヲ發シ、遂ニ呼吸筋ヲ犯シ死ス。人ニ於テモ亦恰モ「テタニー」様ノ症候ヲ來シ、先ヅ上肢屈筋次デ全身並ニ呼吸筋ノ強直性痙攣ヲ發スルコトアリ。一時甲状腺ト關係アルモノト思考セラレタルモ、近年ニ至リ該「テタニー」ハ副甲状腺或ハ上皮小體ト稱セラル、別個ノ腺器缺損ニ基クコトヲ知レリ。副甲状腺ハ犬ニ於テハ通常甲状腺ニ密接シ又ハ其中ニ包括セラル、ガ故ニ手術ノ際不注意ニ同時ニ之ヲ摘出スルヲ常トス。人ニ於テハ兩者多少相離ル、ヲ常トスルガ故ニ多クハ殘留ス。故ニ「テタニー」ハ人ニ在リテハ甲状腺摘出ノ必發ノ現象ニ非ラズ。

甲状腺性惡液質ニ罹レル患者ニ他人ノ甲状腺ノ一部ヲ取り皮下又ハ腹腔内ニ移植スルトキハ、症狀全ク消失シ、遲緩セル新陳代謝ハ再ビ活潑トナリ、栄養佳良トナリ、體力智力共ニ恢復ス。而シテ移植セル腺片ニ血管發生シ生活ヲ維持スルトキハ其効果ハ永久的ナルモ、腺片壞死吸收セラル、トキハ症狀再發ス。

腺器療法ハ實ニ此經驗ヨリ胚胎セルモノニシテ、初メ人ノ腺器ヲ用ヒタルモノ變ジテ動物ノ腺トナリ、次デ腺ヨリ得タル越幾斯ノ注射トナリ、終ニ「マクケンジー」Mackenzieニ由テ搗碎セル腺ノ内服モ亦同一ノ効果アルコトヲ認メラル、ニ至レリ。

甲状腺ノ有効成分ハ「バウマン」Bannanニ據レバ「ヨードチリン」Jodochrylin 又ハ「チレオ・ヨヂン」Thyreojodinト稱セラル、有機化合物ニシテ、其量新鮮ノ腺ノ約〇・三%ニシテ、一〇%ノ「ヨード」ヲ鞏固ナル結合トシテ含有ス。

甲状腺ノ有効成分

甲状腺

「ヨードチリン」ハ甲状腺ノ腺胞中ニ含有セラル、膠樣體ノ分解ニ由テ生ズルモノニシテ、オスワルド Oswald ハ該膠樣體ヨリ「チレオグロブリン」Thyreoglobulin ト稱スル第二「アルブモージェ」ニ屬スル蛋白質ヲ析出シ之ヲ甲状腺ノ有効成分トセリ。

ビック及ビネレス Pick und Pinels ガ野羊ニ就テ行ヘル實驗ニ據レバ「ヨードチリン」ハ甲状腺ニ缺損ニ對シ無効ナルモノ、チレオグロブリン「ハ確實ニ奏効シ、且一定度マデ胃液ノ消化ニ抵抗スト云フ。

甲状腺ノ作用

其中毒

甲状腺ハ故ニ恐ク内分泌物トシテ「ヨード」ヲ含有スル「チレオグロブリン」ヲ血液ニ與ヘ、細胞ノ原形質ノ破壊及構成機能ヲ亢進スルモノナラン。而シテ甲状腺製劑ノ過多量ヲ與フルトキハ、所謂「甲状腺中毒」Thyreoidismus ヲ發ス其症狀頭部充血、心悸亢進、速脈、呼吸促迫、不眠症、四肢震顫、煩渴、熱感、流汗、頸部腫脹、眼球突出等恰モ「バセドウ氏病」ニ於ケルガ如シ。而シテ「バセドウ氏病」ハ實際甲状腺ノ機能亢進ニ因スル内發性中毒ニシテ、上記甲状腺中毒ト其本態ヲ同フス。

甲状腺製劑ハ體中蛋白ノ分解ヲ亢進シ、爲メニ尿中ノ窒素、食鹽、磷酸、硫酸等ノ量ヲ増シ、又酸化作用ヲ亢進シ、脂肪ノ燃燒ヲ盛ニシ、從テ酸素ノ需用、炭酸ノ排泄ヲ増ス。其結果尿量増大シ、體重減少ス、而シテ非常ニ大量ノ含窒素物ヲ攝取スルニ非レバ、窒素平衡ヲ保ツコト能ハズ。是亦「バセドウ氏病」ニ見ル所ノ如シ。

甲状腺製劑ノ應用

甲状腺製劑ハ粘液、浮腫ノ特效藥ニシテ、特發性及手術後ノ兩種ニ對シ均ク有効

ナリ。服藥後二三日ニシテ既ニ佳兆ヲ示シ、浮腫減退、顔貌常ニ復シ、又痲呆狀ナラズ、皮膚再ビ柔靱トナリ、汗腺ノ分泌起リ、血球増量シ、體重減シ、數週ニシテ智力體質共ニ面目ヲ一新ス。但シ休藥スレバ再發スルガ故ニ、必要ニ應シ之ヲ反覆スベシ。クレチン病ニ對シテモ同効ニシテ、身體再ビ發育ヲ初メ、智力増進シ、生殖器ノ發育亦之ニ伴フ。

甲状腺腫ニ對シテハ少年期ニ來ル單純增殖性即チ實質性ノモノニ有効ナリ。膠樣又ハ囊樣變性ヲ來セルモノニハ多ク無効ナリ。無機「ヨード」製劑例ヘバ「ヨード」丁幾一日〇・一八ヲ以テ往々同一ノ効果ヲ見ルコトアルモ、甲状腺製劑ハ其「ヨード」量ヲ以テ論ズルトキハ極メテ少量ニテ作用ス。故ニ其効ハ單ニ「ヨード」ノ爲メニ非ズシテ甲状腺ノ特殊成分ニ因ルモノナラン。

脂肪過多症ニ對シ時ニ驚クベキ偉効アリ(二週間中ニ十基瓦ノ減量ヲ見タルコトアリ)此作用ハ一部ハ上記酸化作用ノ亢進ニ因ルモ、一説ニ又體中含水炭素ノ脂肪ニ變化スルコトヲ妨グルニ由ルト云フ。甲状腺製劑ガ糖尿ヲ來スコトアルハ或ハ此理ニ由ルカ、肥胖病ノ殊ニ素質的ニ來ルモノ、即チ減食、勞働等ヲ行フモ尙脂肪ノ増殖附著スルモノニ有効ナリ。

頑固ナル慢性皮膚病例ヘバ鱗癬、皮膚硬化症等ニ用ユ、奏効確實ト云フヲ得ザルモ、之ヲ試ムル可ナリ。又骨ノ發生ヲ催進スルガ故ニ骨折後化骨不完全ノモノニ試

甲状腺

ム。或ハ血液ノ凝固性ヲ亢進スルガ故ニ之ヲ血友病ニ使用ス。末端肥大症 Akromegalia
ニ對シテハ贊否區々ナリ。

バセドー氏病ニ對シテ一時盛ニ使用セラレ、且有効ナリトノ報告ナキニ非ザル
モ、却テ症狀ノ増悪スルモノ其多キヲ占ム。上説ノ如ク本病ハ寧ロ甲状腺ノ機能過
大ニ因テ來ルモノナルガ故ニ、當然禁忌症タルベキノ理ナリ。方今バセドー氏病ニ
用キラル、製劑ハ本章ノ終ニ附記スベシ。

嘗テハ特發性竝ニ手術後ノ「テタニ」ニ用キラレタルモ無効ナリ。「テタニ」ニ對
シテハ理論上副甲状腺ガ有効ナルベキモ、一二稱贊ノ報告アルニ拘ラズ、其無効ヲ
主張スルモノ多シ。蓋シ副甲状腺ノ作用ハ内分泌ヲ營ムモノニ非ズシテ、體內ニ發
生セル瘧毒ヲ結合中和スルニ在ルガ故ニ、生活セル特殊ノ細胞ノ存在ヲ必用ト
シ、内服注射等ヲ以テ之ヲ補フヲ得ザルモノカ。

△甲状腺 Glandula thyroidea

羊、犢或ハ牛ヨリ得タル新鮮ナル腺ヲ生ニテ或ハ煮テ内服セシム。一日量一〇—
二〇、奏効スレバ之ヲ持續スル爲メニ每週一〇—二〇ヲ與フ。

腐敗ニ傾ケルモノヲ使用スルトキハ所謂病的甲状腺中毒ト稱セラル症候、即發
熱、蛋白尿、糖尿、發疹、嗜眠状態、瘧等ヲ發スルコトアリ。

△乾燥甲状腺乾燥「チレオイヂン」 Glandula thyroidea siccata (Thyreoidinum siccum)

腺ヲ乾燥シ粉末トナセルモノ、其一分ハ新鮮ナル腺ノ六分ニ該當ス。一日量〇・二—
一〇、四、或ハ〇・一ノ錠劑ニ乃至四個内用。

△「チラヂン」 Thyraden

生理的食鹽水ヲ以テ製セル腺越幾斯ナリ。其一分ハ新鮮ナル腺ノ二分ニ適ス。通
常乳糖ヲ加ヘ其一個ハ〇・三ノ新鮮ナル腺ニ該當スル錠劑トナシ販賣セラル。一日
量六乃至九個、内用。

△「アイヂン」 Ajodin

食鹽水ヲ以テ抽出シ鞣酸ニテ有効分ヲ沈降セシメ製ス。其一分ハ新鮮ナル腺ノ
十分ニ適ス。粉末及錠劑トシテ販賣セラル。

△「ヨードチリン」「チレオヨヂン」 Jodothyrin (Thyreojodin)

有効分ニ乳糖ヲ加ヘ、一〇中ノ「ヨート」量ヲ〇・〇〇〇三トナシタルモノ、即チ新鮮
腺ノ約同量ニ該當ス。實質性甲状腺腫ニハ奏効スルモ其他ノ疾患ニ對シテハ特殊
ナラズト云フ(既記参照)。一日量一〇—二〇、内用。小兒ニハ一日〇・三—一〇。

バセドー氏病ハ甲状腺内分泌過剰ニ由テ來ルモノト認メラレ得ルカ故ニ、之ニ
對シテ甲状腺ヲ摘出セル動物ノ血清ヲ試ム。症候輕快ノ報告アリ、又其代用トシテ
同上手術セル羊ノ乳汁製劑ヲモ用ユ。

△**モヒウス氏アンチチレオイチン** Antithyreoidin-Moebius

甲状腺ヲ摘出セル犬羊等ノ血清ニ防腐薬トシテ〇五%ノ石炭酸ヲ加ヘタルモノナリ、バセドー氏病ニ對シ一日三回〇五宛内用、後漸次増量ス。

△**ロダゲン** Rodagen

甲状腺ヲ除去セル野羊ノ乳汁ヨリ製ス。五〇%ノ乳糖ヲ加ヘ粉末トシテ販賣セラル。一日量五〇—一〇〇内用。

胸腺

胸腺中ニモ亦少量ノヨード含有物アリ。或ハヨードチリント同一物ナラント云フ。故ニ甲状腺ト同一ノ病症ニ試ミラル。

△**乾燥胸腺** Glandula Thymi siccata

各〇〇五〇三ノ新鮮胸腺ニ該當スノ錠劑トナシ販賣セラル。一日十二乃至十五個内用。

睾丸、スベルミン及卵巣

健康ナル少壯動物ノ睾丸中ニハ老衰セル體力並ニ智力ヲ恢復セシムル物質ヲ含有ストハブローンセカール Brown-Séguard ノ創メテ唱道セル所ナリ。ブローンセカールハ老衰ノ原因ヲ睾丸ノ萎縮ニ由テ來ル内分泌損ニ歸シ、動物ノ睾丸ヨリ得タル製劑ヲ自己ニ注射シ之ヲ立證セントセリ。一時此報告ハ世ノ非常ナル注意

ヲ喚起シ、睾丸製劑、睾丸越幾斯ノ注射ハ殊ニ生殖機能催進ノ目的トシテ盛ニ施行セラレタリ。然レトモ其聲價ハ漸次失墜シテ、今ヤ復之ヲ顧ルモノナキニ至レリ。

「**スベルミン**」 Spermin $C_8H_{17}N_3$ ハ恐ラク「**スクレイニン**」ノ分解産物ニシテ睾丸、攝護腺、卵巣、脾臓、脾臓、甲状腺等ニ含有セラル、鹽基ナリ。其磷酸鹽ハ即チシヤルコーライデンノ結晶ナリ。ポール Pohl ハ之ヲ以テ睾丸中ノ有効分ナリトナシ、之ヲ注射スルトキハ白血球ヲ増殖シ、血液ノアルカリ度ヲ増シ、組織内ノ酸化ヲ亢進シ從テ新陳代謝産物ノ異常發生ニ因スル自家中毒ニ有効ナリト稱セリ。

「スベルミン」ハ故ニ新陳代謝異常、神経系疾患、神經衰弱、ヒステリー等(陰萎、老衰、心臟衰弱、中毒等ニ使用セラル、モ奏効確實ナラズ。

△**ポール氏注射用スベルミン** Sperminum Pohl pro injectione

無色ノ液ニシテ二%ノスベルミン(食鹽ノ複鹽ヲ含有ス。

一日一回、一筒ヲ皮下又ハ臀筋内ニ注射ス。

△**ポール氏スベルミン・エッセンス** Essentia Spermin-Pohl

四%ノスベルミン(食鹽複鹽ヲ含有スル芳香性酒精溶液ナリ。

一日三乃至四回二十乃至三十滴内用。

卵巣ヲ摘出スルカ、又ハ月經閉止期ニ達シ卵巣ノ機能停止スルトキハ種々ノ神經症狀、心悸亢進、皮膚病、肥胖病等ヲ發ス。之ニ對シ「**オーフォリン**」 Oophorin「**オヴァリン**」

胸腺、睾丸、スベルミン及卵巣

Ovarin ホール氏「オウリン」Ovarin-Pol 等ヲ用エルモ奏効疑ハシ。

腦下垂體

下垂體ハ一定ノ發育機轉ニ影響ヲ有ス。殊ニ骨質ノ發育ニ關係アルコトハ末端異常肥大症 Akromegalie ノ際、常ニ該腺器ノ變性ヲ見ルニ由テ知ルベシ。其他下垂體ノ壓搾液ハ血壓ヲ亢進シ子宮ノ運動ヲ亢進スル等ノ事實アルモ、必竟尙研究中ニ屬シ、從テ其生理的意義未ダ判明セズ、末端肥大症ニ試ミ一時其輕快ヲ見タルコトアリト云フモ未ダ確定セル事實ニ非ラズ。

「ピツイトリン」 Pituitin ト稱セラル、製劑ハ下垂體ノ漏斗部ヨリ製セラレタル越幾斯ニシテ、其一〇ハ新鮮腺器ノ〇・一乾燥腺器ノ〇・〇一ニ該當ス。子宮ニ作用シテ之ヲ收縮セシメ、而モ他ノ子宮緊縮藥ニ於ケルガ如ク其性質強直性ナラザルガ故ニ陣痛微弱ニ用ヒ極メテ合理的ナリト云フ。又子宮内出血、膀胱麻痺ニ試ミラル。用量〇・五—一・五。

其他今日迄試ミラレタル腺器ハ極メテ多種ニシテ、脾臟(糖尿病)、腦脊髓(神經系疾患)、攝護腺(攝護腺肥大)、脾臟及赤色骨髓(貧血)、白血病、腎臟(尿毒症)等殆ト全腺器ヲ網羅ス。但シ其効力ハ之ヲ否認セサルベカラズ。

第三十七章 消化醱酵素 *Verdaunungsfermente*

内分泌ノ障害ニ對シ當該腺器或ハ其製劑ガ使用セラル、ガ如ク、必要ナル外分泌ノ不完全ナル際之ヲ補充スルハ合理的ナリ。消化、エンチム(醱酵素)ハ即チ消化液ノ分泌不完全ナルガ爲メニ來ル消化不良ニ對シ應用セラル。但蛋白質消化素ハ食物中ノ蛋白質ヲ消化スル生理的ノ目的以外ニ、寄生蟲又ハ義膜等ヲ消化センガ爲メニ使用セラル、コトアリ。

「ペプシン」

「ペプシン」ハ胃液中ニ含有セラル、醱酵素ニシテ、酸性液中ニ於テ蛋白質ヲ消化ス。

種々ノ疾患中ニ來ル消化不良ニ應用セラル、モ、真正ノ「ペプシン」(缺損ノ場合ノ外)多クハ無効ナリ。胃内容ヲ取り消化試験ヲ行フトキハ、多數ノ胃消化不良ノ原因ハ「ペプシン」(缺損ニ非ズシテ)鹽酸缺乏ノ爲ナルコトヲ知ルベシ。即チ經驗上「ペプシン」(缺損ハ全胃粘膜炎ノ變化等ノ場合ニ極メテ稀ニ來ルモノニシテ、從テ「ペプシン」ノ適應症ハ元來稀有ニ屬ス。只其全ク無害ナルガ故ニ必要ト否トヲ論ゼズ之ヲ使用スルノミ。

「ペプシン」ハ純粹ニ之ヲ製出スルコトヲ得ズ、且貯藏ニ由リ其効力ヲ失フ。故ニ販

賣品ノ効力ハ極メテ不同ナリ、局方規定ノ人工消化試験ニ由テ之ヲ測定スベシ。又其消化ニハ適量ノ鹽酸(〇・二%)ノ純鹽酸即チ「クロール」水素酸(HCl)ヲ要スルガ故ニ應用ノ際鹽酸配伍ヲ忘ルベカラズ。

▲含糖「ペプシン」 Pepsinum saccharatum

豚或ハ牛ノ胃粘膜ヨリ得タル「ペプシン」ニ乳糖ヲ混和セルモノニシテ、殆ド白色細織ノ粉末ヲナシ、稍潮解性ニシテ微ニ特異ノ臭氣ヲ有シ、味微甘ニシテ僅ニ苦味ヲ遺ス。百分ノ水ニ微濁シテ溶解シ、微弱酸性ノ反應ヲ微シ、酒精ニ殆ド溶解セズ。
〇・二—〇・五ヲ食後稀鹽酸ト共ニ與フ。

▲「ペプシン」酒 Vinum Pepsini

含糖「ペプシン」百分「グリセリン」水各五十分ヲ取り研和シ、鹽酸五分、白葡萄酒千八百分ヲ混和シ振盪シ、七日間放置シ、濾過シ製セル澄明類黄色或ハ類赤色ノ液ナリ。
每食後一乃至二茶匙內用。

多數ノ植物ハ「ペプシン」ノ如ク蛋白質ヲ消化スル物質ヲ含有ス、就中「パパイーン」ハ常溫ニ於テ、且中性、アルカリ性竝ニ酸性液中ニ於テ蛋白質ヲ消化スルガ故ニ藥用ニ試ミラレタリ。然レドモ其力微弱ニシテ効果ニ乏シ。

△「パパイーン」(「パポチン」) Papain (Papajoin)

Carica Papayaノ葉及ビ未熟果實ノ乳液ヨリ得タル酸酵素ナリ。白色ノ細末ニシテ水ニ殆ド

溶解シ、無臭無味ナリ。

「パパイーン」ハ酸性、アルカリ性及中中性ニ於テ蛋白質ヲ消化スルノ外、澱粉ヲ消化シ、竝ニ乳汁ヲ凝固セシムルノ性アリ。

消化不良ニ內用セシメ(〇・一—〇・三)又蟻蝨ニ對シ腸管内ニ於テ之ヲ消化センガ爲メ大量(一〇)ヲ與フ。外用藥トシテ「デフテリア」義膜ヲ消化センガ爲メ5%液ヲ毎十五分ニ塗布ス。悪性腫瘍(殊ニ癌腫)ニ一〇%ノ滅菌セル溶液ヲ實質内ニ注射スルコトアルモ、組織内ニ「ペプトン」ヲ發生シ、爲メニ局處刺戟、出血性腸炎ヲ發スルコトアリ。

△「ペグニン」 Peginin

犢ノ胃ヨリ得タル凝乳素「Labernent」ニ乳糖ヲ混ジタルモノ、白色ノ細末ニシテ容易ニ水及牛乳ニ溶解シ直チニ牛乳ヲ凝結セシム。

「リール」ノ煮沸セル牛乳ヲ四十度ノ溫トナシ九〇ノ「ペグニン」ヲ加ヘ之ヲ凝結セシメ後震盪シテ細片トナス。斯ノ如ク處置セル牛乳ハ胃中ニ於テ再ビ硬ク凝固スルコトナク、從テ容易ニ消化セラル、ガ故ニ、胃腸症ヲ有スル患者ニ使用スルヲ得ベシ。

「騰」エンチーム

「騰」エンチーム

「胰」エンチー

「胰」液液中ニハ「アルカリ」性液中ニテ蛋白質ヲ消化スル「トリプシン」Trypsin 澱粉ヲ糖化スル「チアスターゼ」Pancreastase 及「脂肪」ヲ鹼化スル「リパーゼ」Pancreasipase ナル三種ノ「酵素」ヲ含有ス。胰液缺乏、胰疾患、糖尿病等ニ内用セラル、モ其結果多クハ陰性ナリ。是レ一部ハ其胃通過ノ際變化シテ無効トナルニ由ル。

滋養灌腸トシテ肉ニ新鮮ナル「膵」ヲ加フルトキハ其消化吸収ヲ佳良ナラシム(細截肉三百分、膵百分、温湯百五十分ヲ加ヘ軟化セシメ灌腸)。

▲「パンクレアチン」Pancreatinum

温血動物ノ「膵」中ニ存在スル諸種「エンチーム」ノ混合物ニシテ、類黄色或ハ帶黄白色或ハ黄灰色無晶形ノ粉末ニシテ、臭氣ナク或ハ微ニ不快ナラザル特異ノ臭氣竝ニ肉ニ類スル味ヲ有シ、水ニ徐々ニ殆ド全溶ス。

消化薬トシテ〇・五—一・〇内用。

△液體「パンクレアチン」Pancreatinum liquidum

「膵」ノ「グリセリン」浸出液ナリ、用量一茶匙。

△「パンクレオン」Pancreon

帶灰赤色無臭ノ粉末ニシテ味不快ナラズ。

「パンクレアチン」ト「鞣酸」トノ抱合物ニシテ水竝ニ稀酸ニ溶解セズ、從テ胃中ニ於テ變化スル事ナク、腸ニ至リ分離シテ消化作用ヲ得、用量〇・三—〇・五宛一日三回。

「チアスターゼ」糖化素

「チアスターゼ」ノ作用

「チアスターゼ」Diastase 又「アミラーゼ」Amylase ト云フ。澱粉ヲ分解シテ「デキストリン」Dextrin 及「マルトローゼ」Mallose トナス性ヲ有ス。動物ノ消化液(唾液、膵液)及多數ノ植物ニ含有セラル。殊ニ「發芽」セントスル種子中ニ最多シ。故ニ「チアスターゼ」ヲ製スル原料ハ種々ナルモ、通常麥芽及麴ヨリス。

大麥ノ發芽 Malum hordeaceum ヲ水ヲ以テ浸出シ、低温ヲ以テ蒸發稠厚トセル、所謂「マルツ」越幾斯 Extractum Malti ハ多量ノ糖ノ外「チアスターゼ」ヲ含有ス。但蒸發ノ際高熱ヲ用ユルトキハ糖化力ヲ失フ。

麴ハ米ニ寄生スル絲狀菌 Aspergillus oryzae ナリ。有力ナル「チアスターゼ」ヲ含有ス。「チアスターゼ」ノ糖化力ハ酸ニ由テ著シク妨害セラル。即鹽酸量〇・〇—一%ニ達スルトキハ其作用約十分ノ一トナル。故ニ胃液ノ分泌旺盛ナルトキハ「チアスターゼ」ハ胃中ニ於テ澱粉ヲ消化スルコトヲ得ズ。

適應症ハ唾液中ニ「プチアリン」ノ缺乏セルトキ、一時澱粉性食物ヲ過食セルトキ、竝ニ澱粉性食物ノ分解「酵」ニ由テ起ル異常酸發生等ナリ。胃内遊離酸ノ最少量ナル時期、即チ食時中又ハ其直後ニ「アルカリ」劑ト伍シテ内服セシムベシ。

▲「チアスターゼ」Diastasa

帶黄白色ノ粉末ニシテ水ニ潤濁シテ一部分溶解ス。

「チアスターゼ」(糖化素)

適應症

販賣品極メテ多シ其効力一様ナラズ。本田ノ比較研究ニ據レハ「タカチアスター」及「柏木」チアスター「セ」最有効ナリ。共ニ麴ヨリ製セルモノナリ。〇・一—〇・三内用。

第三十八章 驅蟲藥 Anthelmintica

驅蟲藥ハ腸管内ニ寄生スル蠕形蟲ヲ驅除スル藥物ナリ。通常人腸ニ生活スル主要ナル寄生蟲類ハ三種ノ線蟲類有釣線蟲、巨頭線蟲及廣節裂頭線蟲並ニ蛔蟲十二指腸蟲及蟯蟲等ノ所謂圓蟲類ニ屬スルモノナリ。其中蟯蟲ハ大腸ノ最下部ニ寄生シ容易ニ機械的ニ之ヲ驅除スルヲ得ルガ故ニ(腸洗滌)多クハ特殊ノ藥物ヲ要セズ。之ニ反シ他ハ深く小腸ニ住シ且線蟲並ニ十二指腸蟲ハ一定ノ装置ニ由テ腸壁ニ附著スルガ故ニ藥物ヲ用ヒテ腸壁ヨリ離落セシムルニ非ザレバ之ヲ驅逐スルヲ得ズ。線蟲ノ如キハ瀉下藥ニ由テ蟲節ノ排出セラル、コトアルモ、頭部ハ腸壁ニ留リ再ビ其發育ヲ開始スルモノトス。

驅蟲藥ハ寄生蟲ノミニ對シ特ニ毒作用ヲ有スルニ非ズ。吸收セラルレバ亦人體ヲ中毒セシム。只其吸收緩慢ナルガ爲メニ比較的無害ナルノミ。故ニ成ルベク吸收セラレ難キ形トナシ、少量ヲ以テ驅蟲ノ目的ヲ達セザルベカラズ。故ニ通常驅蟲療法ノ豫備トシテ前日ニ二乃至三食匙ノ蓖麻子油ヲ與ヘ腸ノ内容ヲ減シ濃厚ナル藥物ヲシテ蟲體ニ作用セシムルコトヲ圖ルベシ。但從來行ハレタル絶食ハ患者ヲ衰弱セシメ却テ中毒ヲ誘發セシムルガ故ニ不可ナリ。服藥ハ翌朝空腹時又ハ少量ノ朝食ヲ攝リタル後ニ於テシ、驅蟲藥ノ同時ニ瀉下作用ヲ有セザルモノニ在テハ

服藥後一乃至二時間ニシテ瀉下藥甘汞等ヲ與フベシ。是レ腸管ヨリ離落シタル蟲體ヲ速ニ前送スルト同時ニ藥物ノ殘餘ヲ體外ニ排泄センガ爲ナリ。

綿馬

綿馬ノ成分

綿馬ハ縱蟲竝ニ十二指腸蟲ニ對シ最有効ナル驅蟲藥ナリ。其有効分ハ特殊ノ諸種無窒酸ニシテ其主ナルモノヲ綿馬酸 Acidum filicinum (Filicin) $C_{25}H_{40}O_{12}$ トナス。無晶形及結晶性ノ二種アリ。前者殊ニ有効ナリ。フロラサスビド酸 Flavospidinsäure「フロラスピド」Floraspin「アルバヌスビデン」Albaspidin「アヌスビデン」Aspidinol 等ハ共ニ結晶トシテ析出セラル。又クラフト Kräfte ニ據レバ「フィルマロン」Filmaron ナル無晶形ノ物質アリ。以上ハ共ニ牛酪酸或ハ異性牛酪酸ト「フロ、ゲルチン」 $C_6H_5(OH)_2$ 及其類似體トノ化合物ニシテ其性質互ニ相似タリ。新鮮ナル「エーテル」製越幾斯中ニハ諸有効分ハ極メテ有効ナル形態トシテ溶存スルモノ之ヲ貯藏スルトキハ漸次結晶トナリ析出シ其効力ヲ減ズ。其他一種ノ鞣酸綿馬鞣酸竝ニ多量ノ暗綠色ヲ有スル脂肪油ヲ含有ス。綿馬酸ハ筋及神経系ニ作用ス(他ノ物質モ亦大體ニ於テ同一ノ作用ヲ有ス)即チ無脊椎動物ニハ其平滑筋ヲ麻痺セシム。猫ノ蟻蟲ヲ採リ〇〇一%綿馬酸ヲ有スル弱アルカリ性食鹽水中ニ容ル、トキハ三乃至四時間ニシテ麻痺ス。是レ綿馬ガ腸中ニ於テ縱蟲ニ作用スル所以ナラン。温血動物ニハ反射機能ヲ亢進シ、先ツ筋ノ攣縮ヲ來シ、漸次強烈トナリ終ニ強直性痙攣ヲ發セシム。後中樞性運動麻痺竝ニ心臟

作用

Rhizoma Filicis
21中 Filicisäure 786

其應用

ノ麻痺ヲ來ス。剖檢ニ依リ胃腸粘膜ニ腫脹、充血及小溢血ヲ見ル。綿馬根又ハ其製劑ノ大量ヲ内服スレバ人ニ於テモ亦危險ナル中毒症狀ヲ發シ、且爲メニ死ヲ致スコト尠シトセズ。嘔氣、吐瀉、腹痛等ノ胃腸症狀ハ屢、少量ニ於テモ亦之ヲ見ルコトアリ。甚恐ル、ニ足ラズト雖モ、昏瞶、失神、痙攣等ノ神經症狀ヲ發シ、又心動衰弱トナリ、呼吸淺表トナリ、チアノーゼヲ來シ危險ニ瀕スルコトアリ。其他黃疸ヲ發シ(血球溶解ノ爲メカ)蛋白尿ヲ排泄シ、一時性弱視又ハ視神經萎縮ヲ伴フコトアリ。又永久失明ヲ來スコトアリ。是等危險ナル中毒ハ過大量ヲ内服セルトキ又ハ驅蟲不結果ニ終リ次日之ヲ反覆セルトキニ見ルヲ常トス。

綿馬ハ三種ノ縱蟲竝ニ十二指腸蟲ニ對シ應用セラル。而シテ左ノ諸點ニ注意スルトキハ概ネ危險ナル中毒ヲ免ル、ヲ得ベシ。

(一)中毒ハ屢、衰弱セル患者ニ來ル殊ニ失明ハ多ク貧血者ニ見ル。故ニ患者ノ體質、重要臟器(肝、心)ノ疾患ノ有無等ヲ精査スベシ。(二)豫備療法トシテ前日瀉下藥ヲ與フルノ外、絶食等ヲ命ジテ患者ヲ衰弱セシムベカラズ。(三)服藥前少量ノ食物ヲ攝取セシムベシ。胃ノ全ク空虚ナルトキハ吸收セラレ易キガ如シ。(四)用量多キニ過グベカラズ。天人ニ對シ綿馬越幾斯一〇〇以下(五)服藥後一乃至二時間ヲ經テ瀉下藥ヲ與フベシ。但シ經驗上蓖麻子油ハ中毒ヲ誘起スルガ如シ。是レ綿馬ノ有効分ハ水ニ溶解セザルモ油類ニ溶解スルガ故ニ其溶解吸收ヲ進ムルガ故ナラン。甘汞「センナ」浸

綿馬

芒硝又ハ硫酸「マグネシウム」等ヲ與フベシ。(六)假令驅蟲不結果ニ終ルモ翌日直チニ之ヲ反覆スベカラズ、一二週ヲ經テ之ヲ行フヲ安全ナリトス。

内服後嘔吐ヲ來スコトアリ、之ヲ防ガンニハ平臥セシメ且氷片、珈琲等ヲ與フベシ。又胃腸ノ潰瘍、高老者、妊婦等ニハ驅蟲療法ヲ行フベカラズ。

▲綿馬根 Radix Filicis

Aspidium Filix mas ノ根莖ヲ秋季ニ於テ採集シ乾燥セルモノニシテ殆ト臭氣ナク味ハ微ニ甘ク、少シク收斂性ニシテ苛辣ナリ。

三〇〇—五〇〇ヲ細末トナシ蜂蜜ヲ加ヘ舐劑トナシ驅蟲ノ目的ニ使用スルコトアルモ服用ニ不便ナルガ故ニ通常次ノ製劑ヲ用ユ。

▲綿馬越幾斯 Extractum Filicis

「エーテル」ヲ以テ製セル類綠色ノ稀薄越幾斯ニシテ水ニ溶解セズ。

驅蟲藥トシテ八〇—一〇〇ヲ膠囊ニ容レ、二三回ニ分チ一乃至一時間半内ニ内服セシム。瓶中ヨリ秤取スル際十分ニ振盪攪拌スルヲ要ス、是レ貯藏中ニ有効分ガ瓶底ニ沈降スルコトアルガ故ナリ。内服後一二時間ニシテ瀉下藥ヲ與フベシ(例ヘバ甘汞〇三)

△「フィルムロン」 Filmaron

黄色無晶形ノ粉末ニテ水ニ溶解セズ。

〇五—〇七ニクロ、フォルムニ〇又ハ十倍量ノ蓖麻子油ヲ加ヘ内用セシムルトキハ確効アリト云フ。

△綿馬酸 Acidum filicium

無色無晶形ノ粉末ナリ行ハレズ〇五—一〇内用。

「コソ」花

「コソ」花モ亦綿馬ト類似ノ化學的集成ヲ有スル(即牛酪酸ト「フロ、グルチン」屬ノ「フェニール」トノ化合物)物質ヲ含有ス。其中主要ナルヲ無晶形ノ「コソトキシ」 Kosotoxin $C_{28}H_{52}O_{10}$ トナス。該物質ハ亦綿馬酸ノ如ク下等動物ニ對シ強力ナル筋毒ナリ。神經系ニ對スル作用比較的微弱ナルガ故ニ綿馬ニ類スル中毒ヲ發スルコトアルモ危険ノ度遙ニ少シ。

▲「コソ」花 Flores Koso

Hagenia abyssinica ノ雌性華本ヲ花ノ凋萎セル後採集シ乾燥セルモノナリ。

本生藥ノ良品ニシテ新鮮ナルモノハ確効ヲ有スレドモ、近年販賣セラル、モノハ効力ノ疑ハシキモノ多ク、大ニ聲價ヲ失墜セリ。繭蟲ニ對シ大人ニハ二五〇—二五〇ニ倍量ノ蜂蜜ヲ加ヘ舐劑トナシ、又ハ之ヲ壓搾シテ錠劑トナシ、或ハ水ニ混シ一二時間中ニ内服セシム。後瀉下藥ヲ與フベシ。

「コソ」花

Flores Koso.
21中2.. Kosotoxinの多い

「カマラ」

有効分ハ「ロフトレリン」Rofflerin $C_{15}H_{16}O_2$ ト稱スル樹脂様物質ニシテ亦「フロ、グルチン」ノ誘導體ナリ。絛蟲驅除ニ使用セラル。「カマラ」ハ同時ニ瀉下作用ヲ有スルガ故ニ後療法ヲ要セズ。無臭無味ニシテ且無害ナルガ故ニ殊ニ小兒ニ賞用セラル。但近時偽品多ク聲價又昔日ノ如クナラズ。

▲「カマラ」 Kamala

*Malotus philippinensis*ノ果實ノ表皮ニ發生セル腺及毛茸ヲ採集セルモノニシテ赤色ノ粉末ナリ。

六〇—一二〇ヲ散劑又ハ舐劑トシテ二三回ニ分チ一時間内ニ内服セシム。

「ペレチエリン」

「ペレチエリン」Pelletierin $C_9H_{14}NO$ (又「プニチン」Punicin)ハ石榴皮中ニ含有セラル。「アルカロイド」ニシテ絛蟲ニ作用シ之ヲ中毒セシメ、其〇〇—一%溶液ハ迅速ニ之ヲ死ニ致ス。

石榴皮中ニハ其他多數ノ「アルカロイド」アリ中「イゾペレチエリン」ハ「ペレチエリン」ト同一ノ元素集成ヲ有シ同一ノ効アリ、又大量ノ(約二二%)石榴鞣酸ヲ含有ス。

「ペレチエリン」ハ蛙ニ對シ反射機能ヲ亢進シ強直發作ヲ來ス、又横紋筋ニ「ウエラトリン」様ノ作用ヲ呈ス。高等動物ニハ反射亢進竝ニ間腦ノ麻痺ニ因スル運動障害ヲ

來ス。人ニハ時トシテ眩暈、迷朦、弱視、搖蕩等ヲ來スコトアリ。

▲石榴皮 Cortex Granati

*Punica Granatum*ノ幹枝及根ノ皮ヲ剝離シ乾燥セルモノナリ。

石榴皮モ亦絛蟲驅除ニ使用セラル、其新鮮ナルモノハ確効アリ、煎劑トナシ内用セシム。

處方。石榴皮三〇〇—五〇〇ヲ四時間水三〇〇〇—四〇〇〇ニ浸漬シ、後煮沸シテ濾液二〇〇〇トナルニ至ル。一時間中ニ内用。一乃至三時間ヲ經テ蓖麻子油二食匙内用。

多量ノ鞣酸ヲ含有スルガ故ニ其ノ局所作用ニ由リ嘔吐ヲ發スルコトアリ。臥位ヲ取ラシメ且氷片等ヲ與フベシ。或ハ煎劑ニ石灰乳ヲ加ヘ濾過スルトキハ鞣酸分ヲ除クヲ得。

又赤痢及慢性下痢ニ用ユ(處方。石榴皮「シマルバ」皮各一〇〇、白葡萄酒七五〇〇、右一晝夜冷浸濾過ス。一日六乃至八食匙内用)

△鞣酸「ペレチエリン」 Pelletierinum tannicum

帶黃褐色無晶形ノ粉末ナリ。

〇三—〇四ニ「タンニン」酸一〇ヲ加ヘ内用。

「サントニン」

「サントニン」Santonin $C_{15}H_{16}O_2$ ハ「ミナ」花ノ有効成分ニシテ「サントニン」酸ノ無水酸「カイラ」*Santonin*「サントニン」

ナリ。

「サントニン」ハ蛔蟲ノ特效藥ナレドモ之ヲ死ニ致スコトナク而已ナラズ甚シク之ヲ中毒セシムルコトナク單ニ不快ノ感覺ヲ與ヘ小腸ニ於ケル巢窟ヨリ脱出セシムルニ止ルガ如シ。蛔蟲ハ大腸ニ生活シ得サルガ故ニ遂ニ糞便ト共ニ排泄セラレ、モノニシテ排泄後モ尚活潑ノ運動ヲ持續ス。

「シロヘーデル」Schroderニ據ルニ蛔蟲ヲ體温ニ保テル「アルカリ性食鹽水中ニ養ヒ、之ニ」サントニン「酸ナトリウム」ヲ加フルトキハ運動活潑トナリ、器壁ヨリ脱出セントスルガ如キ運動ヲ試ムルノミニシテ、長ク衰弱スルコトナシト。

人ニ來ル輕度ノ中毒現象ハ色視症 Chromatopsie ナリ、初メ先ヅ周圍ノ物體ノ紫色ヲ帶ビ後其黄色ヲ呈スルヲ見ル。紫視症ハ通常暫時ニ經過シ、患者往々之ヲ注意セザルコトアリ、黃視症 Xanthopsie ハ長ク且強クシテ白色ノ物體ハ黄色ニ、青色又ハ紫色ノ物體ハ暗色ニ感識セラル。此原因ハ恐ク紫色ヲ知覺スベキ網膜ノ機能ノ初メ亢進セラレ後麻痺セラル、ニ在ルナラン。同時ニ又嗅覺味覺ノ異常ヲ覺ユルコトアリ。

大量ノ「サントニン」ガ吸收セラル、トキハ吐瀉腹痛ノ外血尿、失神、震顫、痙攣等ヲ發ス。

内服セル「サントニン」ノ大部分ハ原形ノマ、便中ニ現ハル、モ、一部分ハ吸收セ

ラレテ酸化セラレ、主トシテ「サントゲニン」 Santogenin トナリ尿中ニ出ヅ。又内服後ノ尿ハ黄色ヲ帶ビ、之ニ「アルカリ」ヲ加フルトキハ赤色トナルコト恰モ「センナ」大黃等ヲ内服セル尿ノ如シ。而シテ此二者ハ尿ニ「エーテル」ヲ加ヘ振盪スルトキハ「サントニン」ノ著色ハ大黃等ノ著色ニ反シ「エーテル」ニ移行セズ。又其色素ハ石灰水或ハ「バリット」水ヲ加フルモ沈澱セザルニ由テ甄別スベシ。

「サントニン」中毒ニ對シテハ胃洗滌ヲ行ヒ、或ハ痙攣等ニ由リ之ヲ行ヒ難キトキハ「アポモルヒネ」ノ注射ヲナシ、且瀉下藥ヲ與ヘ、洗腸ヲ行ヒ其排泄ヲ促スベシ。痙攣ニハ「エーテル」クロロフォルム等ノ吸入ヲ試ミ、虛脱ニハ興奮藥ヲ與フ。

▲「シナ」花 Flores Chinae

Artemisia Cina ノ未開ノ小花頭ヲ採集乾燥セルモノニシテ、氣味芳香性不快ニシテ苦シ。揮發油ト約二%ノ「サントニン」ヲ含有ス

蛔蟲驅除藥トシテ〇・五—二・〇ヲ含利別又ハ蜂蜜ニ和シ内服セシメ、一日三乃至四回ニ至ル。同時ニ又ハ暫時ノ後蓖麻子油等ノ瀉下藥ヲ與フル可ナリ。但方今多クハ「サントニン」ヲ用ユ。

▲「サントニン」 Santoninum C₁₅H₁₆O₃

光澤アル無色中性ノ小葉狀結晶ニシテ光ニ觸ルレバ黄色トナル。味苦ク、五千分ノ水、四十分ノ酒精ニ溶解ス。極量一回〇・二—一〇・三。

●蛔蟲ニ對シ〇・〇二—一〇・〇五—一〇・一ヲ錠劑又ハ散劑トナシ、又ハ蓖麻子油ニ溶解

「サントニン」

シテ與フ。小兒ノ二歳乃至八歳ノモノニハ一日量〇〇六—〇一トス。空服時ニ與フルトキハ中毒ヲ起シ易シ。

▲「サントニン」錠 Pastilli Santonini

一箇中〇〇二ノ「サントニン」ヲ含有ス

以上ノ外驅蟲藥トシテ使用セラル、モノ種々アリ。

「タナセツム」花 Flores Tanacetii ハ「タナセチン」Tanacetin ナル苦味素ト揮發油トヲ含有ス。蛔蟲、蟯蟲及縲蟲ニ用ユ(〇.五—二.五)ヲ浸劑トナシ一日二回内用。蟯蟲ニ對シテハ又浸劑(一.五〇)ヲ以テ浸劑二〇〇〇トナスヲ以テ洗腸ス。有効分ハ揮發油ナラン。大量ハ有毒ナリ。痙攣ヲ發ス。

南瓜子 Semen Cucurbitae maximae ハ南瓜ノ種子ナリ、其六十乃至百個ヲ取リ子皮ヲ去リ、内用スルトキハ縲蟲驅除ノ効アリト云フ。

「テニオール」Tanioi ハ膠囊劑トナシ販賣セラル。Musenna abyssinica ノ皮ヨリ得タル有効分ト「チモール」トヲ含有ス。縲蟲、十二指腸蟲ニ使用セラル。十乃至十五個ヲ一乃至二時間中ニ内用。

其他「アレカ實」及「アレコリン」「クロ、フォルム」「チモール」等ガ驅蟲藥トシテ使用セラル、コトハ既ニ之ヲ述ベタリ。

第三十九章 疥癬藥 Antiscabiosa

Acarus scabiei ナル寄生蟲ガ皮膚内ニ産卵蕃殖シ、其刺戟ニ由テ痒感炎症ヲ來ス。是ヲ疥癬ト云フ。疥癬藥ハ其蟲體並ニ卵ヲ斃死セシムルモノナリ。

「バルサム」類

▲「ペルーバルサム」 Balsamum peruvianum

Myroxylon Peruvianae ノ皮部ヲ烘焦シテ得タル「バルサム」ナリ。暗褐色ノ液ニシテ薄層ニ於テハ澄明ナリ。香氣ハ佳快、味ハ辛辣ニシテ稍苦シ。

四〇—六〇%ノ肉桂酸ノ「ベンチール」エステル及一〇%ノ遊離セル肉桂酸並ニ樹脂ヲ含有シ多少ノ防腐作用ヲ有ス。疥癬蟲及其卵ヲ一時間以内ニ斃死セシム。而モ之ヲ塗布スルモ局部ヲ刺戟スルコト甚シカラズ。但、皮膚殊ニ表皮剝脱部ヨリ吸收セラレ時トシテ腎臟刺戟ノ症狀ヲ來スコトアリ。注意ヲ要ス。

疥癬ニ對シテハ先ツ清淨浴ヲ取ラシメ、五〇—一〇〇ヲ塗擦シ、次日之ヲ反覆シ。第三日ニ再ビ浴ヲ取ラシメ之ヲ洗除スベシ。

痒疹、落屑性濕疹等頑固ナル慢性皮膚病ニハ一〇%軟膏トナシ、痔瘡等ニハ純品ヲ塗布ス。

△「ペルゲー」 Perugen

「バルサム」類

人工的「ペルーバルサム」ナリ。帶赤褐色舍利別様ノ液ニシテ、六〇%ノ肉桂酸「エステル」ヲ含有ス。疥癬藥トシテ使用セラル。

▲流動蘇合香 *Styrax liquidus*

Liquidambar orientalis ノ内皮ヲ煎出シ壓搾シテ得タル「バルサム」ニシテ灰色粘稠ノ液ナリ、佳香ヲ有ス。

通常左ノ製劑ヲ用ユ。

▲精製流動蘇合香 *Styrax liquidus depuratus*

酒精ヲ以テ精製セル稠厚越藥斯ナリ。

肉桂酸及其「エステル」、樹脂等ヲ含有ス。疥癬ニ對シ其三〇〇ヲ等分又ハ倍量ノ「オレーフ」油又ハ亞麻仁油ヲ以テ稀釋シテ塗擦ス。襯衣ヲ汚スコト「ペルーバルサム」ニ比シ尠シ。

▲「トルーバルサム」 *Balsamum toluitanum*

Myroxylon Toluifera ヨリ得タル樹脂ナリ。帶褐色結晶性ノ塊ヲナシ、乾燥セルモノハ類黃色ノ粉末トナスヲ得。香氣甚佳、快味、芳香性ニシテ酸味ヲ帶ビ、少シク苛辣ナリ。

肉桂酸及安息香酸ノ「エステル」、「テルペン」及樹脂ヲ含有ス。弱キ防腐作用アリ。又祛痰ノ効アリト云フ。稀ニ慢性氣管支炎ニ内用スルコトアリ（〇・二—一・〇ヲ丸劑トナス）又軟膏等ノ調香料トナスコトアリ。

△「ペルスカビン」 *Peruscabin*

無色ノ結晶ニシテ、二十度ニ於テ熔融シテ油狀トナル。其二五%ノ蓖麻子油溶液ヲ「ペール」 *Pernol* ト云フ。

安息香酸ノ「ベンチール・エステル」ニシテ「ペルーバルサム」ノ主成分ナリ、又人工ニ製出セラル。疥癬藥トシテ無臭無色無刺戟ノ利アリト云フ。

用法ハ「ペルオール」ヲ三四回塗擦シ、二三日ノ後石鹼浴ヲ取ラシムルニアリ。

「ニコチン」

「ニコチン」 *Nicotin C₁₀H₁₄N₂*、*Nicotiana* 屬植物ニ含有セラル、無酸素「アルカロイド」ニシテ特異ノ臭氣ヲ有スル黄色ノ液ナリ。氣中ニ放置スルトキハ漸次褐色トナル。化學上「ピリヂン・メチール・ピロリヂン」 $C_5H_4N_2C_4H_7NOH_3$ ニシテ左旋性及右旋性ノ二種アリ。烟草中ノ天然「ニコチン」ハ左旋性ニシテ毒性猛烈ナレドモ、人工的右旋性「ニコチン」ハ毒性約其半ニ過ギズ。

「ニコチン」ハ諸多神經中樞ヲ麻痺セシメ、同時ニ末梢ニ作用ス。末梢ハ總テ植物性神經ノ經過中ニ介在スル神經節ヲ初メ興奮セシメ後麻痺セシム（ラングレー及デッケンソン *Langley u. Dickinson*）

蛙ニ「ニコチン」ヲ與ヘ其心臟ヲ觀察スルニ初メ搏動緩慢トナリ擴張期旺盛トナリ、終ニ擴張期ニ靜止スルモ其期間長クモ一二分ニ過ギズ暫時ニシテ再び搏動ヲ起シ漸次舊ニ復ス。此時逃走神經ノ刺戟ハ心動ニ影響ナキモ、靜脈竇ヲ刺戟スルカ又ハ「ムスカリン」ヲ與フルト

「ニコチン」

「ニコチン」
末梢作用

中毒症狀

キハ尚能ク擴張期ヲ強盛ナラシメ搏數ヲ減少セシムルヲ得。是レ「ニコチン」ガ迷走神經ノ纖維ト末梢機トノ間ニ在ル神經節ヲ初メ興奮セシメ後麻痺セシムルニ由ル。

眼ニ對シテモ其關係全ク同一ニシテ初メ縮瞳竝ニ調節痙攣ヲ來スモ後之ヲ麻痺セシム。腸ニ於テハ主トシテ交感神經節ニ作用シ初メ之ヲ刺戟スルモ後之ヲ麻痺セシメ從テ制止刺衝ノ缺損ニ由リ劇烈ナル運動ヲ喚起ス。アウエルバツハ氏神經叢モ亦興奮セラレ非常ノ大量ナルトキ始メテ麻痺セラレ胃運動モ亦亢進セラレ爲メニ嘔吐下痢ヲ發ス。子宮ハ猫ニ就テ之ヲ檢スルニ初メ其運動ヲ抑制シ後之ヲ催進ス。但其妊メルモノニハ初メヨリ之ヲ活潑ナラシム。

汗腺唾腺等ノ分泌ハ「ニコチン」ニ由テ著シク増大セラル。又蛙ニ於テハ運動神經ノ末梢ヲ刺戟シ纖維性痙攣ヲ發シ後之ヲ麻痺セシム。

「ニコチン」ハ其末梢作用ノ外速ニ中樞神經系ヲ麻痺セシムルガ故ニ、其中毒症狀ハ極メテ劇烈ニシテ流涎、嘔吐、冷汗、頭痛、呼吸促進、疲憊、昏瞶ニ次ギ下痢、失神、虛脱ヲ來シ、顔面蒼白トナリ、四肢厥冷シ、搖擗様痙攣ヲ發ス。大量ナルトキハ單ニ虛脱ノ症狀ヲ發スルノミニシテ數分ニシテ死ス。致命量ハ數仙瓦ノ上ニ出デザルベク、粘膜面ヨリハ勿論、皮膚ヨリモ亦吸收セラレ能ク中毒ヲ來ス。

烟草ノ作用ハ大體ニ於テ之ヲ「ニコチン」ニ歸スベシ。喫烟ニ供セラル、烟草葉ハ約〇六—六%ノ「ニコチン」ヲ含有シ、少クモ其半量ハ烟中ニ移行ス。烟草烟中ニハ其他「ピリヂン」鹽基、青酸、酸化炭素等有毒物ヲ混ズルモ、其量微少ニシテ重大ナル意義ヲ有セズ。喫烟ヲ反覆スルトキハ漸次「ニコチン」ニ習慣シ最初ノ喫烟ニ由テ輕度ノ虚脱ヲ來シタルモノ、後ニハ寧ろ快

感ヲ覺ユルニ至ル。然レドモ多量ノ喫烟ヲ持續スルトキハ遂ニ慢性中毒ヲ誘起ス。其症候ハ咽頭胃等ニ來ル直接「ニコチン」ノ慢性局所刺戟ニ因スル障害ノ外、心悸亢進、脈搏不整若クハ結代、不眠症、神經過敏等ノ發揚狀態視覺障害殊ニ兩側性中央視野缺損等ヲ以テ主トナス。但シ禁烟ニ由テ諸症全ク消失スルヲ常トス。

烟草葉ハ瀉下藥トシテ之ヲ浸劑トナシ(〇五ヲ浸劑一五〇〇トナス)浣腸スルコトアルモ危險ナル中毒ヲ惹起スルコトアルガ故ニ行ハレズ。方今其製劑ヲ疥癬竝ニ一般癢癢ニ對シ外用スルノミ。然レドモ是亦絕對ニ危險ナシト云フヲ得ズ。

△「ニコチアナ石鹼」 Nicotianaseife

五%ノ烟草越幾斯五%ノ沈降硫黃ヲ含有スル石鹼ニシテ暗褐色ヲ有シ、少シク「ベルガモット」油ノ香氣ヲ帶ブ。

疥癬其他癩風寄生性濕疹、痒疹等一般ニ癢癢ヲ伴フ皮膚病患ニ對シ、一日一回臨臥之ヲ塗布シ其泡沫ヲ乾燥セシムルトキハ三四日ニシテ諸症減退スベシ。有効ナレドモ中毒ヲ來スコトアリ、小兒ニ用ユベカラズ。

△「オイデルモール」(「サリチール」酸「ニコチン」) Eudermol (Nicotinum salicylicum)

無色透明ノ結晶ニシテ水ニ溶解シ刺戟性ノ味ヲ帶ブ。

疥癬ニ對シ有効殊ニ鎮痒作用強ク刺戟性ナク、腎臟ヲ刺戟セズ、而モ約二回ノ塗布(〇一%軟膏)ニ由テ多クハ全治ス。又急性慢性濕疹ニモ費用セラル。〇一%ノ「トラウマチチン」溶液トナシ鬚、瘡、慢性苔癬寄生性、匍行疹ニ有効ナリ。但シ時トシテ輕度

「ニコチン」

ノ中毒ヲ來スナキヲ保セズ。

△「オイドメントール」Endomentol

「オイデルモール」ノ〇・一％軟膏ナリ。

第四十章 特殊消毒藥 Desinficientia specifica

一般消毒藥及
特殊消毒藥

特殊消毒藥ハ一定ノ微生體ニ因テ發スル疾患ニ對シ、其病原體ヲ撲滅センガ爲メニ使用セラル、藥物ナリ。

前篇ニ於テ論ジタル一般消毒藥ハ總テノ微生體竝ニ組織細胞ニ對シ、其種類ヲ論ゼズ之ニ作用スルガ故ニ、微生體ガ深部組織内ニ發育セルトキ之ニ對シ有効ナル濃度ニ於テ之ヲ使用セントセバ、先ツ鋭敏ナル組織細胞ニ作用シテ直接ニ危害ヲ人體ニ及ボスベキナリ、然レドモ是等微生體竝ニ組織ノ細胞ノ抵抗力ヲ精査セシカ、各防腐藥ニ對スル鋭敏度ハ細胞ノ種類ニ由リ差異アルヲ知ルベシ、而シテ組織細胞ニ對シテハ比較的無害ニシテ一定ノ細菌ニ對シ劇毒ナル藥物アリトセバ、以テ組織内ノ細菌ヲ撲滅シ所謂體内消毒ノ目的ヲ達スルヲ得ベシ、而シテ吾人ハ一定度マデ斯ノ如キ性質ノ藥物ヲ有ス、即特殊消毒藥是ナリ。

故ニ特殊消毒藥ハ其作用敢テ一般防腐藥ト異ル所ナキモ、或ハ其微生體ニ對スル親和力即チ趨向性遙ニ組織細胞ニ對スルヨリモ大ナルカ、或ハ無毒ノ形ニ於テ體内ヲ循環シ細菌發育ノ場所ニ到リ始メテ消毒力ヲ取ルカニ由テ、特ニ病原體ニノミ作用スルモノトス。

近時エーリッヒ Eulichニ由リ唱道セラレタル所謂化學療法 Chemotherapieノ目的ハ病原

體ニ對シ強大ナル親和力ヲ有スル物質ノ發見ヲ主眼トス。從來吾人ノ有スル特殊消毒藥ハ悉ク經驗ニ由テ發見セラレタルモノナルガ。エールリッヒハ多數ノ砒素化合物ヲ製シ有意的ニ強キ病原趨向性ヲ有スル物質ヲ發見スルニ至レリ。是レ實ニ治療血清ト共ニ原因療法上ノ發見ノ双璧ナリ。

一 「キニーネ」

「キニーネ」ハ麻刺利亞病ニ對スル特效藥ナリ。

「マラリア」ハ血中ニ寄生スル一種ノ「アメーバ」様微生物即チ所謂「マラリアプラズモヂウム」(Malariplasmodium)ニ由テ惹起セル、疾病ナリ。プラズモヂウムノ芽胞ガ蚊ノ穿刺ニ由テ人體ニ入ルヤ、赤血球内ニ浸入シテ漸次生熟シ、其種類ニ由リ一日、二日或ハ三日等ノ後自ラ破壊シテ多數ノ芽胞トナリ一時血液中ニ浮遊シ、更ニ再ビ血球中ニ入り其發育ヲ反覆ス、而シテ其破壊スル際毒素ト共ニ溫熱中樞ニ作用シ體温ヲ亢進セシムベキ物質ヲ血中ニ澱グガ故ニ、特異間歇性ノ熱型ヲ與フ。熱發作ノ期間ノ相違ニ由リ毎日熱三日熱四日熱等ヲ區別ス。但惡性「マラリア」ニ在リテハ、芽胞形成組織細胞内ニ行ハレ血中ニ出遊セズ。又定型的熱發作ナク發作性神經痛頭痛等ヲ來スモノアリ。假面「マラリア」ト稱セルハ、モノ是ナリ。

「マラリア」ニ對シ普通ノ解熱藥ヲ與フルトキハ、一回ノ熱發作ヲ抑遏スルモ全經過ニ影響セズ。之ニ反シ「キニーネ」ヲ適當ニ使用スルトキハ永久ニ治療ス。是レ「キニーネ」ガ體中ニ於テ「プラズモヂウム」ヲ撲滅スルニ由ル。

「キニーネ」(「キノイン」) Chinin ハ「キナ」酸及「キナ」鞣酸鹽トシテ含有セララル「アルカロイド」ニシテ、化學上「キノリン」誘導體ニ屬シ、 $C_{19}H_{19}NO_6$ ナル集成ヲ有ス。

「キナ」反ハ約二十種ノ「アルカロイド」ヲ含有シ、其全量五—一〇%ニ達ス然レドモ其主要ナルモノハ「キニーネ」ニシテ「キノヂン」(Quinidin)、「キノロン」(Cinchonin)、「キノニヂン」(Quinob-nidin)ノ如キ、一時「キニーネ」ノ代用藥トシテ使用セラレタルモ今ヤ殆ド廢棄セラレタリ。其他約二%ノ「キノヴィン」(Quinovin)ナル苦味素ヲ含有ス。

「キニーネ」ハ原形質毒ナリ

「キニーネ」ハ所謂原形質毒 Protofasmagite ナリ所要ノ濃度ニ於テ總ノ細胞ヲ撲殺ス。即チ細胞ノ種類及機能ノ如何ヲ問ハズ一様ニ之ニ作用シ、直接粗大ナル變化ヲ來スコトナクシテ其生活ヲ奪フ。此點ニ於テ「キニーネ」ハ他ノ多數「アルカロイド」ト全ク其趣ヲ異ニス。

多數ノ「アルカロイド」ハ細胞ノ特異機能ニ作用ス、故ニ少量ニ於テ知覺運動分泌等ノ機能ニ變化ヲ來スモ、細胞ノ生活ニ對シテハ多ク影響セズ。從テ特殊機能ヲ有セザル細胞並ニ微生物ノ如キハ是等ノ濃厚液ニ逢フモ認ムベキ變化ヲ示スコトナシ。「キニーネ」ハ之ニ反シ細胞ノ生活自己ニ對シ作用スルモノニシテ、即チ其攻撃體ハ生活セル原形質ニ共通ナル分解酸化集成機轉換言スレバ生活保續ニ必要ナル新陳代謝機轉ニ在リ。故ニ「キニーネ」ハ全組織細胞ニ對シ甚シク異ラザル親和力ヲ有ス從テ動物ハ其比較的大量ニ耐ユ。又其中毒ニ際シテ神經的症候ヲ發スルモ特ニ擡デタル障害ヲ來スコトナク、且同時ニ全新陳代謝ニ著キ變化ヲ喚起ス。

「キニーネ」ハ諸種細胞中、原形質ニ富ミ新陳代謝ノ旺盛ナルモノニ殊ニ強ク作用ス。微生物ニ就テ之ヲ觀ルニ滴蟲、淡水「アメーバ」ノ類最鋭敏ニシテ、〇・〇五—〇・一%溶液中ニ於テハ殆ド瞬時ニ、〇・〇〇五%ニテモ二三時間中ニ死ス。「マラリア」プラズ

「キニーネ」

モデウムモ亦「キニーネ」ノ稀薄液ニ由テ撲滅セラル之ニ反シ多數ノ分裂菌ハ〇・二
—〇・三%ニテ其蕃殖ヲ防遏セラル、ノミ、再歸熱螺旋菌ハ〇・五%、絲狀菌ハ非常ノ
濃厚液ニ非ズンバ影響ヲ蒙ラズ。

高等動物ノ細胞ノ「キニーネ」ニ對スル反應モ亦強弱アリ、其最銳敏ナルヲ白血球
トナス、〇・〇〇五%液中ニ於テ既ニ著シキ麻痺狀態ヲ示シ、アメーバ様運動ヲ停止
ス。蛙ニ「キニーネ」ヲ注射スルトキハ鏡檢的ニ白血球ノ血管壁ヲ通過シテ進出スル
性質ノ消失スルヲ見ルベク、人ニ大量ヲ與フルトキハ著シク血中ノ白血球數ヲ減
ズ、故ニ「キニーネ」ハ化膿機轉ニ對シ之ヲ抑制スルノ効アルベシ。

「キニーネ」ノ細胞ニ對スル作用ヲ精査スルトキハ、上記ノ外著ク細胞ノ有スル化
學的作用即チ「エンチーム」作用ニ影響スルヲ見ルベシ、彼ノ瘡瘡木反應長ク氣中ニ
貯藏セル「テルペンチン」油ト瘡瘡木丁幾トニ一滴ノ血液ヲ加フルトキハ瞬時ニ青
色ヲ呈ス、是レ血球ノ「エンチーム」作用ニ由リ「テルペンチン」油中ノ過酸化物ヨリ酸
素ヲ遊離シ、瘡瘡木丁幾ヲ酸化セシムルニ由ルハ少量ノ「キニーネ」ニ由テ防遏セラ
レ、安息香酸ト「グリコロール」ヲ含有スル血液ヲ以テ腎臟ヲ灌流スルモ少量ノ「キニー
ネ」ヲ加フルトキハ尿酸ヲ發成セザルガ如キ即是ナリ、但シ細胞外「エンチーム」例
ヘバ「ペプシン」消化等ニ對シテハ其影響他ノ「アルカロイド」ト異ル所ナシ(藤谷)
即チ「キニーネ」ハ細胞内ノ「エンチーム」ニ作用シ集成、酸化及分解ヲ抑制シ細胞ノ

「キニーネ」ハ
細胞内「エン
チーム」ノ作
用ヲ抑制ス

異化竝ニ同化機轉ヲ緩慢ナラシムルモノナリ、是ガ爲メ殊ニ蛋白質ノ分解制減セ
ラル、ガ故ニ「キニーネ」服用後ハ著ク尿中ノ窒素竝ニ食鹽、硫酸、磷酸ノ量ヲ減ズ、該
蛋白質節約ハ主トシテ「キニーネ」ガ強壯藥「Tonium」トシテ使用セラル、所以ナリ、然
レドモ同時ニ同化機轉モ緩慢トナルガ故ニ、發育ヲ催進シ組織ヲ復生セシムル等
細胞生活機轉ヲ増進スルコトナシ。

筋作用

「キニーネ」ノ細胞作用ハ又筋及神經細胞ノ機能ニ影響ス、適量ノ「キニーネ」ヲ以テ中毒シタ
ル蛙ノ筋ハ初メ其興奮性絶對力竝ニ最大作藥ヲ増スモ是單ニ一時ノ現象ニシテ容易ニ疲
勞狀態ニ陥リ、速ニ其興奮性ヲ失フ、其初期ニ一時機能ヲ亢進スルハ恐ラク異化機轉ノ抑制
ニ由テ來ルモノナラン。

心筋モ亦同一ノ關係ヲ示シ少量ハ脈轉ヲ速ニシ血壓ヲ上騰セシムルモ、大量ハ之ニ反ス、
蛙ニテハ心筋ノ伸張性増大シ竝ニ搏動ノ著シク減少スルヲ見ル、同時ニ自動中樞モ亦多少
麻痺セラル、ガ如シ、滑平筋ニ對シテハ脾臟、子宮等ガ「キニーネ」ニ由テ收縮スルヲ見ル。

中樞作用

中樞神經系ニハ先ヅ知覺、聽覺、視聽障害、思想失調、意識不明ヲ來シ、眩暈、頭痛、耳鳴等ヲ訴ヘ
シム、「キニーネ」醃酏ト稱セラル、モノ是ナリ、大量ハ昏睡、稀ニハ搐搦ヲ發シ心臟衰弱ト相俟
テ虚脱ノ症狀ヲ來ス。

解熱作用

「キニーネ」ハ解熱作用ヲ有シ、之ヲ熱性患者ニ與フルトキハ多クハ著シキ體溫下
降ヲ來ス、此作用モ亦主トシテ細胞新陳代謝ノ抑制ニ因スル溫熱發生ノ減退ニ基
クモノナリ、溫熱輸出ハ初期ニ於テ溫熱調節中樞ノ犯サレザル間ハ却テ減少ス、無
熱者ニ在リテハ該中樞容易ニ麻痺セラレザルガ故ニ、溫熱發生ノ減退スルヤ溫熱

「キニーネ」

發散調節的ニ減少セララルルガ故ニ體溫ハ下降スルコトナク、時トシテ調節過度ノ結果寧ロ多少上騰スルヲ見ルコトアリ。熱性患者ニテハ然ラズ、該中樞モ亦「キニーネ」ニ因テ鎮靜セラル、ガ故ニ溫熱發生ノ減退ハ調節セラル、コトナク爲メニ體溫ノ下降ヲ來ス。

局所作用

局所作用トシテ「キニーネ」ハ劇烈ナル苦味ヲ有シ、一萬倍ノ溶液ニ於テモ尙之ヲ覺ヘシム。濃厚ナル「キニーネ」液ト長ク觸接スルトキハ細胞ハ爲メハ侵襲セラル。故ニ其大量ノ内用ヲ持長スルトキハ胃加答兒ノ症狀トシテ胃部壓痛、嘔氣及吐ヲ發ス。皮下注射後其吸收緩慢ナルトキハ腫瘍ヲ發生ス。

副作用

副作用トシテ大量ハ前記「キニーネ」酪酐ノ症狀ヲ來ス。重聽及弱視ハ時トシテ一定時持續スルコトアリ。特異質ノモノニハ赤斑濕疹、限局性浮腫、皮下溢血、甚シキ瘙癢等ヲ發ス。又反對作用トシテ却テ體溫ヲ上昇セシムルコトアリ。非常ノ大量ハ昏朦、虛脫ヲ來ス。致死量ハ通常約八〇—一〇〇ナラン。

分解及排泄

消化管又ハ皮下ヨリ吸收セラレタル「キニーネ」約七五%ハ體中ニ於テ分解セラレ、爾餘ハ原形ノマ、尿中ニ出現ス。排泄ハ約二晝夜ニテ終結ス。「キニーネ」尿ハ「クロール」水ト「アムモニア」ヲ加フレバ綠色ヲ呈ス。

應用

「キニーネ」ハ諸多ノ病症ニ應用セラルル而シテ其最主要ナルヲ麻刺利亞トナス。人體ノ耐ヘ得ル量ニ於テ能ク血中ノ「プラスモデウム」ヲ撲滅シ、管ニ發熱ヲ抑制スル

ノミナラズ腫大セル脾肝ヲ縮少シ疾病ヲ永久ニ治癒セシム。「マラリア」プラスモデウム中三日熱ノ病原體最銳敏ニシテ、四日熱ノモノハ多少抵抗力ヲ有シ、惡性ノモノニ至テハ最撲滅セラレ難シ。一般ニ「プラスモデウム」ハ遊離シテ血液中ニ存在スルモノ最「キニーネ」ニ感シ易ク、血球中ニ入り細胞原形質ニ由テ圍繞セラル、モノハ之ニ反ス。故ニ「キニーネ」ヲ有効ニ使用セントセバ「プラスモデウム」ガ血球内ニ發育シ、破壊シテ其幼胞ヲ血液中ニ澱グ時ニ、恰モ「キニーネ」ガ血液中ニ存在スルヲ要ス。熱發作ノ前五乃至八時間ニ「キニーネ」ヲ内服セシムルトキハ能ク此目的ヲ達ス、發熱期等ニ之ヲ與フルモ全ク無効ナリ。

惡性「マラリア」ノ「プラスモデウム」ハ組織細胞中ニ其芽胞ヲ形成スルガ故ニ「キニーネ」ハ多クハ無効ナリ。而已ナラズ之ニ「キニーネ」ヲ濫用スルトキハ血尿、血便ヲ發ス。彼ノ黒水熱ト稱セラル、モノハ一種「キニーネ」濫用ノ中毒症ナラント唱フル論者アリ。

「キニーネ」ハ「マラリア」ノ病原ニ作用スルガ故ニ熱發作ヲ有スル定型的病形ニ有効ナルノミナラズ同一病因ヲ有スル發作性頭痛、神經痛等所謂假面「マラリア」ニモ奏効ス。又「キニーネ」ノ少量ヲ分服スルトキハ豫防ノ効アリ。「マラリア」地方ニ於テ其病原ヲ受クルコトアルモ之ニ感染セズ。

單純解熱藥トシテ「キニーネ」ハ到底「アンチピリン」等主トシテ溫熱中樞ニ作用ス

「キニーネ」

ルモノニ及バズ唯熱發ノ原因體質ノ異常分解ニ在ルモノ、又ハ少クモ熱發ト共ニ異常分解ノ行ハル、モノ即チ膿毒症、敗血症等ニ對シテハ理論上、キニーネヲ以テ優レリトス。腸窒扶斯、インフルエンツァ等ニ對シテハ多少其病原ニ影響スルナラント信ズル論者アルモ、疑ハシ。從テ是等熱性諸病ニハ單ニ解熱作用ヲ呈スルノミ、一般ニキニーネノ解熱作用ハ緩和ニシテ三乃至四時間中ニ下降シ、六乃至九時間持續シ、後徐々ニ上騰ス。

「マラリア性ニ非ザル神經痛、頭痛ニハ」アンチピリン類ニ及バザルモ奏効スルコトアリ。是レ「キニーネ」ガ大脳皮質知覺帶ノ機能ヲ低下セシムルニ因ルカ。

強壯藥トシテ諸多疾患後ノ衰弱貧血、食慾缺乏等ニ使用セラル。思フニ苦味藥トシテノ消化系ニ對スル作用竝ニ蛋白質ノ節約等相俟テ奏効スルモノナラン。此際ハ通常「キニーネ」以外ノ苦味素ヲ含有スル「キナ」皮及其製劑ヲ用ユ。

白血病ニハ「マラリア」性ノモノニ對シ有効ナリ。メニエール氏病モ亦往々良好ニ影響セラル。又百日咳ニモ費用セラル。但其理由不明ナリ。

「アモニーバ」性下痢竝ニ化膿症例ヘバ氣管ノ化膿性加答兒等ニ對シテハ理論上之ヲ使用スル理由アリ。陣痛微弱ニ對シテモ亦然リ。

▲鹽酸「キニーネ」Chininum hydrochloricum $C_{20}H_{27}NO_2 \cdot HCl + 2H_2O$

白色錠狀ノ結晶ニシテ味甚ダ苦ク、三分ノ酒精竝ニ三十四分ノ水ニ溶解ス。其水溶液ハ無

色中性ニシテ、螢石彩ヲ現ハサズ。

「マラリア」ニ對シ普通無熱時ニ〇・五ヲ一日二乃至三回内服セシメ、發作豫定時ノ五乃至八時間前ニ一〇（一・五）ヲ與フ。其後少量ヲ反覆スルトキハ縦ヘ一回ニテ全治セザルモノモ、終ニ全ク平復ス。毎日熱三日熱、四日熱等定型的熱發作ヲ來スモノ竝ニ熱發作ナクシテ間歇性神經痛等アル假面「マラリア」ニ最有効ナリ。惡性「マラリア」ニハ大量一日三四回、一〇ヅ、ヲ要ス。而モ黒水熱ヲ發スル危險アリ。一般ニ惡性「マラリア」竝ニ「マラリア」惡液質ニ對シテハ其効確實ナラズ。亞砒酸、メチレン、青等ヲ要スルコトアリ。

近時「マラリア」療法ニ「キニーネ」ノ分服ヲ費用ス。即チ一日量鹽酸「キニーネ」一〇ヲ五乃至十回ニ分服セシム。確實ニシテ且副作用少シト云フ。一回〇・五ハ既ニ輕症ノ副作用ヲ來シ得。不定型ノモノニ對シテハ勿論此法ヲ採ルベシ。

小兒ニ對シテハ一歲以下ハ月數ニ應ズル仙瓦、一歲以上ハ年齡ニ適スル「デシ」瓦ヲ用ユ。大人ニハ「オブラート」ニ包ミ、小兒ニハ糖ヲ加ヘ水劑又ハ散劑トナシ與フ。然レドモ劇烈ナル苦味ハ調味藥ニ由テ矯正セラル、コトナシ。故ニ皮下注射又ハ洗腸ヲ要スルコトアリ。

皮下注射ハ内服ノ半量ニテ同効アリト云フ。アンチピリン又ハ「ウレター」ンヲ加ヘテ其溶解性ヲ増大セシムベシ。例ヘバ

「キニーネ」

處方 鹽酸キニーネ $\text{C}_{20}\text{H}_{33}\text{N}_2\text{O}_2$ ウレタイン $\text{C}_{10}\text{H}_{17}\text{NO}$ 水 H_2O
處方 鹽酸キニーネ $\text{C}_{20}\text{H}_{33}\text{N}_2\text{O}_2$ アンチピリン $\text{C}_{11}\text{H}_{13}\text{NO}$ 水 H_2O

又ハ水「グリセリン」ノ等分液ニ溫溶ス。吸收ヲ迅速ナラシメンガ爲メ之ヲ三十八度ニ加温シテ注射シ、溫濕布ヲ以テ其部ヲ蔽フベシ。皮下注射ハ殊ニ重症「マラリア」ニ使用セラル。

洗腸ハ阿片丁幾又ハ「コカイン」ヲ加ヘ不快ナル便意ヲ防グベシ。
豫防ニハ通常〇五—一〇ヲ隔日ニ内服セシムレバ足レリ。

其他敗血病ニハ〇五—一〇—二〇ノ内服ヲ試ミ、腸窒扶斯ニハ隔晩一〇—一五ヲ内服セシム。百日咳ニハ内服ノ外塗布又ハ吸入ヲ試ミ「アメーバ」赤痢ニハ内服又ハ洗腸セシム。陣痛微弱子宮出血、メニエール氏病、白血病等ニ對シ又ハ一般解熱藥又ハ鎮痛藥トシテ内服セシム。産褥熱、急性肺炎等ニハ注射ヲ試ムルコトアリ。

▲硫酸「キニーネ」 *Chininum sulfuricum* ($\text{C}_{20}\text{H}_{33}\text{N}_2\text{O}_2$), $\text{H}_2\text{SO}_4 + 3\text{H}_2\text{O}$

白色鉞狀ノ結晶ニシテ味甚ダ苦ク、約八百分ノ水ニ溶解ス。

凡ソ鹽酸鹽ノ如シ、行ハレズ。

▲硫酸「キニーネ」丸 *Pilulae Chinini sulfurici*

一箇中〇一ノ硫酸「キニーネ」ヲ含有ス

▲「タンニン」酸「キニーネ」 *Chininum tannicum*

帶黄白色無臭無晶形ノ粉末ニシテ、極メテ微弱ノ苦味竝ニ澁味ヲ有シ、水ニ僅微ニ溶解ス。特色ハ苦味ノ少キニアリ。然レドモ作用弱ク、鹽酸「キニーネ」ノ倍量ヲ與フルモ尙之ニ加カズ、故ニ小兒ニ使用セラル、ノミ、近時苦味微弱ナル新藥製出セラル、ニ至リ、必要ヲ減ゼリ。

▲重硫酸「キニーネ」 *Chininum bisulfuricum* $\text{C}_{20}\text{H}_{33}\text{N}_2\text{O}_2 \cdot \text{H}_2\text{SO}_4 + 7\text{H}_2\text{O}$

光輝アル無色稜柱狀ノ結晶ニシテ、氣中ニ於テ風化シ光ニ觸ルレバ黄色トナリ、味甚ダ苦ク、十一分ノ水ニ溶解シ、酸性ノ反應ヲ微シ、藍色ノ螢石彩ヲ現ハス。

△重鹽酸「キニーネ」 *Chininum bihydrochloricum*

〇七分ノ水ニ溶解ス。

△重鹽酸「キニーネ」尿素 *Chininum bihydrochloricum carbanidatum*

同量ノ水ニ溶解ス。

以上三藥ハ水ニ溶解シ易キガ故ニ皮下注射用ニ供セラル。

▲「エチール炭酸」キニーネ「オイヒニン」 *Chininum aethylcarbonicum* (Euchinin)



「キニーネ」ノ炭酸エチールエステルナリ、無色ノ鉞狀結晶ニシテ、水ニ溶解シ難ク、苦味アレドモ微弱ナリ。

「キニーネ」ト全ク同効ニシテ、苦味少キノ利アリ。故ニ殊ニ小兒ニ適シ、百日咳ニ賞

「キニーネ」

用セラル、副作用モ亦極メテ稀ナリ。又「キニーネ」ニ對シテ、特異質ヲ有スル患者ニ適ス、良代用藥タリ。用量鹽酸「キニーネ」ノ如シ、但「マラリア」ニ對シテハ其約一倍半ヲ用ユベシ。

△「アリストヒン」 Aristochin $CO(C_{20}H_{25}NO)_2$

「キニーネ」ノ炭酸エステルニシテ無色無味ノ結晶ナリ、水ニ溶解セズ。

「オイヒニン」ト同効ナリ。用量又同ジ。殊ニ百日咳ニ對シテ非常ニ賞用セラル。乳兒ハ生後月數ニ適スル仙瓦、一歳以上ハ之ニ應ジ増量シ、一日三回内服セシメ、輕快スレバ半量ヲ與フ。病候ノ輕快スルノミナラズ全經過ヲ短縮スト云フ。其奏効ノ確實ナルコト本藥ヲ以テ百日咳ト單純氣管支加答兒トヲ鑑別シ得ベシト云フモノアルニ至ル。蓋シ後者ハ本藥ニ由テ、毫モ影響セラル、コトナキガ故ナリ。

▲枸橼酸鐵「キニーネ」 Quinnum ferro-citricum

光澤アル透映暗赤褐色ノ小葉片ニシテ、其味苦ク鐵味ヲ帶ビ、水ニ徐々ニ全溶ス。強壯藥トシテ快復期、貧血患者等ニ與フ(用量〇・二—〇・五、一日三回内用)。

△「サロヒニン」 Salochinin

「キニーネ」ノ「サリチール」酸エステルナリ、無色無味ノ結晶ニシテ水ニ溶解セズ。

吸收緩漫ナルガ故ニ「マラリア」ニ適セズ。其他ノ應用ハ「キニーネ」ノ如シ。用量ハ「キニーネ」ノ約二倍トス。内服後多量ノ水ニ鹽酸ヲ加ヘ與フルトキハ多少其吸收ヲ速

ニス。

△「キナフニン」 Chinaphenin

「キニーネ」ト「フェネチデン」ノ化合物ナリ、無色無味ノ粉末ニシテ水ニ溶解シ難シ。

解熱藥トシテ「キニーネ」ト「フェナセチン」ノ中間ニ位ス。又「マラリア」ニ有効ナリ(一・五—二・〇内用)神經痛、百日咳ニモ賞用セラル。用量大人〇・五—一・〇、小兒〇・一—〇・三(一日三回)。

△「ブロモヒナール」 Bromochhal

「チプロローム」サリチール「酸」キニーネナリ、類黄色ノ結晶ニシテ水ニ溶解シ難シ。

腸チフス、肺炎等ノ患者ニ一日二回、〇・六—〇・七五ヅ、ヲ内服セシム。解熱、催眠ノ効アリト云フ。

△「キナフトール」 Chinaphol

「ナフトール」モノスル「フェン」酸キニーネナリ、黄色ノ結晶ニシテ苦味アリ、冷水ニ溶解セズ。

解熱藥ト防痼藥ノ結合セルモノニシテ、腸ニ至リ始メテ「ナフトール」ズル「フェン」酸及「キニーネ」ニ分解ス。腸チフス、腸結核、赤痢等ニ試ラル(〇・五ヲ一日數回内用)。

△亞砒酸「キニーネ」 Chinum arsenicosum $3(C_{20}H_{25}NO)_2H_3AsO_3 + H_2O$

光輝アル無色鱗狀ノ結晶ニシテ水ニ溶解シ難シ。

「キニーネ」ト亞砒酸ノ効ヲ兼ヌ、惡性「マラリア」等ニ對シ一日量〇・〇一—〇・〇二ヲ

「キニーネ」

内服セシム。

△「サリチール酸」キニーネ *Chininum salicylicum* $C_6H_4N_2O_6H_4OHCOOH + H_2O$

無色ノ結晶ニシテ二百三十分ノ水ニ溶解ス。

△「アセチールサリチール酸」キニーネ *Chininum acetylsalicylicum*

$C_{10}H_{11}NO_6H_4O_2CH_3CO_2COOH$

無色ノ結晶ニシテ苦味ヲ有ス。

共ニ解熱鎮痛等ノ目的ニ〇・二—〇五ヲ一日數回内服セシム。

以下掲グル生藥及其製劑ハ「キニーネ」及其他ノ「キナアルカイド」ノ外「ビノヴィン」ナル苦味素竝ニ「キナ鞣酸」ヲ含有スルガ故ニ苦味藥トシテ健胃ノ効アリ。又多少收斂性ニシテ消化器ノ加答兒ニ作用ス。同時ニ蛋白ヲ節約スルガ故ニ健胃強壯藥トシテ諸種急性慢性疾患ノ快復期ニ於ケル衰弱貧血、食慾缺乏等ニ使用セラル。但シ大量ヲ持長スルトキハ却テ「キニーネ」ノ局處作用トシテ胃ヲ害スルコトアリ

▲「キナ皮」 *Cortex Chinae*

Cinchona 屬殊ニ *Cinchona succirubra* ノ幹及枝ノ皮ヲ採集乾燥セルモノナリ。

〇五—一〇ヲ通常煎劑トナシ一日數回内服。

處方 「キナ煎」一〇〇—二〇〇—七〇〇。稀鹽酸一〇。單舍利別三〇〇。一食匙宛一日數回内服。

▲「キナ越幾斯」 *Extractum Chinae*

稀酒精ヲ以テ製セル乾燥越幾斯ナリ。赤褐色ニシテ水ニ濁濁シテ溶解ス。

〇五—一〇ヲ一日數回丸又ハ散劑トシ内用。

▲「キナ流動越幾斯」 *Extractum Chinae fluidum*

帶赤暗褐色ノ液ニシテ味甚ダ苦ク收斂性ナリ。

十乃至二十滴、一日數回、葡萄酒又ハ舍利別水ニ和シ内用。

▲「キナ丁幾」 *Tinctura Chinae*

五分ノ稀酒精ヲ以テ製セル赤褐色ノ丁幾ニシテ強苦味ヲ有ス。

一〇—二三〇ヲ一日數回、水劑トナシ内用。

▲複方「キナ丁幾」 *Tinctura Chinae composita*

「キナ」皮六分、橙皮「ゲンチア」皮、桂皮各二分、稀酒精五十分ヲ取り製ス。赤褐色ノ液ニシテ芳香ヲ有シ味甚ダ苦シ。

二〇—五〇ヲ一日三回、食前内服。

▲「キナ酒」 *Vinum Chinae*

「セリ」酒ヲ以テ製セル赤褐色ノ液ニシテ佳快ノ苦味ヲ有ス。一日三回一食匙宛食前内服。食慾増進ノ効アリ。

二 「サリチール」酸劑

「サリチール」酸劑ハ痲質斯殊ニ急性多關節炎ニ對シテ使用セラル。

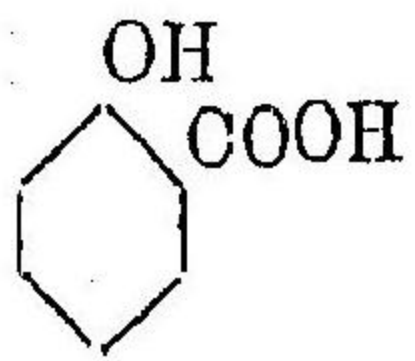
「サリチール」酸劑

急性關節「ロイマチス」ノ原因ハ不明ナルモ、一定ノ寄生物ニ由テ惹起セラル、モノニシテ、恐ク其病原ハ原蟲ニ非ズシテ、葡萄狀菌又ハ連鎖菌ニ類スル細菌ナラン。「サリチール」酸ハ一般消毒藥トシテ該病原ヲ撲滅ス。而シテ何ガ故ニ組織細胞ニ無害ニシテ特ニ「ロイマチス」病原ニ對シテノミ作用スルカハ、恐ク比較的無害ナル「ナトリウム」鹽ノ形ニ於テ體內ヲ循環シ細菌發育ノ場所ニ至リ始メテ有効ナル状態ニ變ズルニ因ルモノナラン。

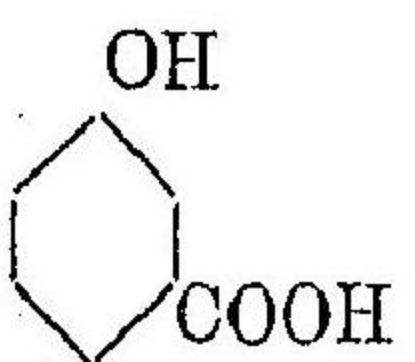
「サリチール」酸ハ「オルト」酸化安息香酸 $C_6H_4(OH)COOH$ ナリ。化合物上同時ニ「フェノール」ト芳香酸トニ屬シ兩者ノ性質ヲ兼ヌ。

酸化安息香酸ニハ三ノ異性體アリ。「オルト」「メタ」及「パラ」酸化安息香酸是ナリ。

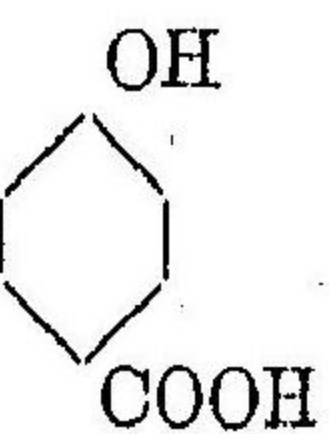
「オルト」酸化安息香酸



「メタ」酸化安息香酸



「パラ」酸化安息香酸



「メタ」及「バラ」ハ全ク生理的作用ヲ有セズ。「オルト」化合物即「サリチール」酸獨リ貴重ナル藥物トシテ、辟價ヲ專ニス。他ノ芳香酸例ヘバ安息香酸ノ如キモ、只極メテ微細ナル類似作用ヲ有スルノミ。

遊離セル「サリチール」酸ハ脂樣質ニ溶解ス、故ニ生活セル細胞中ニ侵入シ之ヲ害

「サリチール」酸ノ防腐作用

局所作用

毒ス。其防腐力ハ石炭酸ト伯仲シ、千五百倍ノ稀釋度ニ於テ脾脫疽菌ノ發育ヲ制止シ、千倍ニ於テ絲狀菌ノ發育ヲ抑制ス。唯石炭酸ハ揮發性ニシテ「サリチール」酸ハ固體ナルガ故ニ使用ノ目的ヲ異ニスルノミ。

從テ遊離「サリチール」酸ハ局所作用ヲ有シ、濃厚液ハ粘膜ヲ腐蝕シ、稀薄液モ亦多少之ヲ刺戟ス。故ニ其内服ハ胃窩ノ不快感、壓痛、嘔氣、稀ニハ嘔吐ヲ發ス。皮膚ニ酒精溶液又ハ軟膏等トナシ貼布スレバ、徐々ニ細胞ヲ斃死セシメ、角化セル表皮ノ剝脫ヲ來ス。是レ「サリチール」酸ガ角質溶解藥トシテ、又ハ諸種寄生性皮膚疾患ニ對シ應用セラル、所以ナリ。

之ニ反シ其鹽ハ中性ニシテ且脂樣質ニ溶解セザルガ故ニ殆ド局所作用ヲ有セズ。其防腐作用モ亦微弱ナリ、一%以上ニテ始メテ防腐作用ヲ呈ス。之ヲ内服スレバ迅速ニ吸收セラレ、局所作用ト至ク其本態ヲ異ニセル遠達作用ヲ現ハス。遊離酸モ吸收セラレ、バ「ナトリウム」鹽トナルガ故ニ其結果ヲ同ジフス。

動物試驗ニ徵スルニ「サリチール」酸ハ先ヅ中樞神經系ヲ興奮セシメ、發揚状態、呼吸促進、反射亢進、痙攣ヲ來シ、後之ヲ麻痺セシム。

「サリチール」酸及其鹽ハ解熱作用ヲ有ス。熱性患者ニ適量ヲ與フルト、キハ三四十分ニシテ熱下降ヲ始メ、其低下スルコト二度以上ニ達ス。其作用ハ急劇ニシテ、下降ニハ甚シキ發汗ヲ伴ヒ、上騰ニハ戰慄ヲ來ス、且屢、副作用ヲ呈スルガ故ニ解熱藥ト

解熱作用

「サリチール」酸劑

シテ使用セラル、コト稀ナリ。

「サリチール」酸ノ解熱作用ハ「キニーネ」ト其趣ヲ異ニス。新陳代謝試驗ニ據ルニ尿中ノ全窒素量並ニ硫酸磷酸量ヲ増大ス。殊ニ尿酸ノ増率著大ニシテ、往々五〇%以上ニ達ス。是レ明ニ蛋白分解ノ亢進ヲ證明スルモノニシテ、從テ「サリチール」酸ノ解熱ハ體中ニ於ケル溫熱發生ノ抑制ニ在ラザルヲ知ルベシ。之ニ反シ解熱時ニハ皮膚血管擴大シ甚シキ發汗ヲ來スガ故ニ其原因ハ「アンチピリン」類ノ如ク熱輸出ノ増大ニ由リ體溫ヲ下降セシムルモノナラン。無熱者ニ於テハ過大ナル熱輸出アルモ溫熱調節中樞ノ機能ニ山リ熱發生ノ増大ヲ以テ之ヲ補フガ故ニ體溫下降ヲ來スコトナシ。

鎮痛作用等

「サリチール」酸モ亦他ノ解熱藥ノ如ク中樞ニ作用シテ鎮痛ノ効アリ。神經痛等ニ應用セラル、又膽汁ノ分泌ヲ亢進セシム(スターデルマン Stadelmann) 故ニ膽石症、加答兒性黃疸ニ試ミラル、又多少ノ利尿作用アリ、且尿ヲ防腐ス。

排泄

吸收セラレタル「サリチール」酸ハ一部分ハ「グリココル」ト抱合シ所謂「サリチール」酸 Salicyl-glycineトナリ、大部分ハ原形ノマ、尿中ニ排泄セラル。其際酸性尿ニ由テ分解セラレ遊離酸トナリ、腎臟ニ局所作用ヲ及ボシ、爲メニ蛋白、血液圓柱等ヲ尿中ニ出現セシムルコトアリ。又尿ノ防腐作用モ亦該遊離酸ニ依ルモノナリ。故ニ此作用ハ尿ノ酸度ト比例シ、大人等ニテハ著ク、兎ノ如キ「アリカリ」性ノ尿ヲ排スルモノニテハ殆ド缺如ス。

「サリチール」酸尿ハ之ニ過クロール酸液ヲ加フレバ紫紅色ヲ呈ス。腎臟患者ニシテ「サリチール」酸ノ排出障碍セラル、モノニハ容易ニ中毒ヲ發ス。

急性關節「ロイマチス」ニ對シテ特效アリ、單ニ解熱ノ効アルノミナラズ疼痛ヲ去

便癩質斯ニ對スル作用

リ腫脹ヲ減ジ加之全經過ヲ短縮緩解ス。「アンチピリン」劑ノ如キハ多少類似作用ヲ有スルモ多クハ一時ノ症候的影響ニシテ全經過ヲ左右スルコト殆ドナシ。「サリチール」酸ハ之ニ反シ恐ラク直接ニ其病原ヲ撲滅スルモノナラン。

「サリチール」酸ハ比較的無害ナル「ナトリウム」鹽トシテ體中ヲ循環ス。而シテ「ナトリウム」鹽ハ一%以上ノ濃度ニ非ンバ細菌ノ發育ヲ抑制スルコトナシ。而モ斯ノ如キ濃度ハ人體ノ之ヲ耐ヘ得ザルヤ勿論ナルガ故ニ之ニ由テ「ロイマチス」病原體ヲ撲滅スルコト不可能ナルガ如シ。然レドモ「サリチール」酸鹽ト同時ニ多量ノ炭酸存在スルトキハ著シク防腐力ヲ増大ス。ピンツ Benz ニ據ルニ〇五%ノ「サリチール」酸「ナトリウム」ハ細菌ノ發育ニ影響セザルモ、二〇%ノ炭酸ヲ加フルトキハ永久ニ之ヲ抑制スト。是レ「サリチール」酸ノ炭酸ニ由テ遊離セラルルガ爲ナラズシテ何ゾヤ。又「サリチール」酸「ナトリウム」ヲ與ヘタル動物ノ血液ニハ遊離酸ヲ證明セザルモ、之ヲ窒息セシメ其血液ヲ「エーテル」ト共ニ震盪スルトキハ遊離「サリチール」酸ノ之ニ移行スルヲ見ル。蓋シ窒息セル血液ニハ多量ノ炭酸「エーテル」ニ據レバ一二%ニ達スヲ含有スルガ故ニ「サリチール」酸鹽ガ之ニ由テ分解セラル、爲メナラン。

要スルニ炭酸ノ分壓一定度ニ達スルトキハ「サリチール」酸鹽ハ分解セラレ遊離酸ヲ發生シ爲メニ著シキ防腐作用ヲ有スルニ至ルモノナラン。然リ而シテ激衝セル組織ハ多量ノ炭酸一七五%ニ至ルト云フヲ含有スルガ故ニ遊離酸ノ發生スベキハ當然ナリトス。即チ「サリチール」酸ハ一定ノ條件ノ下ニ體中ニ於テ消毒力ヲ探ルモノナリ。

「サリチール」酸劑

等炭酸ノ分壓大ナル場所ニ於テノミ遊離狀トナリ始メテ脂樣質ニ可溶性トナリ該部ニ固定セラル、ガ故ニ炎症組織ニハ漸次有効ナル遊離酸ノ蓄積スベキ理ナリ。サリチル酸ノ急性 節儉麻質斯ノ病原ニ對スル殺菌作用ハ蓋シ斯ノ如クシテ行ハル、モノナラン。故ニサリチル酸ノ作用ハ炎症ノ劇烈ナルニ從ヒ愈著シク之ニ反シ炎症微弱ニシテ組織内ノ炭酸量一定度ニ達セザルトキハ殆ド防腐作用ヲ呈セズ。是レ本藥ガ慢性ロイマチス竝ニ心臟ノ内膜又ハ實質等ニ發ヒルロイマチス性病變ニ對シ影響シ能ハザル所以ナリ。後者ニ在テハ縱ヘ炎症劇烈ナルモ血液ノ循環佳良ナルガ故ニ炭酸蓄積ノ餘地ナシ。

副作用

「サリチル酸」又ハ其鹽ヲ用ユルトキハ副作用トシテ最屢耳鳴、重聽ヲ來ス(内耳ノ充血竝ニ出血ヲ見ルコトアリ)其他皮膚熱感發汗、發疹、頭痛、視野暗黒等アリ。大量ハ澀語發揚呼吸促進、心臟衰弱ヲ發シ、後麻痺狀トナリ呼吸ヲ靜止セシム。衰弱セル患者ニテハ四〇—一五〇ニシテ既ニ危險ナル虛脫症狀ヲ呈スルコトアルモ、致死量ハ約一〇〇—一二〇ノ間ニ在ルガ如シ。腎臟竝ニ心臟ニ疾患アルモノニハ其使用ヲ慎ムベシ。

「サリチル酸」鹽ヲ與フルモ胃酸ニ由テ遊離セラレ、胃粘膜ヲ刺戟シ惡心嘔吐ヲ發シ、然ラザルモ甚シク食慾ヲ害ス。アルカリ劑ヲ伍用シテ之ヲ防遏スベシ。中毒ニ際シテモアルカリ劑ハ尿ノ酸性ヲ減弱セシメ其刺戟ヲ防ギ且其排泄ヲ促進スルノ利アリ。

▲「サリチル」酸 $\text{Acidum salicylicum}$ $\text{C}_6\text{H}_4(\text{OH})_2$

白色絨狀ノ結晶或ハ白色極微細ノ結晶粉ヲナシ。臭氣ナク、味甘酸ニシテ稍苛辣ナリ。約五百

分ノ水ニ溶解シ、酸性ノ反應ヲ徵ス。

從前ハ *Gaultheria procumbens* ヨリ得タル油 *Spiraea ulmaria* ノ花竝ニ *Salix* 屬諸種植物ノ皮ヨリ製セリ。前者即ガウルテリア油ハ主トシテ「サリチル」酸メチルエステル $\text{C}_6\text{H}_4(\text{COOCH}_3)_2$ ヨリ成リ。後二者ハ「サリチン」Salicinナル糖原質ヲ含有ス。「サリチン」ハ酸酵素ニ由リ糖ト「サリゲニン」Saligenin (化學上「サリチル」アルコホル) $\text{C}_6\text{H}_4(\text{CHOH})_2$ ナルトニ分解ス。「サリゲニン」及「ガウル」テリア油ハ之ヲ酸化セシムレバ容易ニ「サリチル」酸トナル。近時ハ「コルベ」Kolbeノ發明セル法ニ從ヒ人工的ニ石炭酸ト炭酸ノ反應ニ由リ製ス。

防腐、鎮痒、制汗、角質溶解等ノ目的ニ外用セラル、ノミ防腐的洗滌液トシテハ口腔、膀胱、胃等ニ對シ三百乃至千倍液ヲ用ユ。寄生性皮膚疾患ニハ十乃至五十倍軟膏ヲ、瘙痒ニハ酒精溶液「サリチル」酸二〇、薄荷腦二〇、酒精九七〇ヲ、濕疹ニハ「バスタ」(「サリチル」酸二〇、亞鉛華、澱粉各二五〇、ワゼリン適宜、全量一〇〇〇トナス)トシテ、多汗症ニハ撒布料「サリチル」酸一分ヲ水三百分ニ溶解シ、百分ノ澱粉ヲ加ヘ、重湯煎上ニ乾燥セシム。又ハ「サリチル」滑石散トシテ、疣及魚眼等表皮肥厚ニハ一〇—二〇%「サリチル」酸「コロヂウム」又ハ「サリチル」酸軟膏ヲ貼布ス。

飲食物貯藏藥トシテ少量ノ「サリチル」酸ハ比較的無害ナリ(「コルベ」ハ一日一〇—一五ヲ九ヶ月間使用セルモ何等障害ナカリシト云フ)ト雖モ使用長年月ニ亘ルトキハ榮養ヲ害シ又ハ腎臟ノ障害ヲ惹起スルノ虞ナシトセズ、大量ハ勿論直接ノ危険アリ。

▲「サリチール」滑石散 Pulvis salicylicus cum Talco

「サリチール」酸三分、澱粉十分、滑石八十七分ヲ取り混和シ製セル白色ノ粉末ナリ。
足汗、濕疹等ニ撒布料トス。

▲「サリチール」酸綿 Gossypium salicylatum

百分中約五分ノ「サリチール」酸ヲ含有ス。

▲「サリチール」酸「ガーゼ」 Tela salicylata

百分中約五分ノ「サリチール」酸ヲ含有ス。

▲「サリチール」酸「ナトリウム」 Natrium salicylicum $C_6H_4(OH)COONa$

白色無臭鱗屑狀ノ結晶或ハ結晶性粉末ニシテ、味ハ甘鹹稍辛辣ナリ。一分ノ水竝ニ六分ノ酒精ニ溶解ス。

新鮮ナル急性關節、僂麻質斯ニ最有効ナリ、通常初メニ少量ヲ試量トシテ與ヘ特異質ノ有無ヲ確メ、次デ一日量五〇—一〇〇ヲ「オブラート」ニ包ミ又ハ水劑膠囊劑等トナシニ乃至數回ニ分服セシメ、一二日ニシテ症狀ノ減退スルヤ漸次減量スベシ、重炭酸「ナトリウム」ヲ伍スルヲ可トス、内服後胃痛ヲ來スモノニハ殊ニ然リ、甚シク其内服ヲ嫌忌スルモノ、若クハ不快ナル副作用ヲ來ス場合ニハ浣腸劑トシ又ハ「アスピリン」等他ノ製劑ヲ試ムベシ、關節痛ヲ伴フ僂麻質斯急性扁桃腺炎竝ニ僂麻質斯急性腎臟炎ニモ亦確効アリ、但他ノ腎臟疾患ハ寧ロ本藥ノ禁忌症ナルコトヲ忘ルベカラズ。

トヲ忘ルベカラズ。
亞急性竝ニ慢性僂麻質斯ニハ全ク無効ニ非ザルモ其影響微弱ナリ、少量ヲ持長スルヲ要ス、尿酸性關節炎ノ發作ニ有効ナリ、然レドモ是レ恐ク單ニ對症的影響ニ止ルナラン、尿中ノ尿酸量ヲ増大スルモ是レ尿酸發生ノ増加ニ伴フ現象ニシテ血中ノ尿酸量ヲ減ズルコトナカルベク、從テ痛風ノ原因ニハ作用スルコトナシ、淋毒症、關節炎、副辜丸炎ニ對シテモ亦對症のニ鎮痛ノ効アルノミ、神經痛ニ對シテモ亦然リ。

慢性僂麻質斯、神經痛等ノ内用ニテ奏効セザルモノハ血管内注射ニ依テ輕快スルコトアリ、急性炎モ亦之ニ由テ一時其症狀ヲ消失ス、其法左ノ如シ。

處方 「サリチール」酸「ナトリウム」二七五、「カフェイン」二五、水一〇〇〇、右一乃至一五立方仙迷ヲ一日一乃至二回靜脈内ニ注射ス。

又三%液ノ關節内注射ヲ試ミタル人アリ。

解熱藥トシテハ罕ニ感冒ニ對シ解熱發汗ノ目的ニ内用セララル、ノミ、漿液性肋膜炎ニ著ク滲出ヲ減少セシムルコトアリ、其原因不明ナルモ一部分ハ其利尿作用ニ因ルナラン、膽石症、加答兒性、黃疸ニ之ヲ使用スルハ理由ナシトセズ、動物試驗ニテ膽汁ノ分泌ヲ亢進ス。

糖尿病ニ對シテハ特殊ノ作用ナキモ、之ニ附隨スル瘙癢、神經痛、煩渴、多尿等ヲ輕

「サリチール」酸劑

快ス糖モ食慾障害ノ爲メニ多少減量スルコトアルベシ又單純尿管崩症ニ試ム
腦脊髓膜炎破傷風等ニ試ミラル理由詳ナラズ眼科ニ於テ虹彩毛樣炎ニ内用セ
シムルハ其發汗作用アルガ爲メナラン

以上内服ノ量ハ通常一回〇・五—二・〇ヲ以テ足レリトス。

▲サリチール酸ナトリウム錠 *Pastilli Natrii salicylici*

一箇中〇・五ノサリチール酸ナトリウムニ含有ス。

△サリチール酸リチウム *Lithium salicylicum*

尿酸性關節炎ニ〇・五—一・〇ヲ一日數回内服。

「サリチール」
酸鹽ノ代用藥

「サリチール」酸鹽ノ副作用並ニ不快ナル味ハ使用上尠カラザル障礙ヲナス左ノ
新藥ハ比較的是等厭フベキ性質ヲ缺ク即チ多クハ胃液ニ溶解セズ腸ニ至リ分解
吸收セラル、ガ故ニ胃粘膜炎ヲ犯サズ又吸収緩慢ナルガ故ニ耳鳴等ヲ來スコト稀
ナリ然レドモ從テ急性炎症ニ對シ速効ヲ呈スルコト「サリチール」酸ナトリウムニ
如カズ。

▲サリチール酸フェニール「サロール」 *Phenylum salicylicum (Salolum)*



白色結晶性ノ粉末ニシテ弱キ芳香性ノ氣味ヲ有シ水ニ殆ド溶解セズ。

「サリチール」酸(六〇%)ト石炭酸(四〇%)トヨリ成ル「エステル」ナリ胃ニ於テハ殆ト
溶解セズ腸ニ至リ鹼化セラレテ上記二者ニ分解ス即チ



故ニ腸ノ内容ヲ防腐シ且兩者ノ吸收作用ヲ兼有ス。至ク胃ヲ害セズ又「サリチー
ル」酸ノ副作用ヲ來スコト極メテ稀ナルモ、大量ハ石炭酸ノ中毒ヲ起スベシ。
急性偃麻質斯ニ對スル効力ハ少シク「サリチール」酸鹽ニ劣ルト雖モ、慢性症ニハ
寧ロ之ヲ持長シ得ルノ利益アリ。

「サロール」ノ分解ハ極メテ徐々ニシテ、一部分原形ノマ、便中ニ排泄セララル(時ト
シテ腸結石ヲ作ルコトアリ)故ニ全腸管ノ輕キ防腐藥トシテ使用セララル。然レドモ
之ニ由テ腸壁扶斯虎列刺等ノ病原ガ撲滅セララル、コトナカルベシ。又繼蟲驅除ノ
効アリト云フ。

「サロール」ハ持長セラレ得ルガ故ニ尿管防腐藥トシテ殊ニ腎盂炎及膀胱加答兒ニ
賞用セララル。能ク尿ノ「アムモニア」性臭氣ヲ去リ、細菌數ヲ減ジ、溷濁ヲ除ク。

通常一〇ヲ一日三乃至四回内用セシム。急性關節炎ニハ一日量六〇—八〇ニ達
ス。

「サロール」ハ胃ヲ通過シ腸ニ至リ始テ崩壞シ作用スベキ所謂小腸丸ノ丸衣トナス。又エー
ワルド *Ewald* ハ之ヲ以テ胃ノ運動ヲ檢セントセリ。其法試食ニ「サロール」ヲ加ヘ攝取後七十

「サリチール」酸劑

五九

五分ニ至ルモ尿中ニ「サリチール酸」反應(過)クロール液ヲ加ヘ紫色トナルヲ呈セザルトキハ胃ノ運動障害アルモノト診斷スルナリ。然レドモ「サロール」ハ多少胃中ニ溶解スルガ故ニ完全ノ法ニ非ラズ。

外用ニハ皮膚防腐藥トシテ、又諸種皮膚病ニ對シ、五%「アノリン」軟膏トナシ貼布シ又ハ十乃至百倍ノ澱粉ヲ加ヘ撒布ス。

▲「アセチールサリチール酸」(アスピリン) *Acidum acetosalicylicum (Aspirin)*



白色結晶性ノ粉末ニシテ殆ド臭氣ナク水ニ僅微ニ溶解ス。

胃ヲ通過シ腸ニ至リ徐々ニ醋酸ト「サリチール酸」トニ分解シ作用ス。故ニ胃ヲ害セズ、又副作用少シ、作用緩和ナリ。

急性關節炎ニ對シテハ「サリチール酸」ナトリウムニ比シ少シク遜色アルモ慢性關節炎、筋痠、麻痺、斯、神經痛、頭痛、肋膜炎等ニ對シテハ無害ノ良劑タリ(一〇)ヲ散劑トナシ一日三四回内服。

△「ノウアスピリン」 *Novaspirin*

「メチレン」枸橼酸ノ「サリチール酸」エステルナリ。無色結晶性ノ粉末ニシテ弱酸味ヲ帶ブ。水ニハ殆ド溶解セズ。

「アスピリン」ニ比シ作用更ニ緩和ナリ。故ニ急性疾患ヨリモ寧ろ慢性痠痛、麻痺、斯ニ適ス。鎮痛、鎮靜作用アリ。一〇)ヲ錠劑又ハ散劑トナシ、一日四五回内用。

△「サロフェン」 *Salophen*

「アセト・ピラミド・サロール」 $\text{C}_6\text{H}_4 \begin{array}{l} \diagup \text{OH} \\ \diagdown \text{COOC}_2\text{H}_5 \end{array}$ ナリ。無色無臭無味ノ結晶ニシテ水ニ溶解セズ。

「サロール」ニ似テ一層無害ナリ。作用緩和ニシテ急性慢性關節痠痛、麻痺、斯ニ使用セラレザルニ非ザルモ、多クハ初メ「サリチール酸」ニテ治シタルモノ、再發ヲ防グニ用キラル。解熱、鎮痛作用著シ。一〇)一・五ヲ一日三四回内用。外用ニハ乾癬、痒疹等ニ一%軟膏トナシ塗布ス。

△「チプロサル」 *Diposal*

「サリチール酸」ノ「サリチール」エステルナリ。無色ノ結晶ニシテ水ニ溶解シ難シ。腸ニ至リ分解シテ二分子ノ「サリチール酸」ヲ生ズ。故ニ「サリチール酸」ノ含有量最大ナリ。用量一回〇・五—一・〇、一日三—六。散又ハ錠劑トナス。

△「チアスピリン」 *Diaspirin*

琥珀酸ノ「サリチール」エステルナリ。用量一回一〇、一日數回錠劑トナシ内用。

△「ヴェスピリン」 *Vesipyrin*

「アセチールサロール」 $\text{C}_6\text{H}_4 \begin{array}{l} \diagup \text{OCH}_3\text{CO} \\ \diagdown \text{COOC}_2\text{H}_5 \end{array}$ ナリ。無色無味ノ結晶ニシテ微ニ芳香ヲ有ス。水ニ溶解セズ。

腸ニ至リ「サリチール酸」、石炭酸及醋酸ニ分解ス。極メテ無害ナリ。適應症「サロール」ノ如シ。〇・五—一・〇)ヲ散又ハ錠トナシ、一日數回内用又「カテーテル」挿入ニ際シ一〇

「サリチール」酸劑

一〇〇ヲ與フルトキハ細菌混入ニ因スル膀胱炎ノ續發ヲ防遏シ得ト云フ。

△「アガチン」 Agathin

「サリチール・メチール・フェニール・ヒドラチン」 $C_6H_5 \cdot \bigvee_{CH_2} CH_2 \cdot N_2O_2 \cdot CH_3$ ナリ。無色無臭無味ノ結晶ニシテ水ニ溶解セズ。

僕麻質斯性疾患、神經痛等ニ對シ〇・一—〇・五ヲ一日二乃至三 内用。

△「サラセトール」(サラントール) Salacetol (Salantol)

「アセトン」ノ「サリチール」酸エステルナリ。白色錠狀ノ結晶ニシテ水ニ溶解セズ。

「サロール」ノ無害ナル代用品ナリ。腸中ニテ「サリチール」酸ト「アセトン」トニ分解ス。「アセトン」ハ「サロール」ノ分解ニ由テ生ズル石炭酸ヨリモ無害ナリ。

鎮痛解熱ノ効アリ。又腸消毒藥トシテ小兒ノ夏期下痢等ニ用ユ(〇・五ヲ一日二乃至三回)。

外用ニハ五—一〇%軟膏トナス。

△「ベンツォザリン」 Benzosalin

「ベンチール・サリチール」酸「メチール・エステル」ナリ。無色ノ結晶ニシテ水ニ溶解シ難シ。一回量〇・五—一〇作用極メテ緩慢ナリ。

△「インドフォルム」 Indoform

「フォルムアルデヒド」ト「アスピリン」トノ化合物ナリ。無色結晶性ノ粉末ニシテ味ハ弱酸ニシテ收斂性ナリ。冷水ニハ溶解セズ。

僕麻質斯痛風、神經痛ニ〇・五—一〇ヲ食事中又ハ其直後ニ内用。

△「サリゲニン」 Saligenin

「サリチン」ノ分解産物ニシテ「サリチール・アルコホル」ナリ。無色ノ粉末ニシテ熱湯ニ溶解ス。前同ノ病症ニ一回〇・五—一〇ヲ内服セシム。

△「サリフォルミン」 Saliformin

「サリチール」酸「ウロトロピン」ナリ。無色ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス。微ニ酸味ヲ帶ブ。

「ウロトロピン」ヲ含有スルガ故ニ主トシテ尿路ノ細菌性疾患並ニ尿酸結石、痛風ニ用ユ。用量一回〇・五—一〇。水劑トナス。

「サリチール」酸ヲ軟膏トナシ皮膚ニ塗布スルトキハ能ク吸收セラレ、尿ニ「サリチール」酸反應ヲ與フ而シテ往々關節等ノ僕麻質斯性疾患ニ對シ迅速ニ止痛ノ効ヲ現ハスコトアリ。蓋シ局所ノ皮膚刺激作用モ同時ニ奏効ノ一因ヲナスナラン。左ノ製劑ハ前記内用ト同一ノ適應症ニ外用セララルモノナリ。

△「ガウルテリア油」 Gaultheriaöl

「サリチール」酸「メチール・エステル」 $C_6H_5 \cdot \bigvee_{COOH} COOH_3$ ナリ。無色或ハ微黃色油樣ノ液ナリ。容易ニ酒精「エーテル」等ニ溶解ス。

刺激性ノ臭氣アリテ頭痛ヲ喚起スルコトアルガ故ニ多ク行ハレズ。痲毒性急性副率丸炎ニ塗布(二十滴ヲ倍量ノ「オレーフ」油ニ溶解シテ「塗布シ」ゴム「紙」等ニテ氣密

外用「サリチール」酸劑

「サリチール」酸劑

ニ蔽フシ又軟膏トナシ痒疹等ニ用ユ。

△「メソタン」(エリチン) Meotan (Erin)

「サリチール酸」メトキシメチールエステル $C_6H_5 \begin{matrix} OH \\ \diagup \\ O \\ \diagdown \end{matrix} COOCH_3$ ナリ。帶黄色油状ノ液ニシテ弱芳香ヲ有ス。水ニ溶解シ。雌キモ酒精「エーテル」「クロロホルム」油類ニ溶解ス。

最モ廣ク行ハル。「サリチール酸」ノ外用藥ナリ。皮膚ヨリ迅速ニ吸收セラレ、體中ニテ「サリチール酸」「フォルムアルデヒド」及「メチールアルコール」ニ分解シ。塗布後一時間ニシテ既ニ尿ニ「サリチール」反應ヲ與フ。且同時ニ皮膚ヲ刺戟シ。此兩性相俟テ「癩麻質」斯性疹痛ニ奏効ス。

急性ノ外亞急性及慢性ノ「癩麻質」ニ對シテモ有効ナリ。且該塗布療法ヲ併用スルトキハ「サリチール」劑ノ内用量ヲ節減スルモ尙奏効ス。其他ノ適應症凡ソ内用藥ノ如シ。用法ハ一日乃至二回、一茶匙ヲ取り同量又ハ倍量ノ「オレーフ」油ヲ和シ患部ノ皮膚ニ輕ク塗布。塗擦ニ非ラズスルニ在リ。

副作用トシテハ初期ニ痒痒灼熱赤斑等ヲ見ルコトアリ。又數日之ヲ持長スルトキハ蕁麻疹ヲ來ス。斯ノ如キ刺戟症狀アルトキハ「オレーフ」油ニテ更ニ之ヲ稀釋スベシ。

△「スピロサル」 Spirosal

「サリチール酸」モノグリコール「酸」エステルナリ。無色無臭ノ液體ニシテ水ニ溶解シ。難シ

關節炎神經痛肋膜炎等ニ有効ナリ。副作用ナク寧ロ「メゾタン」ニ優ルト云フ。一日一回五〇ヲ同量ノ酒精ニテ稀釋シ。塗布又ハ塗擦ス。

△「サロクレゾール」 Salokresol

「サリチール酸」クレオソートエステルナリ。褐色油状ノ液體ニシテ弱「エーテル」様ノ香氣アリ。塗布スルトキハ清涼ノ感ヲ覺フ。

「サリチール酸」ヲ分解スルコト早く。從テ有効ナル藥物ナリ。通常ノ適應症ノ外丹毒・腺病性淋巴腺炎・肺結核等ニモ費用セラル。未ダ認ムベキ副作用ヲ見ズ。一日ニ五〇—一五〇ヲ純品ノマ、塗布ス。

△「ウルマレン」 Uimaren

諸種「サリチール酸」エステルノ混合物ナリ。重キ帶黄赤色ノ液ニシテ水ニ溶解セズ。一日ニ純品五〇—一五〇ヲ塗布シ。又ハ三〇%軟膏トナス。

△「グリコサル」 Glycosal

「サリチール酸」グリセリンエステルナリ。無色ノ結晶ニシテ冷水ニハ一%熱湯及酒精ニハ容易ニ溶解ス。

一〇—二〇%酒精溶液之ニ一〇%ノ「グリセリン」「テルペンチン」油或ハ「クロロホルム」ヲ加フレバ吸收ヲ促進スト云フ。トナシ塗布ス。「メゾタン」ニ比シ奏効遅ク且弱キガ如シ。

又〇五ヲ毎二時ニ内用セシムルコトアルモ特ニ優秀ノ點ナシ。

「サリチール酸」

△「プロトサル」 Protosal

「サリチール酸」グリセリンフォルマルルエステルニシテ、無色油状ノ液ナリ。「メゾタン」ニ比シ効力劣ル。但局所刺戟少シ。「プロトサル」ニ五〇酒精ニ二五「オレーフ」油ニ二五〇。右外用。

△「サリット」 Salit

「ホルネオール」サリチール酸エステルナリ。油状ノ液體ナリ。

塗布後迅速ニ尿ニ現ハル。有効ナル痲瘋質斯藥ナリ。副作用トシテ稀ニ掻痒性濕疹ヲ來ス。一日量二五—五〇同量ノ「オレーフ」油ヲ以テ稀釋シ塗布ス。

△「サレン」 Salen

「サリチール酸」エチールグリコールエステルト「メチールグリコールエステル」ノ混合物ナリ。油状ノ液體ナリ。

特色ハ無刺戟ナルコトナリ。然レトモ同時ニ効力微弱ナリ。「クロ、フォルム」及「オレーフ」油ノ合劑ノ等分ヲ以テ稀釋シ、又ハ純品ヲ直チニ塗布ス。

△「ロイマサン」 Rheumasan

一〇%ノ「サリチール酸」ヲ含有スル石鹼クリームナリ。

△「エステルロイマサン」 Esterrheumasan

「ロイマサン」ニ「サロール」等ノ「サリチール酸」エステルヲ加ヘタルモノナリ。

兩品共ニ一日一二回五〇—一〇〇ヲ塗擦ス。又皮膚疾患ニ用ユ。

其他多數ノ内用及外用「サリチール酸」製劑アルモ皆大同少異ニシテ之ヲ舉グルノ必要ヲ見ズ。

安息香酸ノ作用

安息香酸 Acidum benzoicum C_6H_5COOH 、其作用「サリチール酸」ニ類シ、遊離酸ハ防腐作用ヲ有シ、其鹽ハ解熱ノ効アリ。又痲瘋質斯ニ作用スルモ其力遙ニ「サリチール」劑ニ劣ル。

少量ハ之ヲ内服スルモ認めベキ症狀ヲ來サズ。一〇〇—一五〇ニ至ルモ只頭部ノ重感冒腸ノ刺戟、頸部ノ苛辣感及粘液増分泌ヲ見ル。動物ニ大量ヲ與フレバ粗石炭酸類似ノ中毒症狀、痲癩、後痲癩體温下降、呼吸靜止ヲ發ス。

腎臟ニ於テ「グリコロール」ト抱合シ、馬尿酸トナリ尿中ニ排泄セラレ、尿中ノ尿酸量ニハ影響ナシ。

▲安息香酸 Acidum benzoicum C_6H_5COOH

白色或ハ類黄色ノ小葉狀結晶若クハ鍼狀結晶ニシテ冷水ニ僅少ニ溶解ス。

現今只祛痰藥トシテ分泌過多ノ氣管支炎ニ用キラル、ノミ蓋シ醫咳ヲ促シ其喀出ヲ容易ナラシムルニ因ルカ。用量〇.一—〇.五、一日數回散劑トナシ内用。外用ニハ稀ニ尿道腔等ノ防腐洗滌ニ四百乃至千倍液ヲ使用ス。

▲安息香酸「ナトリウム」 Natrium benzoicum C_6H_5COONa

無色無晶形若クハ結晶性ノ粉末ニシテ二分ノ水ニ溶解ス。

「サリチール」酸劑

尿酸素質ニ對シ(一日數回、〇・五—一〇)内用使用セラレタルモ、今行ハレズ。稀ニ急性關節炎ニ一日量六〇—八〇ヲ試ム、其効遠ク「サリチール」劑ニ及バズ。

▲安息香酸アムモニウム *Ammonium benzoicum* $C_6H_5COONH_4$

液板狀結晶或ハ結晶性粉末ニシテ六分ノ水ニ溶解ス。

應用上ニ同シ

▲安息香 Benzoe

扁平或ハ圓形褐色ノ塊片ニシテ内部ハ白色ヲ呈ス。之ヲ熱スンバ佳快ナル香氣ヲ發シ、強ク熱スレバ刺激性ノ蒸氣ヲ發ス。約二〇%ノ安息香酸ノ外肉桂酸及「エステル」ヲ含有ス。今日ハ只脂肪ノ防腐藥等トシテ使用セララル、ノミ。

▲安息香丁幾 *Tinctura Benzoes*

五分ノ酒精ヲ以テ製シタル帶黃赤褐色ノ液ナリ、水ヲ加フレバ乳濁ス。反應強酸性ナリ。防腐性アリ、火傷、創傷等ニ使用スルコトアリ。

三 水銀劑

水銀劑ハ梅毒ノ特效藥ナリ。

梅毒ハ一種ノ螺旋菌「スピロヘーテバリダ」*Spirochaete pallida*ニ由テ惹起セララル、慢性傳染病ナリ。之ニ感染スルトキハ局部ニ初期硬結ヲ來シ第一期梅毒、次デ皮膚及粘膜ニ發疹シ(第二期梅毒)、後身體各部ノ組織内ニ慢性炎症膿腫ヲ發ス(第三期梅毒)而シテ終ニ續發症トシテ骨髄癆等ヲ發ス。

水銀劑ノ梅毒作用

得惡臭劑ハ如何ナル化學的結合ニテモ、又如何ナル形狀ニ於テ使用セララル、モ梅毒來ス、是ト總ノ時期ニ作用シ、全症狀ヲ輕快全治セシム。加之潜伏の梅毒ニ對シテモ有効ナルノ確證アリ。而シテ其奏効ノ度ハ身體ガ長クナルベク多量ノ水銀ヲ以テ飽和セララル、ト否トニ關ス。

水銀劑ハ之ヲ適法ニ使用スルトキハ遂ニ全ク梅毒ノ病原ヲ撲滅スルコト疑ナシ然レドモ水銀ガ一般原形質毒トシテ直接ニ病原菌ヲ中毒斃死セシムルモノナルカ、又ハ抗體ノ發生ノ促進或ハ組織細胞ノ抵抗力ノ増大等ニ由リ、間接ニ影響スルモノナルカハ不明ナリ。

局所作用及防腐作用

水銀劑ハ局所及吸收ノ二作用ヲ有ス。水ニ溶解シ容易ニ水銀「イオン」ヲ解離スル性ヲ有スル單純鹽(例ヘバ昇汞)ハ直接ニ蛋白質ト結合シテ之ヲ沈澱セシム。然レドモ其沈澱ハ食鹽及蛋白ノ過剰ニ溶解スルガ故ニ痂皮ヲ結バズ、從テ毒液ノ侵蝕ハ障碍ヲ蒙ラズ能ク周圍ニ蔓延シ、廣汎部ヲ腐蝕ス。而シテ斯ノ如キ物質ハ又強大ナル殺菌作用ヲ有ス。「スブラミン」「アステロール」ノ如キ複鹽ニシテ蛋白質ヲ沈降セシメザルモノト雖モ、亦其原形質作用ニ由テ組織細胞並ニ細菌ヲ中毒ス。即チ水銀劑ハ其溶解性及解離性ノ大小ニ由テ強弱不同ナリト雖モ、苟モ溶解スルモノハ多少ノ局所作用並ニ防腐力ヲ有セザルナシ(第一篇防腐藥ノ部參照)。

溶解及吸收

通常水ニ溶解セザル水銀劑酸化水銀、甘汞ノ如キト雖モ蛋白質及無機鹽ヲ含有スル組織液ニ逢フトキハ蛋白水銀食鹽トナリ徐々ニ溶解ス。金屬性水銀ノ如キモ之ヲ皮膚ニ塗擦ス

水銀劑

尿酸素質ニ對シ一日數回〇・五—一〇内用使用セラレタルモ今行ハレズ稀ニ急
性關節炎ニ一日量六〇—八〇ヲ試ム其効速ク「サリチール」劑ニ及バズ。

▲安息香酸「アムモニウム」Ammonium benzoicum $C_6H_5COONH_4$

液板狀結晶或ハ結晶性粉末ニシテ六分ノ水ニ溶解ス。

應用上ニ同シ

▲安息香 Benzoe

扁平或ハ圓形褐色ノ塊片ニシテ内部ハ白色ヲ呈ス之ヲ熱スンバ佳快ナル香氣ヲ發シ強
ク熱スレバ刺戟性ノ蒸氣ヲ發ス約二〇%ノ安息香酸ノ外肉桂酸及其「エステル」ヲ含有ス。

今日ハ只脂肪ノ防腐藥等トシテ使用セララル、ノミ

▲安息香丁醇 Tinctura Benzoes

五分ノ酒精ヲ以テ製シタル帶黃赤褐色ノ液ナリ水ヲ加フレバ乳濁ス反應強酸性ナリ。

防腐性アリ火傷創傷等ニ使用スルコトアリ。

三 水銀劑

水銀劑ハ梅毒ノ特效藥ナリ。

梅毒ハ一種ノ螺旋菌「スピロヘーテパリダ」Spirochaete pallidaニ由テ惹起セララル、慢性傳染
病ナリ之ニ感染スルトキハ局部ニ初期硬結ヲ來シ第一期梅毒次テ皮膚及粘膜ニ發疹シ(第
二期梅毒)後身體各部ノ組織内ニ慢性炎症發顯ヲ發ス(第三期梅毒)而シテ終ニ續發症トシ
テ脊髄癆等ヲ發ス。

水銀劑ノ梅毒

劑ハ如何ナル化學的結合ニテモ、又如何ナル形狀ニ於テ使用セララル、モ梅毒
如ト總ノ時期ニ作用シ、全症狀ヲ輕快全治セシム、加之潜伏的梅毒ニ對シテモ
有効ナルノ確證アリ、而シテ其奏効ノ度ハ身體ガ長クナルベク多量ノ水銀ヲ以テ
飽和セララル、ト否トニ關ス。

水銀劑ハ之ヲ適法ニ使用スルトキハ遂ニ全ク梅毒ノ病原ヲ撲滅スルコト疑ナシ然レド
モ水銀ガ一般原形質毒トシテ直接ニ病原菌ヲ中毒斃死セシムルモノナルカ、又ハ抗體ノ發
生ノ促進或ハ組織細胞ノ抵抗力ノ増大等ニ由リ間接ニ病原ニ影響スルモノナルカハ不明
ナリ。

水銀劑ハ局部所及吸收ノ二作用ヲ有ス。水ニ溶解シ容易ニ水銀「イオン」ヲ解離スル
性ヲ有スル單純鹽(例ヘバ昇汞)ハ直接ニ蛋白質ト結合シテ之ヲ沈澱セシム。然レド
モ其沈澱ハ食鹽及蛋白ノ過剰ニ溶解スルガ故ニ痂皮ヲ結バズ、從テ毒液ノ侵蝕ハ
障礙ヲ蒙ラズ能ク周圍ニ蔓延シ、廣汎部ヲ腐蝕ス。而シテ斯ノ如キ物質ハ又強大ナ
ル殺菌作用ヲ有ス「スブラミン」「アステロール」ノ如キ複鹽ニシテ蛋白質ヲ沈降セシ
メザルモノト雖モ、亦其原形質作用ニ由テ組織細胞並ニ細菌ヲ中毒ス。即チ水銀劑
ハ其溶解性及解離性ノ大小ニ由テ強弱不同ナリト雖モ、苟モ溶解スルモノハ多少
ノ局部作用並ニ防腐力ヲ有セザルナシ(第一篇防腐藥ノ部參照)。

通常水ニ溶解セザル水銀劑(酸化水銀、甘汞ノ如キ)ト雖モ蛋白質及無機鹽ヲ含有スル組織
液ニ逢フトキハ蛋白水銀食鹽トナリ徐々ニ溶解ス。金屬性水銀ノ如キモ之ヲ皮膚ニ塗擦ス

水銀劑

七九

局部作用及防
腐作用

溶解及吸收

少量ノ作用

ルトキハ恐ク脂肪酸化水銀トナリ溶解ス。而シテ其皮膚皮下、粘膜等ヨリ吸收セラ、ルハ、ヤ
 皆蛋白水銀溶液ノ形ニ於テ體中ヲ循環ス。故ニ水銀劑ハ皆同一ノ吸收作用ヲ有ス。唯其製劑
 及用法ニ由リ緩急強弱ノ差アルノミ。
 少量ノ水銀ハ藥用トシテ既ニ多少ノ効力ヲ現ハスノ量ニ於テモ、健康體ニ對シ
 テハ影響ヲ與フルコトナシ、只之ヲ持長スルトキハ往々體重ヲ増シ且赤血球ノ増
 殖スルヲ見ルコトアリ。今日迄行ハレタル新陳代謝試驗ガ確乎タル成績ヲ擧ゲザ
 ルガ故ニ、其理由ヲ説明スルコト能ハザルモ、水銀ハ少量ニテ先ヅ原形質ニ形成的
 刺戟ヲ與フルモノナラン。昇汞ガ酵母菌ニ對シ劇毒ナルニ係ラズ、極メテ微量ナル
 トキハ其酸酵作用ヲ催進スルコト蓋其類例ナラン。

動物ニ水銀ノ少量ヲ連用スルトキハ、同時ニ其反對現象トシテ組織崩潰充進セラレ酸化
 作用抑制セラ、ル。其結果、グリコゲンヲ消失シ、乳酸發生シ、正規ノ脂肪組織消失シテ臟器ノ脂
 肪變生ヲ來シ、又骨質脆弱トナリ石灰量減ズ。

中毒

中等量ヲ持長スルカ又ハ一時ニ大量ノ吸收セラ、ル、トキハ中毒ヲ發シ排泄器
 (消化管及腎臟)並ニ中樞神經系ニ關スル症候ヲ呈ス。
 水銀ハ唾液及腸液ト共ニ排泄セラ、レ原形質毒トシテ其細胞ヲ犯シ炎症及組織
 破壊ヲ來ス。其變化ハ消化管中口腔及大腸ニ甚シク、胃及小腸ニハ微弱ナリ。

註ニハ初メ鏽味ヲ覺ヘ、牽絲性ノ流涎ヲ來シ、流涎及腸液分泌増進ハ水銀中毒
 一症ニシテ分泌神經ノ刺戟ニ因ルカ、時ニ「アトロピン」ヲ以テ之ヲ抑制スルヲ

水銀性口炎内

大腸炎

得惡臭ヲ放チ、粘膜及齒齦ノ充血浮腫壞死終ニ齒牙脱落、顎骨壞疽、唾液腺腫脹等ヲ
 來ス。是レ水銀性口内炎。Stomatitis mercurialisト稱セラル、モノニシテ口腔ヲ清潔ニ
 保チ、殊ニ「クロール酸」カリウム」ノ合嗽ヲ行フトキハ一定度マデ之ヲ豫防スルヲ得。
 大腸ノ症候ハ通常下痢ヲ以テ始マリ水銀ノ大量ヲ使用セルノ後二三日ニシテ
 劇烈トナル。即チ腹痛、裏急後重ヲ伴ヒテ峻下シ、後ニハ血液、膿膜、上皮細胞等ヲ混ズ
 ルコト恰モ赤痢患者ニ於ケルガ如ク、剖檢上亦之ニ類スル大腸及盲腸ノ義膜性炎
 症及潰瘍ヲ見ル。

腎臟炎

皮膚發疹

急性中毒

以上ノ症候ハ之ヲ局所作用ニ由テ來ル急性中毒ト混同スベカラズ、後者ニ在リ
 テハ内服後直チニ主トシテ胃症(嘔吐等)ヲ發スルニ由テ之ヲ甄別スベシ。
 腎臟ニ對シ少量ノ水銀ハ利尿作用アリ、大量ノ吸收セラ、ル、トキハ急性腎臟實
 質炎ヲ發シ尿量減少シ蛋白、血球及腎細胞ヲ尿中ニ見ル。腎臟ヲ鏡檢スルトキハ往
 往壞死セル尿細管上皮細胞中ニ磷酸石灰及炭酸石灰ノ沈著シ、且尿細管腔モ石灰
 ヲ以テ填塞セラル、ヲ見ル。又昇汞ノ中毒ニ際シテハ往々糖尿ヲ見ル而シテ通常
 糖血症ヲ伴ハザルガ故ニ其原因腎臟ニ在ルモノナラン。
 皮膚ニハ稀ニ吸收中毒ノ症狀トシテ種々ノ發疹(蕁麻疹、蕈疹、赤斑)ヲ見ルコト
 アリ。

急性中毒ニ在リテハ上記腸腎ノ症狀ノ外、心臟衰弱ノ結果脈搏小弱トナリ、呼吸

水銀劑

亦弱クシテ不整トナリ、遂ニ意識溷濁シ、虛脱ノ諸徴ヲ示シ數日ニシテ斃ル。慢性中毒ニ在リテハ口内炎、下痢ノ外、水銀性發揚 *Erethismus mercurialis* ト稱セラル精神機能ノ亢進(不安、苦悶、不眠、驚怖、怒恚等)及水銀性震顫 *Tremor mercurialis* (顔面四肢ノ震顫ニ始マリ後搖蕩性ヲ帶ブルコトアリ)ヲ來シ、往々癲癇様狀態、幻覺等他ノ精神異常ヲ惹起ス且胃腸ノ障害ニ由リ榮養亦漸次不良トナリ、高度ノ貧血ヲ呈シ(水銀性惡液質 *Cachexia mercurialis*) 遂ニ衰弱ニ由リ又ハ往々肺結核等ヲ續發シ死ス。

應用

水銀劑ノ一般應用左ノ如シ

一、梅毒治療藥トシテ梅毒ト同一ノ古キ歴史ヲ有シ、而カモ今日ニ至リ尙依然トシテ其聲價ヲ失フコトナシ。奏効ノ速度ニ於テ(サルヴァルサン)ニ遜ル所アルモ、確實ナルコト竝ニ適當ノ使用法ニ於テ其無害ナルコト等之ニ凌駕スル所アルヲ見ル。

水銀劑ノ効力最顯著ナルハ第二期梅毒ナリ。初期硬結ニハ局所療法ノ外水銀ノ全身療法ヲ行フベシ、第二期現象ヲ絕對的ニ防遏スルコト能ハザルモ其發生ヲ遷延セシメ且輕微ナラシムルノ利アリ。第三期ニハ場合ニ由リ「ヨード」劑ノ寧ロ偉効ヲ奏スルコトアルヲ見ル。然レドモ「ヨード」ノ作用ハ水銀ト其趣ヲ異ニシ、病原ニ影響スルコトナク梅毒性炎症ニ由テ發生セル組織増殖ヲ破壞吸收セシムル、即チ單ニ對症の意義ヲ有スルモノニシテ、其根治ハ水銀ニ由テ始メテ行ハル、モノナラ

用法

ン。只水銀ハ梅毒ニ續發セル變性機轉ニ由テ來ル神經血管等ノ症狀ニハ多クハ無効ナリ、是レ水銀ハ病原ヲ撲滅スルモ既發ノ組織變性ヲ恢復シ得ザルガ故ナリ。但水銀ヲ以テ變性ノ増悪ヲ抑遏スルトキハ自然機轉ニ由テ多少症狀ノ輕快スルハ往々目撃セラル、所ナリ。

水銀療法ニハ内服注射、塗擦、吸入ノ四法アリ、其中塗擦法最有効ニシテ且無害ナリ。注射法ハ之ヲ筋肉内ニ行フトキハ其法簡便ニシテ且頗ル有効ナリト雖モ局所ノ症狀ヲ來シ且不慮ノ中毒ヲ起スコトアリ。内服ハ最簡便ナレドモ奏効前二者ニ劣リ、吸入ハ只稀ニ行ハラル、ノミニシテ作用緩慢ニ失ス。

塗擦

甲。塗擦療法 *Inunctionskur, Schmierkur* ハ水銀劑ヲ軟膏トナシ毎日異リタル部位ニ行フ、其法通常第一日左脚、第二日右脚、第三日左膊、第四日右膊、第五日胸腹ノ左側、第六日右側ノ胸腹ニ毎回十五乃至三十分間、成ルベク廣ク之ヲ塗擦スルニ在リ、而シテ第七日ニハ休藥シテ浴ヲ取ラシメ更ニ同一ノ順序ニ之ヲ反覆スベシ。其全療期ヲ二十乃至四十トス。此法ハ甚煩シク而モ不潔ニシテ多大ノ時間ヲ費ス等ノ不便アルモ、奏効最確實ニシテ、一週間後ニ既ニ効果ヲ示シ、再發最尠ク(塗擦療法後ノ再發ハ約九%他ノ法ニテハ一五—一八%)、胃ヲ損スルコトナク、腎炎ヲ起スコト亦極メテ稀ニ、室内ノ換氣法、口内ノ清潔等ニ注意スルトキハ厭フベキ中毒ヲ避ケ得ベキ等ノ利アリ。

水銀劑

吸收セラレタル水銀ハ大部分消化管ニ排泄セララル、ガ故ニ尿中ニ出現スル水銀量ハ直接ニ吸收セラレタル水銀量ヲ示サバ、ルモ血液中ニ循環シツ、アル量ト比例スルガ故ニ之ヲ以テ間接ニ水銀吸收ノ大小ヲ觀測スルノ標準トナスヲ得。塗療法ヲ行フトキハ一二日後ヨリ尿ノ水銀量漸次増大シテ全療法中平等ノ度ヲ保チ廢藥後漸次減少シテ數月ノ後全ク痕跡ヲ絶ス。之ヲ注射療法ニ見ルニ尿ノ水銀量極メテ不同ニシテ時トシテ速ニ非常ノ大量ヲ出シ又速ニ消失スルコトアリ。思フニ水銀劑ノ最有効ニシテ而モ最無害ナル要約ハ血液中ノ水銀ガ成ルベク長時日平等ニ中毒閾下ノ濃度ヲ保ツニ在リ。而シテ吸收ノ不整ナルモノハ時トシテ中毒閾ヲ超ユルノ虞アルモ、吸收ノ平等ナルモノハ中毒前驅症ノ發スルマデ之ヲ用ユルモ危險ヲ伴フコトナキ理ナリ。即チ塗療法ニテハ水銀ノ吸收平等ナルガ故ニ之ヲ最安全ニテ且最有効ナル方法ト云フヲ得ベシ。

注射

乙。注射ニ二法アリ一ハ皮下注射、一ハ臂筋内注射ナリ。

可溶性製劑ノ皮下注射ハ輕便ナリ例ヘハ昇汞〇〇一ヲ二十乃至四十日間毎日一回或ハ〇〇二—〇〇五ヲ一週二回注射スレバ奏効ス。副現象トシテハ注射部ニ劇痛ト滲出トヲ來シ、殊ニ後者ハ容易ニ減退セズ。此原因ハ主トシテ昇汞ニ由テ來ル蛋白沈澱ナルガ故ニ食鹽ヲ加ヘ(昇汞〇五、精製食鹽二五、水五〇〇一日一筒皮下注射)又ハ下ニ記載スル可溶性新水銀劑ヲ用フルトキハ多少之ヲ輕減

内服

スベキモ全然之ヲ防遏スルヲ得ズ。皮下注射後尿中水銀量ハ一時劇増シ又急ニ減少ス。故ニ水銀ノ作用平等ナラズ從テ中毒ヲ來スノ危險ナシトセズ。

水銀療法中最輕便ナルハ不溶性水銀劑ノ筋内注射ナリ。一週一回ヅ、約五六回ノ注射ニテ足ル。是レ藥物ガ筋内ニ貯藏セラレ漸次溶解シテ吸收セララル、ガ故ナリ。然レドモ屢、劇烈ナル疼痛ヲ伴ヒ、且注射部ニ偉大ナル腫瘍ヲ形成スルコトアリ。而シテ最長ルベキハ突然劇烈ナル急性水銀中毒ノ來ルコトナリ。是レ何等カノ事情ニ由リ多量ノ藥物ガ一時ニ溶解吸收セララル、ガ爲メナリ。

一般ニ注射療法ハ殆ト塗療法ニ等キ或ハ之ニ亞グノ確効ヲ有スルモ、吸收不整ニシテ中毒ヲ來スノ不利アリ。但其簡便ナルハ實ニ爭フベカラザルノ優點ナリ。故ニ事情ノ塗療法ヲ許サルトキハ通常此法ニ依ル。

丙。内服ニハ多ク不溶性ノ化合物ヲ用ユ。方法ハ便利ナルモ効力前二法ニ劣リ、且屢、消化器ノ障害ヲ伴フ。

丁。吸入療法。水銀軟骨ヲ塗擦スルトキハ一部分ハ皮膚ヨリ吸收セララル、モ一部分ハ體溫ニ由リ蒸發シ呼吸器ヨリ吸收セラレテ作用スルハ事實ナリ。塗療法ノ効力ノ大半ヲ後者ニ歸セントスル論者ハ之ニ代フルニ吸入法ヲ推奨ス(後節「メルクリオール」ノ條下ヲ参照セヨ)。尿中ノ水銀量ハ平等ニ増加シ且廢藥後數月間其排泄ヲ持續スル等塗療法ニ近似スルモ作用緩和ニ失スルガ故ニ他法ト

共用シテ之ヲ補ヒ、又ハ他療法ノ休止期ニ之ヲ用ユルコトアルノミ。
水銀療法ノ禁忌症ハ梅毒ニ非ザル衰弱貧血腎臟炎、口内炎腸加答兒等ナリ。妊婦ニハ毫モ顧慮ヲ要セズ、寧ロ梅毒患者ニ在リテハ流産ヲ抑遏スルノ効アリ。

梅毒ニ對シ一般ニ三乃至六週間ニ亘ル一療期ノ水銀療法ヲ終ルトキハ其諸徴ハ極メテ悪性ノモノニ非ザル限リハ全ク消失ス。然レドモ之ヲ以テ直ニ全治ト看做スコトヲ得ズ、數月若クハ數年間潛伏シテ再ビ第三期ノ症狀ヲ發スルコトアリ。多數ノ經驗ニ依リ梅毒ノ根治ニハ所謂慢性間歇的療法 *chronisch-intermittierende Kur* ヲ要ス。殊ニ初メニハ症候ノ發現スルト否トニ論ナク強力ナル水銀療法ヲ時々反覆シ後漸次療期ヲ短縮シ間隔ヲ長クスベシ。例ヘバ第一療期六乃至七週、休療一箇月、第二療期六週、休療二箇月、第三療期六週、休療三箇月、斯クノ如ク漸次遞減シテ五六年間持續スベシ。是ニ對シ反對ノ意見アルモ梅毒ノ根治ニハ此法ヲ最確實ナリトス。

二。局所消毒藥トシテ水銀劑殊ニ昇汞ノ價值ハ上篇既ニ之ヲ論ゼリ。
三。消炎藥トシテ多クハ膏劑トナシ蜂窩織炎、腺腫及腦膜漿液膜、眼等ノ炎症ニ外用ス。皮膚刺戟作用若クハ防腐作用ガ上記ノ機轉ニ多少ノ影響ヲ與フルモノナラン。

四。瀉下藥トシテ及

五。利尿藥トシテ一定ノ化合物例ヘバ甘汞ガ往々有効ニ使用セラル。

▲水銀 Hydrargyrum Hg.

銀様ノ光澤ヲ有スル液狀ノ金屬ナリ、熱スレバ全ク揮散ス。

腸管閉塞ニ對シ昔時内用一〇〇〇—三〇〇〇セシメタルモ、今行ハレズ。主トシテ左ノ製劑トナシ使用ス。

▲水銀白堊 Hydrargyrum cum Creta

水銀一分、調製白堊二分ヲ取り、研磨シ、全質均等ノ灰色ヲ呈シ、肉眼ヲ以テ水銀球ヲ見ザルニ至ル。

梅毒ニ對シ一日〇〇六—〇三ヲ内服セシム、大量ハ瀉下ノ効アリ。

▲水銀丸 Pilulae Hydrargyri

一箇中約〇〇五ノ水銀ヲ含有ス。

▲灰白軟膏 Unguentum Hydrargyri cinereum.

三〇%ノ水銀ヲ含有スル帶藍灰色ノ軟膏ニシテ、肉眼ヲ以テ水銀球ヲ見ル可カラズ。

驅梅療法ニ塗擦料トシテ最屢、使用セラル。一日三〇—五〇ヲ既記ノ方法ニ從ヒ塗擦シ、二十乃至四十日間持續ス。重症ニシテ失明等ノ恐アル場合ニハ一日七〇—一〇〇ヲ與フ。

水銀ノ大部分ハ皮膚ノ開口部ニテ脂肪酸水銀トナリ吸收セラレ、一部分ハ蒸發

シ肺ヨリ吸收セラル。

腦膜漿膜淋巴系皮下織等ノ炎症ニ消炎吸收藥トシテ其局部ニ塗擦ス又皮膚寄
生蟲殊ニ蝨類ノ驅除ニ使用セラル。

△膠様水銀(ヒルゴール) Hydrargyrum colloidal (Hyrgol)

暗灰色ノ塊ニシテ水ニ投ジテ振盪スルトキハ褐色不透映ノ液トナル。七二—八〇%ノ水
銀ノ外錫(七六%)アンモニア(二八%)等ヲ含有ス。

一〇%軟膏トナシ毎日其二〇—四〇ヲ塗擦ス。又一—二%トナシ皮下注射料ト
ナシ又ハ丸劑トナシ膠様水銀〇三白陶土「グリセリン」各適宜右爲三十九、一日三回、
一—二九ヅ、(内服セシム。

▲水銀硬膏 Emplastrum Hydrargyri

二〇%ノ水銀ヲ含有スル單鉛硬膏ナリ。

梅毒性初期硬結或ハ潰瘍等ニ外用ス。

△「メルクリオール」 Mercuriol

「アルミニウム」及「マグネシウム」ノ「アマルガム」ノ混合物ニシテ灰白色ノ粉末ナリ。四〇%ノ
水銀ヲ含有ス。

絨製袋ニ初メハ毎日後隔日ニ二〇—三〇ヲ容レ三十乃至四十日間胸部褌衣下
ニ携帯セシムルトキハ水銀蒸發シ呼吸器ヨリ吸收セラル。

△水銀石鹼 Sapo mercurialis

水銀一分「カリ石鹼」二分ヨリ成ル。

灰白軟膏ノ代用品トシテ塗擦料トス。

△灰白油 Oleum cinereum

水銀「ラノリン」各三〇「オレイン」油或ハ流動パラフィン「四〇」ヨリ成ル。

之ニ體溫ヲ與ヘ一週一回〇.一—〇.二立方仙迷ヲ臂筋内ニ注射ス。但危險ナル中
毒ヲ來スコトアリ。

△安息香灰白油 Oleum cinereum benzozatum.

前藥ニ比シ緩和ニシテ危險少シ。一週一回四分ノ一筒後二回ヅ、四分ノ一乃至半筒注射

▲油酸汞 Hydrargyrum oleinicum.

軟膏様ノ稠度ヲ有スル黄色ノ物質ニシテ微ニ灰色ヲ帶ビ僅微ノ石鹼臭ヲ有ス。

二乃至五倍ノ軟膏トナシ塗擦ス。局所ヲ刺戟スルノ性アリ。

▲赤色酸化汞赤降汞 Hydrargyrum oxydatum rubrum. HgO.

類黄赤色細緻結晶性ノ粉末ニシテ水ニ殆ド全ク溶解セズ。極量一回〇.〇二—日〇.〇六

驅梅藥トシテ内用シ、又ハ筋肉内注射トシ、或ハ梅毒性潰瘍ニ純品又ハ砂糖ヲ加
ヘ十倍ニ稀釋シ撒布スルコトアルモ概シテ其使用稀ナリ。

▲赤降汞軟膏 Unguentum Hydrargyri rubrum

水銀劑